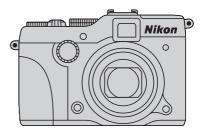
Nikon

デジタルカメラ

COOLPIX P7100

クールピクス P7100

使用説明書

Jp

商標説明

- Microsoft、WindowsおよびWindows Vistaは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Macintosh、Mac OSおよびQuickTimeは、Apple Inc.の米国およびその他の国における登録商標です。
- AdobeおよびAdobe AcrobatはAdobe Systems, Inc.（アドビシステムズ社）の商標、または特定地域における同社の登録商標です。
- SDXC、SDHC、SDロゴはSD-3C, LLCの商標です。
- PictBridgeロゴは商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
- その他の会社名、製品名は各社の商標、登録商標です。

AVC Patent Portfolio Licenseに関するお知らせ

本製品は、お客様が個人使用かつ非営利目的で次の行為を行うために使用される場合に限り、AVC Patent Portfolio Licenseに基づきライセンスされているものです。

(i) AVC規格に従い動画をエンコードすること（以下、エンコードしたものをAVCビデオといいます）
(ii) 個人利用かつ非営利目的の消費者によりエンコードされたAVCビデオ、またはAVCビデオを供給することについてライセンスを受けている供給者から入手したAVCビデオをデコードすること

上記以外の使用については、黙示のライセンスを含め、いかなるライセンスも許諾されていません。
詳細情報につきましては、MPEG LA, LLCから取得することができます。
http://www.mpegla.comをご参照ください。

はじめにお読みください

ニコンデジタルカメラCOOLPIX P7100をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
お使いになる前に、本製品の使用方法や「安全上のご注意」（📖vi）をよくお読みになり、内容を充分に理解してから正しくお使いください。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管し、撮影を楽しむためにお役立てください。

箱の中身をご確認ください

万一、不足のものがありましたら、ご購入店にご連絡ください。

COOLPIX P7100
カメラ本体
（アクセサリーシューカバー
BS-1 付）

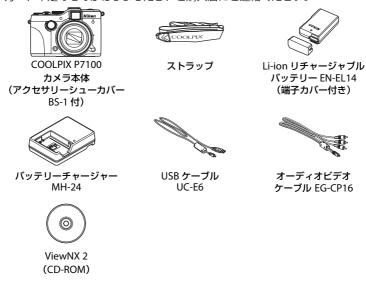
ストラップ

Li-ion リチャージャブル
バッテリー EN-EL14
（端子カバー付き）

バッテリーチャージャー
MH-24

USB ケーブル
UC-E6

オーディオビデオ
ケーブル EG-CP16

ViewNX 2
（CD-ROM）

- 使用説明書
- 保証書
- 登録のご案内

※メモリーカードは付属していません。

本書について

すぐにカメラをお使いになりたいときは、「撮影と再生の基本ステップ」（□17）をご覧ください。
また、カメラ各部の主な役割や基本的な操作方法は、「各部の名称と基本操作」（□1）をご覧ください。

● 本書の記載について

- 本文中のマークについて

マーク	意味
☑	カメラを使用する前に注意していただきたいことや守っていただきたいことを記載しています。
✎	カメラを使用する前に知っておいていただきたいことを記載しています。
□/🔭/☼	関連情報が記載されているページです。🔭は「詳細編」、☼は「付録、索引」のページです。

- 操作手順を → で表すことがあります。
- SD/SDHC/SDXCメモリーカードを「SDカード」と表記しています。
- ご購入時のカメラの設定を「初期設定」と表記しています。
- 液晶モニターに表示されるメニュー項目や、パソコンに表示されるボタン名、メッセージなどは、［ ］で囲って表記しています。
- 本書では、液晶モニター上の表示をわかりやすく説明するために、被写体の表示を省略している場合があります。
- 本文中の画面表示を含むイラストは、実際と異なる場合があります。

ご確認ください

●保証書について

この製品には「保証書」が付いていますのでご確認ください。「保証書」は、お買い上げの際、ご購入店からお客様へ直接お渡しすることになっています。必ず「ご購入年月日」と「ご購入店」が記入された保証書をお受け取りください。「保証書」をお受け取りにならないと、ご購入1年以内の保証修理が受けられないことになります。お受け取りにならなかった場合は、ただちにご購入店にご請求ください。

●カスタマー登録のお願い

下記のホームページから登録をお願いします。

https://reg.nikon-image.com/

付属の「登録のご案内」に記載の登録コードをご用意ください。

●大切な撮影を行う前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能することを事前に確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および利益喪失等に関する損害等）についての補償はご容赦願います。

●本製品を安心してご使用いただくために

本製品は、当社製のアクセサリー（バッテリー、バッテリーチャージャー、ACアダプターなど）に適合するように作られていますので、当社製品との組み合わせでお使いください。

- Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL14には、ニコン純正品であることを示すホログラムシールが貼られています。
- 模倣品のLi-ionリチャージャブルバッテリーをお使いになると、カメラの充分な性能が出せないことや、バッテリーの異常な発熱や液もれ、破裂、発火などの原因となることがあります。
- 他社製品や模倣品と組み合わせてお使いになると、事故、故障などが起こる可能性があります。その場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。

ホログラムシール

●説明書について

- 説明書の一部または全部を無断で転載することは、固くお断りいたします。
- 説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。
- 製品の外観、仕様、性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
- 説明書が破損などで判読できなくなったときは、PDFファイルを下記のホームページからダウンロードできます。

  http://www.nikon-image.com/support/manual/

  ニコンサービス機関で新しい使用説明書を購入することもできます（有料）。

●著作権についてのご注意

あなたがカメラで撮影または録音したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使うことができません。なお、実演や興行、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影や録音を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の目的となっている画像や音楽は、著作権法の規定による範囲内でお使いになる以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

●カメラやメモリーカードを譲渡/廃棄するときのご注意

メモリー（SDカード/カメラ内蔵メモリーを含む）内のデータはカメラやパソコンで初期化または削除しただけでは、完全には削除されません。譲渡/廃棄した後に市販のデータ修復ソフトウェアなどを使ってデータが復元され、重要なデータが流出してしまう可能性があります。メモリー内のデータはお客様の責任において管理してください。

メモリーを譲渡/廃棄する際は、市販のデータ削除専用ソフトウェアなどを使ってデータを完全に削除するか、初期化後にメモリーがいっぱいになるまで、空や地面などを撮影することをおすすめします。なお、［**オープニング画面**］（□104）の［**撮影した画像**］も、同様に別の画像で置き換えてから譲渡/廃棄してください。メモリーを物理的に破壊して廃棄するときは、周囲の状況やけがなどに充分ご注意ください。

●電波障害自主規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

安全上のご注意

お使いになる前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しい方法でお使いください。
この「安全上のご注意」は製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために重要な内容を記載しています。内容を理解してから本文をお読みいただき、お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。
表示と意味は以下のようになっています。

⚠**危険**	**この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が高いと想定される内容を示しています。**
⚠**警告**	**この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。**
⚠**注意**	**この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。**

お守りいただく内容の種類を、以下の図記号で区分し、説明しています。

絵表示の例	
	△記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。
	⃠記号は、禁止（してはいけないこと）の行為を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	●記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合はプラグをコンセントから抜く）が描かれています。

⚠ **警告**（カメラについて）

	分解したり、修理や改造をしないこと 感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。
 	落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと 感電したり、破損部でケガをする原因となります。 電池、電源を抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
	水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと 発火したり感電の原因となります。
 	熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、すみやかに電池を取り出すこと そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。 電池を取り出す際、やけどに充分注意してください。 電池を抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。

禁止	**通電中のカメラに長時間直接触れない** 使用中に温度が高くなる部分があり、低温やけどの原因になることがあります。
使用禁止	**引火、爆発のおそれのある場所では使わない** プロパンガス、ガソリン、可燃スプレーなど引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると爆発や火災の原因になります。
禁止	**レンズまたはカメラで直接太陽や強い光を見ないこと** 失明や視力障害の原因となります。
発光禁止	**車の運転者等にむけてフラッシュを発光しないこと** 事故の原因となります。
発光禁止	**フラッシュを人の目に近づけて発光しないこと** 視力障害の原因となります。 特に乳幼児を撮影する時は1 m以上離れてください。
保管注意	**幼児の口にはいる小さな付属品は、幼児の手の届く所に置かない** 幼児の飲み込みの原因となります。 飲み込んだときは、ただちに医師にご相談ください。
保管注意	**ストラップが首に巻きつかないようにすること** **特に幼児・児童の首にストラップをかけないこと** 首に巻き付いて窒息の原因となります。
警告	**指定の電源(電池またはACアダプター)を使うこと** 指定以外のものを使用すると、火災や感電の原因となります。
使用禁止	**ACアダプター使用時に雷が鳴り出したら、電源プラグに触れないこと** 感電の原因となります。 雷が鳴り止むまで機器から離れてください。
禁止	**通電中のACアダプターに長時間直接触れない** 使用中に温度が高くなる部分があり、低温やけどの原因になることがあります。

⚠ 注意(カメラについて)

感電注意	**ぬれた手でさわらないこと** 感電の原因になることがあります。
保管注意	**製品は、幼児の手の届く所に置かない** ケガの原因になることがあります。
保管注意	**使用しないときは、電源をOFFにしてレンズを遮光し、太陽光のあたらない所に保管すること** 太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。
移動注意	**三脚にカメラを取り付けたまま移動しないこと** 転倒したりぶつけたりしてケガの原因になることがあります。
使用注意	**航空機内では、離着陸時に電源をOFFにする** **病院では、病院の指示に従う** 本機器が出す電磁波が、航空機の計器や医療機器に影響を与えるおそれがあります。
電池を取る プラグを抜く	**長期間使用しないときは電源(電池またはACアダプター)を外すこと** 電池の液もれにより、火災、ケガや周囲を汚損する原因になることがあります。 ACアダプターをお使いの際には、電源プラグをコンセントから抜いて、その後でカメラを取り外してください。火災の原因になることがあります。
発光禁止	**内蔵フラッシュの発光窓を人体やものに密着させて発光させないこと** やけどや発火の原因になることがあります。

禁止	**布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと** 熱がこもりケースが変形し、火災の原因になることがあります。
放置禁止	**窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないこと** 内部の部品に悪い影響を与え、火災の原因になることがあります。
禁止	**付属のCD-ROMを音楽用CDプレーヤーで使用しないこと** 機器に損傷を与えたり大きな音がして聴力に悪影響を及ぼすことがあります。

⚠危険
（専用Li-ionリチャージャブルバッテリーついて）

禁止	**電池を火に入れたり、加熱しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
分解禁止	**電池をショート、分解しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
使用禁止	**Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL14は、ニコンデジタルカメラ専用の充電池でCOOLPIX P7100に対応しています。EN-EL14に対応していない機器には使用しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
使用禁止	**充電には専用の充電器を使う** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
危険	**ネックレス、ヘアピンなど金属製のものと一緒に持ち運んだり、保管しない** ショートして液もれ、発熱、破裂の原因となります。 持ち運ぶときは、端子カバーをつけてください。
危険	**電池からもれた液が目に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること** そのままにしておくと、目に傷害を与える原因となります。

⚠警告
（専用Li-ionリチャージャブルバッテリーについて）

保管注意	**電池は、幼児の手の届く所に置かない** 幼児の飲み込みの原因となります。飲み込んだときは、ただちに医師にご相談ください。
水かけ禁止	**水につけたり、ぬらさないこと** 液もれ、発熱の原因となります。
使用禁止	**変色や変形、そのほか今までと異なることに気づいたときは、使用しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
警告	**充電の際に、所定の充電時間を超えても充電が完了しないときは充電をやめる** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
警告	**電池をリサイクルするときや、やむなく廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁すること** 他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。 ニコンサービス機関またはリサイクル協力店にご持参いただくか、お住まいの自治体の規則に従って廃棄してください。
警告	**電池からもれた液が皮膚や衣服に付いたときは、すぐにきれいな水で洗うこと** そのままにしておくと、皮膚がかぶれたりする原因となります。

⚠注意
（専用Li-ionリチャージャブルバッテリーについて）

注意	**電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。

⚠警告
（バッテリーチャージャーについて）

分解禁止	**分解したり修理・改造をしないこと** 感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。
接触禁止 すぐに修理依頼を	**落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと** 感電したり、破損部でケガをする原因となります。 電源プラグをコンセントから抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
プラグを抜く すぐに修理依頼を	**熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、速やかに電源プラグをコンセントから抜くこと** そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。 電源プラグをコンセントから抜く際、やけどに充分注意してください。 電源プラグをコンセントから抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
禁止	**通電中のバッテリーチャージャーに長時間直接触れない** 使用中に温度が高くなる部分があり、低温やけどの原因になることがあります。
水かけ禁止	**水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと** 発火したり感電の原因となります。
使用禁止	**引火、爆発のおそれのある場所では使わない** プロパンガス、ガソリン、可燃性スプレーなど引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると爆発や火災の原因になります。
警告	**電源プラグの金属部やその周辺にほこりが付着しているときは、乾いた布で拭き取ること** そのまま使用すると、火災の原因になります。
使用禁止	**雷が鳴り出したら、電源プラグに触れないこと** 感電の原因となります。 雷が鳴り止むまで機器から離れてください。
感電注意	**ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないこと** 感電の原因となります。
禁止	**海外旅行者用電子式変圧器（トラベルコンバーター）や DC/AC インバーターなどの電源に接続して使わないこと** 発熱、故障、火災の原因となります。

⚠注意
（バッテリーチャージャーについて）

感電注意	**ぬれた手でさわらないこと** 感電の原因になることがあります。
放置禁止	**製品は、幼児の手の届く所に置かない** ケガの原因になることがあります。
禁止	**布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと** 熱がこもりケースが変形し、火災の原因になることがあります。

⚠危険
（リモコン（別売）用リチウム電池について）

危険	**電池からもれた液が目に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること** そのままにしておくと、目に傷害を与える原因となります。

⚠警告
（リモコン（別売）用リチウム電池について）

禁止	**電池を火に入れたり、加熱しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
分解禁止	**電池をショート、分解しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
警告	**使用説明書に表示された電池を使用すること** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
水かけ禁止	**水につけたり、ぬらさないこと** 液もれ、発熱の原因となります。
保管注意	**電池は幼児の手の届く所に置かない** 幼児の飲み込みの原因となります。飲み込んだときは、ただちに医師にご相談ください。
警告	**電池の「＋」と「－」の向きをまちがえないようにすること** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
禁止	**充電式電池以外は充電しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
警告	**電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁すること** 他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄してください。
警告	**電池からもれた液が皮膚や衣服に付いたときは、すぐにきれいな水で洗うこと** そのままにしておくと、皮膚がかぶれたりする原因となります。

目次

はじめに

各部の名称と基本操作

この章では、各部の名称のほか、各部の主な役割や基本操作について説明しています。

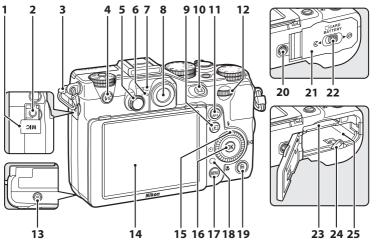
→すぐにカメラをお使いになりたいときは、「撮影と再生の基本ステップ」（□17）をご覧ください。

各部の名称

カメラ本体

フラッシュポップアップ時

レンズ収納時

No.	名称	ページ
1	ストラップ取り付け部	7
2	露出補正ダイヤル	71
3	露出補正ダイヤル指標	71
4	電源スイッチ/電源ランプ	25
5	モードダイヤル	28
6	クイックメニューダイヤル指標	72
7	クイックメニューボタン	72
8	クイックメニューダイヤル	72
9	リモコン受光部（前面）	60、⊶105
10	アクセサリーシューカバーBS-1	⊶101
11	アクセサリーシュー	⊶101
12	フラッシュ	61
13	HDMIミニ端子（Type C）	91
14	USB/オーディオビデオ出力端子	91
15	端子カバー	91
16	パワーコネクターカバー（別売ACアダプター接続用）	⊶103
17	Fn2（ファンクション2）ボタン	108
18	シャッターボタン	4、32
19	ズームレバー	31
	W：広角ズーム	31
	T：望遠ズーム	31
	▦：サムネイル表示	35
	🔍：拡大	35
	❓：ヘルプ	39
20	サブコマンドダイヤル	51、53
21	Fn1（ファンクション1）ボタン	107
22	セルフタイマーランプ	64
	AF補助光	105
23	レンズ	
24	マイク（ステレオ）	90、98
25	レンズバリアー	
26	レンズリング	55、⊶55
27	レンズリング取り外しボタン	55、⊶55

1	マイク端子カバー 100
2	外部マイク端子 100
3	ストラップ取り付け部 7
4	⚡(フラッシュポップアップ)ボタン 7
5	視度調節ダイヤル 16
6	AF/アクセスランプ 32
7	フラッシュランプ 61
8	ファインダー 16
9	▶(再生)ボタン ....11、34
10	(モニター)ボタン .....15、16
11	AE-L AF-L(AE-L/AF-L)ボタン .....5、107 (撮影日一覧)ボタン 88
12	メインコマンドダイヤル ..... 51、53
13	スピーカー .... 90、102、106
14	液晶モニター ....8、15
15	ロータリーマルチセレクター(マルチセレクター) 12
16	ⓚ(決定)ボタン 12
17	MENU(メニュー)ボタン 13
18	リモコン受光部(背面) .... 60、105
19	🗑(削除)ボタン .... 36、102
20	三脚ネジ穴
21	バッテリー /SDカードカバー ....20、22
22	ロックレバー ....20、22
23	SDカードスロット 22
24	バッテリーロックレバー ....20、21
25	バッテリー室 20

撮影時に使う主な操作部

操作部	名称	主な機能	📖
	モード ダイヤル	撮影モードを切り換える	28
	ズームレバー	**T**（🔍）（望遠）方向で被写体を大きく、**W**（⊞）（広角）方向で広い範囲を写す	31
	ロータリー マルチ セレクター	→「ロータリーマルチセレクターを使う」をご覧ください。	12
	メインコマンド ダイヤル	シャッタースピードまたは絞り値を設定する	51、53
	サブコマンド ダイヤル		
	クイックメ ニューダイヤル、 クイックメ ニューボタン	クイックメニューを表示/終了する	72
	MENU （メニュー） ボタン	メニューを表示/終了する	13
	シャッター ボタン	半押し：少し抵抗を感じるところまで押し、ピントと露出を固定する 全押し：深く押し込み、シャッターをきる	32
	露出補正 ダイヤル	明るさを調整する（露出補正）	71

操作部	名称	主な機能	📖
AE-L AF-L 12▦	AE-L/AF-L ボタン	露出やピントを固定する	107
Fn1	Fn1（ファンクション1）ボタン	ズームレバーと組み合わせる：ズームレンズの焦点距離を切り換える シャッターボタンと組み合わせる：割り当てた機能の設定で撮影する コマンドダイヤルと組み合わせる：割り当てた機能の設定を変更する	56 107 108
Fn2	Fn2（ファンクション2）ボタン	割り当てた機能の設定を切り換える	108
|◻|	|◻|（モニター）ボタン	液晶モニターの表示を切り換える	15
▶	再生ボタン	画像を再生する	11、34
🗑	削除ボタン	最後に保存した画像を1コマ削除する	36

再生時に使う主な操作部

操作部	名称	主な機能	📖
▶	再生ボタン	• 電源 OFF 時に長押しして、再生モードで電源を ON にする • 撮影に戻る	25 11
W T	ズームレバー	• **T**（Q）方向で拡大表示、**W**（▦）方向でサムネイル / カレンダー表示する • 音声メモ、動画再生の音量を調節する	35 90 102
OK	ロータリーマルチセレクター	→「ロータリーマルチセレクターを使う」をご覧ください。	12
	メインコマンドダイヤル	画像や日付を選ぶ	34、35
	サブコマンドダイヤル		
OK	決定ボタン	• 動画を再生する • サムネイル表示 / 拡大表示から 1 コマ表示に戻る	102 12
MENU	MENU（メニュー）ボタン	メニューを表示/終了する	13
🗑	削除ボタン	画像を削除する	36
AE-L AF-L	（撮影日一覧）ボタン	撮影日一覧画面を表示する	88
|□|	|□|（モニター）ボタン	液晶モニターの表示を切り換える	15
	シャッターボタン	撮影に戻る	–

液晶モニターの角度を変える

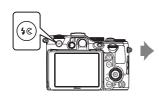
液晶モニターの角度は、下向きに約81°、上向きに約105°動かせます。カメラを高い位置や低い位置に構えて撮影するときなどに便利です。

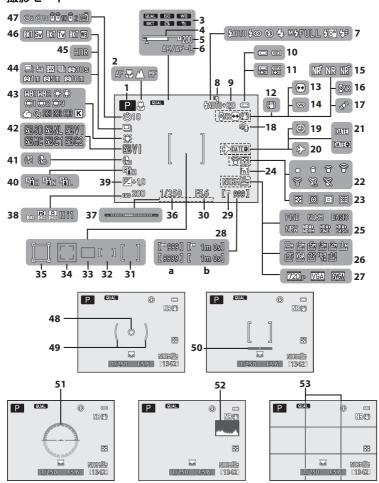
液晶モニターについてのご注意

- 液晶モニターの角度を変えるときは、無理な力を加えないでください。
- 液晶モニターは、左右方向には動かせません。
- 通常は、液晶モニターの位置を元に戻してお使いください。

フラッシュのポップアップと収納

（フラッシュポップアップ）ボタンを押すと、フラッシュがポップアップします。

- フラッシュの設定方法→「フラッシュモード（フラッシュを使う）」（□61）
- フラッシュを使わないときは、カチッと音がするまで手で軽く押し下げて収納します。

ストラップの取り付け方

2カ所に取り付けます。

- **1** 撮影モード ......28、29
- **2** フォーカスモード 68
- **3** クイックメニューダイヤル表示 ...72
- **4** ズーム表示 31
- **5** ズームメモリー 56
- **6** AE/AF-L表示 o-o4
  AE-L/AF-Lボタン設定 107
- **7** フラッシュモード 62
- **8** スピードライト表示 o-o101
- **9** 調光補正 ......50、55
- **10** バッテリー残量表示 24
- **11** 画面明るさブースト表示 16
- **12** 手ブレ補正表示 105
- **13** ゆがみ補正 55
- **14** ワイドコンバーター 55
- **15** ノイズ低減フィルター 55
- **16** 長秒時ノイズ低減 55
- **17** モーション検知表示 105
- **18** 風切り音低減 101
- **19** 日時未設定 ......27、104
- **20** 訪問先 104
- **21** デート写し込み 104
- **22** Eye-Fi通信表示 ......108、o-o93
- **23** 測光方式 54
- **24** Fn1ボタン動作表示 108
- **25** 画質 ......74、75
- **26** 画像サイズ ......74、77
- **27** 動画設定 ......73、100
- **28** (a)記録可能コマ数（静止画）...24、78
  (b)記録可能時間（動画）.....98、100
- **29** 内蔵メモリー表示 24
- **30** 絞り値 51
- **31** AFエリア（中央時）.....32、55、60
- **32** AFエリア（マニュアル時） ......42、43、55、60
- **33** AFエリア（オート時） ......55、60
- **34** AFエリア（顔認識時、ペット検出時） ......45、55、60、65、85
- **35** AFエリア（ターゲット追尾時） ......55、60
- **36** シャッタースピード 51
- **37** 露出インジケーター 53
- **38** ISO感度表示 ......30、73
- **39** 露出補正値 71
- **40** アクティブD-ライティング 55
- **41** 内蔵NDフィルター設定 107
- **42** COOLPIXピクチャーコントロール 73
- **43** ホワイトバランス 73
- **44** 連写モード ......45、50、54
- **45** 逆光（HDR）......44
- **46** ブラケティング 73
- **47** セルフタイマー 64
  リモコン 60
  笑顔自動シャッター 65
- **48** スポット測光範囲 ......50、54
- **49** 中央部重点測光範囲 ......50、54
- **50** 水準器表示（バー表示）......104
- **51** 水準器表示（円形表示）......104
- **52** ヒストグラム表示 104
- **53** 格子線表示 104

再生モード

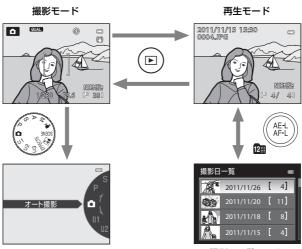
1	撮影日 26	13	内蔵メモリー表示 34
2	撮影時刻 26	14	動画再生ガイド 102
3	音声メモ表示 90	15	撮影日一覧ガイド 88
4	撮影日一覧表示 88	16	音量表示 .... 90、102
5	バッテリー残量表示 24	17	黒フレーム済み表示 90
6	画面明るさブースト表示 16	18	D-ライティング済み表示 89
7	プロテクト表示 89	19	簡単レタッチ済み表示 89
8	プリント指定表示 89	20	フィルター効果済み表示 89
9	画質 75	21	スモールピクチャー ....89、⊶19
10	画像サイズ 77	22	傾き補正済み表示 90
11	動画設定 .... 73、100	23	美肌編集済み表示 89
12	(a)画像の番号/全画像数 .... 34 (b)動画の再生時間 102	24	ファイル名 .... ⊶99

基本操作

撮影モードと再生モードを切り換える

このカメラには、画像を撮影する「撮影モード」と、撮影した画像を再生する「再生モード」があります。

「撮影モード」と「再生モード」を切り換えるには、▶(再生)ボタンを押します。

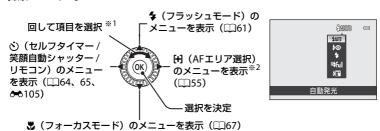
- 再生モードでシャッターボタンを押しても、撮影モードになります。

撮影日一覧モード

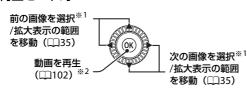
- モードダイヤルを回してアイコンを指標に合わせると、撮影モードの種類が選べます（📖28、29）。
- 再生モードでAE-L/AF-L（📅）ボタンを押すと、再生する画像を撮影日で絞り込めます（📖88）。

ロータリーマルチセレクターを使う

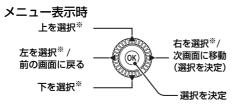
回転部を回すか、回転部の上（▲）、下（▼）、左（◀）、右（▶）、またはⓀボタンを押して操作します。

- 本書では「ロータリーマルチセレクター」を「マルチセレクター」と表記することがあります。

撮影モード時

※1 上、下、左または右を押しても項目を選べます。
※2 P、S、A、M、U1、U2、U3モード、（ローノイズナイト）モード、EFFECTS（スペシャルエフェクト）モードのときに表示します。

再生モード時

※1 回転部を回しても前後の画像を選べます。
※2 サムネイル表示/拡大表示時は、1コマ表示に戻ります。

メニュー表示時

※ 回転部を回しても上下の項目を選べます。

メニューを使う（MENUボタン）

撮影、再生時の画面でMENUボタンを押すと、選んでいるモードに応じたメニューが表示されます。メニュー画面では、撮影や再生、カメラに関する各種設定を変更できます。

撮影モード

QUAL
1/250 F5.6 38
MENU
タブ
撮影メニュー
Custom Picture Control
測光方式
連写
AFエリア選択
AFモード AF-S
調光補正 0.0
ノイズ低減フィルター NR

再生モード

P タブ：

使用中の撮影モード（29）で使える項目を表示します。
タブのアイコンは、撮影モードによって異なります。

- （オート撮影）：タブは表示されません。
- SCENE（シーン）：シーンメニュータブ（39）
- （スペシャルエフェクト）：スペシャルエフェクトメニュータブ（48）
- （ローノイズナイト）：ローノイズナイトメニュータブ（50）
- P、S、A、M：撮影メニュータブ（54）
- U1、U2、U3：U1/U2/U3専用メニュータブ（58）、2段目に撮影メニュータブ
- （動画）：動画メニュータブ（101）

▶タブ：

使用中の再生モード（89）で使える項目を表示します。
タブのアイコンは再生モードによって異なります。

Y タブ：

セットアップメニュー（カメラに関する基本設定）の項目を表示します。

タブの切り換え方

ロータリーマルチセレクターの◀を押してタブに移動します。

ロータリーマルチセレクターの▲▼を押してタブを選び、Ⓚボタンまたは▶を押します。

選んだタブのメニューが表示されます。

メニュー項目の選び方

ロータリーマルチセレクターの▲▼で項目を選び、▶またはⓀボタンを押します。

▲▼で項目を選び、Ⓚボタンを押します。

設定が終わったら、MENU（メニュー）ボタンを押してメニューの表示を終了します。

メニュー画面が2ページ以上あるとき

ページの位置を示すバーが表示されます。

液晶モニターの表示を切り換える（|□|ボタン）

|□|（モニター）ボタンを押すたびに、撮影時や再生時に液晶モニターに表示する情報の切り換えができます。

撮影時

情報ON	情報OFF	液晶モニター OFF※1
撮影画像と撮影情報を表示します。	撮影画像だけを表示します。	液晶モニターを消灯します。

再生時

画像情報ON	情報OFF	トーンレベルインフォメーション※2（動画は除く）
再生画像と画像情報を表示します。	再生画像だけを表示します。	ヒストグラム※3とトーンレベル、撮影情報※4を表示します。

※1 モードダイヤルがP、S、A、M、U1、U2、U3のときのみ可能です。ピントが合わず、AF/アクセスランプが点灯しないときはシャッターがきれません。

※2 ハイライト部の白とびや暗部の黒つぶれの状態を、ヒストグラム表示やトーン（明暗）レベルごとの点滅表示などで確認できます。露出補正などで画像の明るさを調整する際の目安になります。ロータリーマルチセレクターの◀▶を押して確認するトーンレベルを選ぶと、選んだトーンレベルに対応する画像の部分が点滅します。

※3 ヒストグラムは、画像の明るさの分布を表す山状のグラフのことです。横軸は輝度を示し、左へ行くほど暗くなり、右へ行くほど明るくなります。縦軸は画素数を示します。

※4 表示される撮影情報は、撮影モードP、S、A、M、シャッタースピード、絞り値、画質、画像サイズ、ISO感度、ホワイトバランス、露出補正値、COOLPIXピクチャーコントロール、画像番号/全画像数です。
撮影モードが、■、SCENE、EFFECTS、■、Pのときには P と表示されます。

|□|ボタンの長押しと☒（画面明るさブースト表示）について

|□|ボタンを押し続けると、液晶モニターの明るさを最大にできます。明るさを元に戻すには、もう一度|□|ボタンを押し続けるか、電源をOFFにします。|□|ボタンで明るさを最大にしているときは、液晶モニターに☒（画面明るさブースト表示）が表示されます。

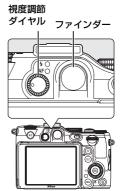
撮影時の水準器、ヒストグラム、格子線表示について

- セットアップメニュー［**モニター設定**］の［**モニター表示設定**］（⚯74）で液晶モニターの表示オプションを変更できます。表示オプションには、水準器、ヒストグラム、格子線表示があります。
- 水準器の種類は、セットアップメニュー（□104）［**モニター設定**］の［**水準器の種類**］で変更できます。初期設定は［**円形表示**］です。

ファインダーを使う

日差しの強い屋外など、明るい場所で液晶モニターが見えにくいときは、ファインダーを使って撮影してください。

ファインダー内の像が見えにくいときは、ファインダーをのぞきながら、視度調節ダイヤルを回して調節します。

- 爪や指先で目を傷つけないようにご注意ください。

ファインダーについてのご注意

以下の場合、ファインダーで見える範囲と実際に撮影される範囲が異なりますので、液晶モニターで構図を確認してください。

- カメラと被写体の距離が近い場合（特に最も望遠側で約2 m以内）
- ワイドコンバーターレンズ（別売）を使う場合（⚯103）
- 電子ズームを使う場合（□31）
- ［**画像サイズ**］（□77）が3:2［**3648×2432**］、16:9［**3584×2016**］、1:1［**2736×2736**］の場合

撮影と再生の基本ステップ

準備

撮影

再生

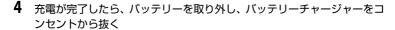
準備1　バッテリーを充電する

1 付属のバッテリーチャージャー MH-24 を用意する

2 付属のバッテリー EN-EL14（リチウムイオン充電池）を奥に押し込みながら（①）、バッテリー チャージャーにセットする（②）

3 バッテリーチャージャーをコンセントに差し込む

- CHARGEランプが点滅し、充電が始まります。
- 残量がないバッテリーの場合、充電時間は約1時間30分です。
- 充電が完了すると、CHARGEランプが点灯します。
- CHARGEランプについて→🕮19

4 充電が完了したら、バッテリーを取り外し、バッテリーチャージャーをコンセントから抜く

CHARGEランプについて

状態	意味
点滅	充電中です。
点灯	充電が完了しました。
速い点滅	• バッテリーのセットミスです。バッテリーチャージャーをコンセントから抜いて、バッテリーを取り外し、バッテリーチャージャーに寝かせるようにセットし直してください。 • 使用可能な温度ではありません。周囲の温度が5℃～35℃の室内で充電してください。 • バッテリーの異常です。ただちにバッテリーチャージャーをコンセントから抜いて充電を中止してください。バッテリーおよびバッテリーチャージャーは、ご購入店またはニコンサービス機関にお持ちください。

バッテリーチャージャーについてのご注意

- バッテリーチャージャーをお使いになるときは、「安全上のご注意」の「警告」（□ix）、「注意」（□ix）の注意事項を必ずお守りください。
- 「取り扱い上のご注意　バッテリーチャージャーについて」（☼4）をよくお読みの上、内容を充分に理解してから正しくお使いください。

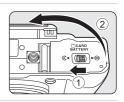
バッテリーについてのご注意

- リチャージャブルバッテリーをお使いになるときは、「安全上のご注意」の「危険」（□viii）、「警告」（□viii）、「注意」（□ix）の注意事項を必ずお守りください。
- 「取り扱い上のご注意　バッテリーについて」（☼3）をよくお読みの上、内容を充分に理解してから正しくお使いください。

AC電源について

- 別売のACアダプター EH-5bとパワーコネクター EP-5A（⚭103）を使うと、家庭用コンセント（AC 100 V）からこのカメラへ電源を供給して撮影または再生ができます。
- EH-5b以外のACアダプターやEP-5A以外のパワーコネクターは絶対に使わないでください。カメラの故障、発熱の原因となります。

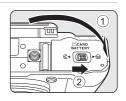
準備2　バッテリーを入れる

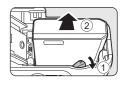
1　バッテリー /SDカードカバーを開ける

2　バッテリーを入れる

- バッテリーでオレンジ色のバッテリーロックレバーを矢印の方向に押し下げながら（①）、奥まで差し込みます（②）。
- 奥まで差し込むと、バッテリーロックレバーでバッテリーが固定されます。

逆挿入に注意

バッテリーの向きを間違えると、カメラを破損するおそれがあります。正しい向きになっているか、必ずご確認ください。

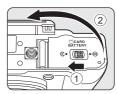
3　バッテリー /SDカードカバーを閉じる

バッテリーを取り出すときは

電源をOFFにして（📖25）、電源ランプと液晶モニターの消灯を確認してから、バッテリー/SDカードカバーを開けます。
オレンジ色のバッテリーロックレバーを矢印の方向に押すと（①）、バッテリーが押し出されるので、まっすぐ引き抜きます（②）。

☑ 高温注意

カメラを使った直後は、カメラやバッテリー、SDカードが熱くなっていることがあります。取り出すときは充分ご注意ください。

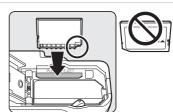
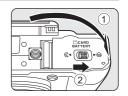
準備3　SDカードを入れる

1 電源ランプと液晶モニターの消灯を確認してから、バッテリー /SDカードカバーを開ける

- カバーを開けるときは、必ず電源をOFFにしてください。

2 SDカードを入れる

- カチッと音がするまで差し込みます。

逆挿入に注意

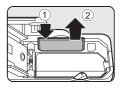
SDカードの向きを間違えると、カメラやSDカードを破損するおそれがあります。正しい向きになっているか、必ずご確認ください。

3 バッテリー /SDカードカバーを閉じる

SDカードの初期化について

- 他の機器で使ったSD カードをこのカメラで初めて使うときは、このカメラで初期化してからお使いください。
- **SD カードを初期化すると、カード内のデータはすべて消えてしまいます。**カード内に必要なデータが残っているときは、初期化する前に、パソコンなどに保存してください。
- SD カードを初期化するには、カードをカメラに入れ、MENUボタンを押し、セットアップメニュー（104）の［**カードの初期化**］を選びます。

SDカードについてのご注意

SDカードの使用説明書や「取り扱い上のご注意　メモリーカードについて」（5）をご覧ください。

SDカードを取り出すときは

電源をOFFにして、電源ランプと液晶モニターの消灯を確認してから、バッテリー/SDカードカバーを開けます。
SD カードを指で軽く奥に押し込むと（①）、SD カードが押し出されるので、まっすぐ引き抜きます（②）。

高温注意

カメラを使った直後は、カメラやバッテリー、SDカードが熱くなっていることがあります。取り出すときは充分ご注意ください。

内蔵メモリーとSDカードについて

撮影したデータは、カメラの内蔵メモリー（約94 MB）またはSDカードのどちらかに記録されます。内蔵メモリーを使って記録や再生をするときはSDカードを取り出してください。

推奨SDカード

下記のSDカードの動作を確認しています。

- 動画の撮影には、SDスピードクラスがClass 6以上のカードをおすすめします。転送速度が遅いカードでは、動画の撮影が途中で終了することがあります。

	SD メモリーカード	SDHC メモリーカード※2	SDXC メモリーカード※3
SanDisk	2 GB※1	4 GB、8 GB、16 GB、32 GB	64 GB
TOSHIBA	2 GB※1	4 GB、8 GB、16 GB、32 GB	64 GB
Panasonic	2 GB※1	4 GB、8 GB、12 GB、16 GB、32 GB	48 GB、64 GB
Lexar	-	4 GB、8 GB、16 GB、32 GB	-

※1 カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器が2 GBのSDカードに対応している必要があります。

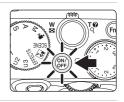
※2 SDHC規格に対応しています。カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器がSDHC規格に対応している必要があります。

※3 SDXC規格に対応しています。カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器がSDXC規格に対応している必要があります。

- 上記SDカードの機能、動作の詳細、動作保証などについては、各カードメーカーにお問い合わせください。その他のメーカー製のSDカードは、動作の保証をいたしかねます。

ステップ1　電源をONにする

1 電源スイッチを押して、電源をONにする

- はじめて電源をONにしたときは →「表示言語と日時を設定する」（26）
- レンズが繰り出し、液晶モニターが点灯します。

2 バッテリー残量表示と記録可能コマ数を確認する

バッテリー残量表示

表示	意味
(電池アイコン・満)	バッテリー残量はあります。
(電池アイコン・少)	バッテリー残量が少なくなりました。バッテリーの充電や交換の準備をしてください。
❶ **電池残量がありません**	撮影できません。バッテリーを充電または交換してください。

記録可能コマ数

撮影できる残りのコマ数が表示されます。

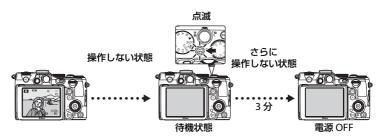
- SD カードをカメラに入れていないときは、IN が表示され、画像を内蔵メモリー（約94 MB）に記録します。
- 記録可能コマ数は、内蔵メモリーまたはセットしているSDカードのメモリー残量と画質/画像サイズによって異なります（78）。
- イラスト上の記録可能コマ数の数値は、実際とは異なります。

電源のON/OFFについて

- 電源をONにすると、電源ランプ（緑色）が点灯し、液晶モニターが点灯します（液晶モニターが点灯すると、電源ランプは消灯します）。
- 電源をOFFにするには、電源スイッチを押します。液晶モニターも、電源ランプも消灯します。
- 再生モードで電源を ON にするには、▶（再生）ボタンを長押しします。このとき、レンズは繰り出しません。

節電機能について（オートパワーオフ）

カメラを操作しない状態が続くと、液晶モニターが消灯して待機状態になり、電源ランプが点滅します。待機状態が約3分続くと電源はOFFになります。
待機中に液晶モニターを再点灯するには、以下のいずれかの操作をします。

- 電源スイッチ、シャッターボタン、または▶ボタンを押す。
- モードダイヤルを回す。

- 待機状態になるまでの時間は、セットアップメニュー（🕮104）の［**オートパワーオフ**］で変更できます。
- 初期設定では、撮影時または再生時は、約1分で待機状態になります。
- ACアダプター EH-5b（別売）使用時は、30分（固定）で待機状態になります。

表示言語と日時を設定する

ご購入後はじめて電源をONにすると、表示言語やカメラの内蔵時計の日時を設定する画面が自動的に表示されます。

1 マルチセレクターの▲または▼で表示言語を選び、⒪ボタンを押す

マルチセレクター

2 ▲または▼で［はい］を選び、⒪ボタンを押す

- 設定を中止するときは、［**いいえ**］を選びます。

3 ◀または▶で自宅のある地域（タイムゾーン）を選び、⒪ボタンを押す

- 夏時間を設定するには→📖27

4 ▲または▼で日付の表示順を選び、⒪ボタンまたは▶を押す

5 ▲、▼、◀または▶で日時を合わせ、Ⓚ ボタンを押す

- 項目を選ぶ：▶ または◀を押します（[**年**]、[**月**]、[**日**]、[**時**]、[**分**]、に切り換わります）。
- 項目の内容を合わせる：▲または▼を押します。コマンドダイヤルを回しても変更できます。
- 設定を完了する：[**分**] を選び、Ⓚ ボタンまたは▶を押します。
- 設定が完了すると、レンズが繰り出し、撮影画面になります。

夏時間を設定する

夏時間（サマータイム）制のある地域で、その期間中に日時を設定するときは、手順3の地域設定画面でマルチセレクターの▲を押して夏時間の設定をオンにします。
設定をオンにすると、画面上部に マークが表示されます。
オフにするには、▼を押します。

言語や日時の設定をやり直すには

- セットアップメニュー（□104）で［**言語 /Language**］または［**地域と日時**］を設定します。
- セットアップメニュー →［**地域と日時**］→［**タイムゾーン**］で、夏時間の設定をオンにすると時計が1時間早くなり、オフにすると1時間戻ります。訪問先（✈）のタイムゾーンを登録すると、自宅（⌂）との時差を自動的に計算し、撮影日時を現地時間で記録できます。
- 日時未設定のまま、設定の画面を終了すると、撮影画面でが点滅します。セットアップメニュー（□104）の［**地域と日時**］で日時を設定してください。

時計用電池について

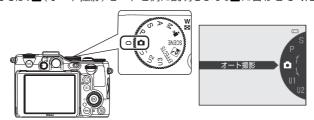
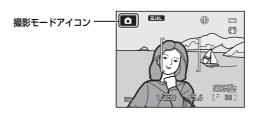
- カメラの時計は、カメラに入れるバッテリーとは別のバックアップ用電池で動いています。
- バックアップ用電池は、カメラにバッテリーを入れるかACアダプター（別売）を接続すると、約10時間で充電され、設定した日時を数日間、記憶できます。
- バックアップ用電池が切れたときは、電源をONにすると、日時を設定する画面が表示されます。日時を再設定してください。→「表示言語と日時を設定する」手順2（□26）

撮影日入りの画像をプリントするときは

- 撮影前に、カメラの日時を正しく設定してください。
- セットアップメニュー（□104）で［**デート写し込み**］を設定すると、撮影時に、画像に日付を入れられます。
- ［**デート写し込み**］を設定しないで撮影した画像は、付属ソフトウェア「ViewNX 2」（□92）を使うと、日付を入れてプリントできます。

ステップ2　撮影モードを選ぶ

モードダイヤルを回して、撮影モードを選ぶ

- ここでは、📷(オート撮影)モードを例に説明します。📷に合わせてください。

- 📷（オート撮影）モードの撮影画面になり、撮影モードアイコンが📷になります。

- 液晶モニターの表示内容について → 📖8

撮影モードの種類

（オート撮影）モード □38

基本的な撮影ができます。

SCENE（シーン）モード □39

撮影シーンを選ぶと、そのシーンに適した設定で撮影できます。おまかせシーンモードにすると、構図を決めるだけでカメラが撮影シーンを自動で選ぶので、より簡単にシーンに適した撮影ができます。

EFFECTS スペシャルエフェクトモード □46

画像に効果を付けて撮影できます。10種類の撮影効果から選べます。

ローノイズナイトモード □49

ISO 感度を高めに自動制御して、フラッシュを使わずに薄暗いシーンの雰囲気を活かして撮影できます。

P、S、A、Mモード □51

シャッタースピードや絞り値などを自分で決めて、より本格的な撮影を楽しめます。

U1、U2、U3 ユーザーセッティングモード □57

撮影でよく使う設定の組み合わせをU1、U2、U3の3 通りまで登録できます。登録した設定は、モードダイヤルをU1、U2またはU3に合わせるだけで、すぐに呼び出して撮影できます。

（動画）モード □98

動画（音声付き）を撮影できます。

フラッシュについて

フラッシュを閉じているときは発光禁止に固定され、画面上部にが表示されます。暗いところや逆光などでフラッシュが必要なときは、フラッシュをポップアップしてください（□7）。

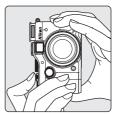
撮影モードで使える機能について

- マルチセレクターの▲（）、▼（）、◀（）または▶（）の機能を設定できます。
  →「マルチセレクターで設定できる機能」（□60）
- 露出補正ダイヤルで設定できる機能 → 露出補正（□71）
- クイックメニューで設定できる機能 → クイックメニューの種類（□73）
- MENUボタンを押すと、選んだ撮影モードに応じたメニュー項目が表示されます。
  撮影モードに応じたメニュー項目は、「いろいろな撮影」（□37）をご覧ください。

撮影と再生の基本ステップ

ステップ3　カメラを構え、構図を決める

1 カメラをしっかりと構える

- レンズやフラッシュ、AF補助光、マイクなどに指や髪、ストラップなどがかからないようにご注意ください。
- 縦位置で撮影するときは、フラッシュの位置をレンズよりも上にしてください。

2 構図を決める

- 写したいもの（被写体）を画面の中央付近に合わせます。
- ファインダーを使うには→□16

ISO感度表示について

撮影画面にISO（ISO感度表示、□8）が表示されることがあります。ISOが表示されたときは、ISO感度が自動的に上がっています。

三脚の使用について

- 以下の場合などは、手ブレしやすくなるため、三脚などの使用をおすすめします。
  - 暗い場所で撮影するとき、フラッシュモード（□61）をⓍ（発光禁止）にして撮影するとき
  - 望遠側で撮影するとき
- 三脚などで固定して撮影するときは、セットアップメニュー（□104）の［**手ブレ補正**］を［**OFF**］にしてください。

ズームを使う

ズームレバーを回すと、光学ズームが作動します。
- 被写体を大きく写す：**T**（望遠）方向に回す。
- 広い範囲を写す：**W**（広角）方向に回す。

- ズームレバーを回すと液晶モニターの画面上部にズームの位置が表示されます。

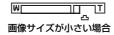
電子ズームについて

光学ズームを最も望遠側（光学ズームの最大倍率）にして、さらにズームレバーを**T**方向に回し続けると、電子ズームが作動します。
電子ズームは、光学ズームの最大倍率の約4倍まで拡大できます。

- 電子ズーム使用時は、AF エリアは表示されず、画面中央でピントが合います。

電子ズームと画質の劣化について

電子ズームは光学ズームとは異なり、画像をデジタル処理で拡大するため、使用する画像サイズ（📖77）や電子ズームの倍率によって、画質が劣化します。
ズーム表示の凸マークは、静止画の撮影で画質の劣化が始まるズーム位置を示しています。このマークを越えてズーム倍率を上げると劣化が始まり、ズーム表示も黄色に変わります。
凸マークの位置は画像サイズが小さいほど右に移動しますので、設定した画像サイズで画質を劣化させずに静止画を撮影できるズーム位置を事前に確認できます。

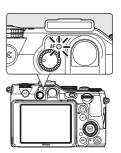
画像サイズが小さい場合

- セットアップメニュー（📖104）の［**電子ズーム**］で、電子ズームの倍率を画質が劣化しない範囲内に制限することや、電子ズームが作動しない設定にできます。

関連ページ

- ズームメモリー→📖56
- ズーム速度設定→📖106

ステップ4　ピントを合わせ、シャッターをきる

1 シャッターボタンを指先に少し抵抗を感じるところまで押し、そのまま止める（これを「半押し」といいます）

- 半押しすると、ピントと露出（シャッタースピードと絞り値の組み合わせ）が決まります。ピントと露出は、半押しを続けている間、固定されます。
- 画面中央の AF エリア表示に重なっている被写体にピントが合います。ピントが合うと、AF エリア表示が緑色に点灯し、ファインダー横のAF/アクセスランプも点灯します。
- 電子ズーム使用時は、AFエリアは表示されず、画面中央でピントが合います。ピントが合うとAF/アクセスランプが緑色に点灯します。
- 半押しして、AFエリア表示が赤色に点滅したり、AF/アクセスランプが高速点滅したときは、ピントが合っていません。構図を変えて、もう一度シャッターボタンを半押ししてください。

2 シャッターボタンを半押ししたまま、さらに深く押し込む（これを「全押し」といいます）

- シャッターがきれ、画像が記録されます。
- シャッターボタンを押すときに力を入れすぎると、カメラが動いて画像がぶれる（手ブレする）ことがあります。ゆっくりと押し込んでください。

画像の記録についてのご注意

- 液晶モニターの「記録可能コマ数」やAF/アクセスランプが点滅しているときは、画像の記録中です。**バッテリー/SDカードカバーを開けないでください。**画像の記録中にSDカードやバッテリーを取り出すと、画像が記録されないことや、撮影した画像やカメラ、SDカードが壊れることがあります。
- 設定や撮影状況によっては、記録の終了までに時間がかかることがあります（☼11）。

✔ オートフォーカスが苦手な被写体

以下のような被写体では、オートフォーカスによるピント合わせができないことがあります。また、AFエリアやAF/アクセスランプが緑色に点灯しても、まれにピントが合っていないことがあります。

- 被写体が非常に暗い
- 画面内の輝度差が非常に大きい（太陽が背景に入った日陰の人物など）
- 被写体にコントラストがない（白壁や背景と同色の服を着ている人物など）
- 遠いものと近いものが混在する被写体（オリの中の動物など）
- 同じパターンを繰り返す被写体（窓のブラインドや、同じ形状の窓が並んだビルなど）
- 動きの速い被写体

このような被写体を撮影するときは、シャッターボタンを何回か半押ししてみるか、等距離にある別の被写体にピントを合わせて、フォーカスロック撮影をお試しください。
マニュアルフォーカスでピントを合わせることもできます（⊶2）。

✔ 被写体との距離が近い場合

ピントが合わないときは、フォーカスモードの🌷（マクロAF）（□68）またはシーンモードの［**クローズアップ**］（□42）での撮影をお試しください。

🖉 AF補助光について

暗い場所などでは、シャッターボタンを半押ししたときにAF補助光（□105）が点灯することがあります。

🖉 シャッターチャンスを優先する撮影では

シャッターチャンスが重要な撮影では、半押しせずに、全押ししてもシャッターをきれます。

🖉 フォーカスロック撮影

AF（オートフォーカス）エリアが画面中央でも、ピントを固定（フォーカスロック）する方法を使うと、構図を工夫して撮影できます。

- フォーカスロックをしている間は被写体との距離を変えないでください。
- シャッターボタンを半押しすると、露出は固定されます。

ピントを合わせたい被写体にカメラを向ける

半押しする

AF エリアが緑色に点灯したら

半押ししたまま構図を変える

そのまま深く押し込む

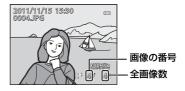
シャッターボタンを半押しするかわりに、AE-L/AF-Lボタンを押してもフォーカスロック撮影ができます（□107、シーンモードの［**おまかせシーン**］（□40）を除く）。

ステップ5　画像を再生する

1　▶（再生）ボタンを押す

- 撮影モードから再生モードに切り換わり、最後に保存した画像を1コマ表示します。

2　マルチセレクターで前後の画像を表示する

- 前の画像を表示する：▲または◀
- 次の画像を表示する：▼または▶
- マルチセレクター、またはコマンドダイヤルを回しても画像を選べます。
- 撮影に戻るには、もう一度 ▶ ボタンを押すか、シャッターボタンを押します。
- 内蔵メモリーに保存した画像を再生するときは、SDカードを取り出します。「画像の番号/全画像数」に IN が表示されます。

画像の再生について

- ボタンを押すと、液晶モニターに表示される画像情報や撮影情報の表示/非表示を切り換えできます（□15）。
- 再生中にカメラの向きを回転させると、画像は自動的に回転して表示されます（早送り/早戻し中は除く）。
- カメラを縦に構えて撮影した画像（縦位置の画像）は、自動的に回転して表示されます（□106）。回転方向は、再生メニュー（□89）の［**画像回転**］で変更できます。
- 顔認識（□85）またはペット検出（□45）して撮影した画像は、1コマ表示で再生すると、顔の上下方向に合わせて自動的に回転して表示されます（撮影メニューの［**連写**］またはクイックメニュー（□73）の［**ブラケティング**］で撮影した画像を除く）。
- 前後の画像に切り換えた直後は、表示が粗いことがあります。

関連ページ

- 「再生モードで使える機能（再生メニュー）」→□89
- 「再生する画像を絞り込む」→□88

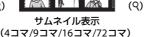
画像の表示方法を変える

再生モードでズームレバー（**W**（⊞）/ **T**（Q））を操作すると、画像の表示方法を変更できます。

拡大表示

1 コマ表示　　拡大表示

- 拡大率を調節するには、ズームレバー（**W**（⊞）/ **T**（Q））を操作します。約10倍まで拡大できます。
- 表示位置を移動するには、マルチセレクターの▲▼◀▶を押します。
- 顔認識（□85）またはペット検出（□45）して撮影した画像は、撮影時に認識した顔を中心に拡大表示します（撮影メニュー（□54）の［**連写**］またはクイックメニュー（□73）の［**ブラケティング**］で撮影した画像を除く）。複数の顔を認識したときは、▲▼◀▶で、別の顔に移動できます。顔以外の位置を拡大するには、いったん拡大率を変更してから▲▼◀▶を押します。
- MENUボタンを押すと、表示されている部分だけにトリミングし、別画像として保存できます（⚯19）。
- ⓞⓚボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。

サムネイル表示/カレンダー表示

1 コマ表示　　サムネイル表示（4コマ/9コマ/16コマ/72コマ）　　カレンダー表示

- 複数の画像を同時に表示するので、目的の画像を探しやすくなります。
- 表示コマ数は、ズームレバー（**W**（⊞）/**T**（Q））で変更できます。
- マルチセレクターを回すか、▲▼◀ ▶で画像を選びⓞⓚボタンを押すと、選んだ画像を1コマ表示します。
- サムネイル表示を72コマにした後、ズームレバーを**W**（⊞）方向に回すと、「カレンダー表示」になります。
- カレンダー表示でマルチセレクターを回すか、▲▼◀ ▶で日付を選んでⓞⓚボタンを押すと、その日に撮影した最初の画像に移動して表示します。

ステップ6　不要な画像を削除する

1 削除したい画像を表示し、🗑ボタンを押す

2 マルチセレクターの▲または▼で［はい］を選び、🆗ボタンを押す

- 削除した画像は、元に戻せません。
- 削除をやめるには、▲または▼で［**いいえ**］を選び、🆗ボタンを押します。

セットアップメニュー（🕮104）の［**削除ボタン設定**］を［**2度押しで削除**］にすると、削除の確認メッセージの表示中に、もう一度🗑ボタンを押すことで画像を削除できます。

✔ 画像削除についてのご注意

- 削除した画像は元に戻せません。残しておきたい画像はパソコンなどに保存することをおすすめします。
- プロテクト設定（🕮89）した画像は、削除されません。
- ［**画質**］（🕮75）の設定を［**NRW (RAW) + FINE**］、［**NRW (RAW) + NORMAL**］または［**NRW (RAW) + BASIC**］にして撮影した画像は、🗑ボタンで削除すると、同時記録したNRW (RAW)とJPEGの画像が両方とも削除されます。
  NRW (RAW)画像またはJPEG画像のどちらかのみを削除するには、再生メニュー(🕮89)の［**削除**］で［**削除画像選択 (NRWのみ)**］または［**削除画像選択 (JPEGのみ)**］を選んで削除します。

撮影モードで画像を削除する

撮影モードで🗑ボタンを押すと、最後に保存した画像を削除できます。

複数の画像をまとめて削除するには

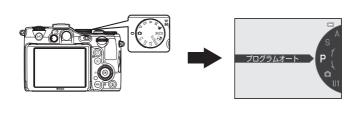
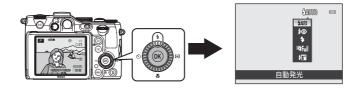
再生メニューの（🕮89）［**削除**］を使って、複数の画像をまとめて削除できます。

削除する画像を絞り込むには

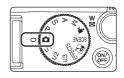
撮影日一覧モードに切り換える(🕮88)と、撮影日ごとに画像を絞り込んで削除できます。

いろいろな撮影

この章では、各撮影モードの特徴や、撮影モードで使える機能などを説明しています。

撮影状況や撮影意図に合わせて設定を変えると、撮影方法や画像の仕上がりを工夫できます。

（オート撮影）モード

基本的な撮影ができます。

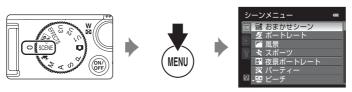
- ピントは、画面中央のエリアで合わせます。

（オート撮影）モードの設定を変える

- マルチセレクターで設定できる機能（□60）→ フラッシュモード（□61）、セルフタイマー（□64）/笑顔自動シャッター（□65）/リモコン（□60）、フォーカスモード（□67）
- 露出補正ダイヤルで設定できる機能 → 露出補正（□71）
- クイックメニューで設定できる機能 → クイックメニューの種類（□73）

同時に設定できない機能

他の機能と組み合わせて使えない場合があります（□80）。

シーンモード（シーンに合わせて撮影する）

MENUボタンを押してシーンメニューを表示すると、以下の撮影シーンを選べます。選んだシーンに適した設定で撮影できます。

おまかせシーン（□40）	夜景（□42）
ポートレート（□40）	クローズアップ（□42）
風景（□40）	料理（□43）
スポーツ（□41）	ミュージアム（□43）
夜景ポートレート（□41）	打ち上げ花火（□43）
パーティー（□41）	モノクロコピー（□43）
ビーチ（□41）	逆光（□44）
雪（□42）	パノラマアシスト（□45）
夕焼け（□42）	ペット（□45）
トワイライト（□42）	

各シーンの説明を見るには（ヘルプ表示）

シーンメニューでシーンの種類を選び、ズームレバー（□4）を**T**（?）方向に回すと、そのシーンの説明（ヘルプ）を表示できます。元の画面に戻るには、もう一度ズームレバーを**T**（?）方向に回します。

シーンモードの設定を変える

- マルチセレクターで設定できる機能（□60）→ シーンによって異なります。「初期設定一覧」をご覧ください（□69）。
- 露出補正ダイヤルで設定できる機能 → 露出補正（□71）
- クイックメニューで設定できる機能 → クイックメニューの種類（□73）

同時に設定できない機能

他の機能と組み合わせて使えない場合があります（□80）。

シーンモードの種類と特徴

- 三脚マークが記載されているシーンでは、三脚などのご使用をおすすめします。三脚などで固定して撮影するときは、セットアップメニュー（□104）の［**手ブレ補正**］を［**OFF**］にしてください。
- フラッシュを使うシーンでは、フラッシュポップアップボタン（フラッシュポップアップ）ボタンを押して、フラッシュをポップアップしてから撮影してください（□7）。

おまかせシーン

構図を決めるだけでカメラが以下の撮影シーンを自動判別して選ぶので、簡単にシーンに適した撮影ができます。

（ポートレート）、（風景）、（夜景ポートレート）、（夜景）、（クローズアップ）、（逆光）、（その他の撮影シーン）

- シーンを自動判別すると、撮影画面の撮影モードアイコンが切り換わります。
- ピント合わせをするエリア（AF エリア）は、構図によってカメラが選びます。カメラが人物の顔を認識すると、顔にピントが合います（顔認識撮影について→ □85）。
- 撮影状況によっては、意図したシーンに切り換わらないことがあります。その場合は、（オート撮影）モード（□28）に切り換えるか、撮影する被写体にあったシーンモードを選んで撮影してください。
- 電子ズームは使えません。

ポートレート

人物のポートレート撮影に使います。

- カメラが人物の顔を認識すると、顔にピントが合います（顔認識撮影について→ □85）。
- 美肌機能で人物の顔の肌をなめらかにしてから画像を記録します（□86）。
- 顔を認識しないときは、画面中央の被写体にピントを合わせます。
- 電子ズームは使えません。

自然の風景や街並みなどを、色鮮やかに撮影したいときに使います。

- シャッターボタンを半押しすると、常に AF/ アクセスランプが緑色に点灯します。

スポーツ

運動会などスポーツ写真を撮影するときに使います。動きのある被写体の一瞬の動きを連写（連続撮影）によって鮮明にとらえます。

- ピントは、画面中央のエリアで合わせます。
- 連写するには、シャッターボタンを全押しし続けます。約 1.2 コマ / 秒の速さで最大約 90 コマまで連写できます（画質が［**NORMAL**］、画像サイズが ［**3648 × 2736**］のとき）。
- シャッターボタンを半押ししていないときもピント合わせを行います。ピント合わせの動作音が聞こえることがあります。
- 連写した画像のピント、露出および色合いは、1 コマ目と同じ条件に固定されます。
- 画質、画像サイズ、SD カードの種類または撮影状況によって、連写速度が遅くなることがあります。

夜景ポートレート

夕景や夜景を背景にした人物撮影に使います。

- カメラが人物の顔を認識すると、顔にピントが合います（顔認識撮影について→ 85）。
- 美肌機能で人物の顔の肌をなめらかにしてから画像を記録します（86）。
- 顔を認識しないときは、画面中央の被写体にピントを合わせます。
- フラッシュをポップアップしてから撮影してください。
- 電子ズームは使えません。

パーティー

パーティー会場などでの撮影に使います。キャンドルライトなどの背景を活かして、雰囲気のある画像に仕上げます。

- ピントは、画面中央のエリアで合わせます。
- 暗い場所では手ブレしやすいため、カメラをしっかり持ってください。三脚などで固定して撮影するときは、セットアップメニュー（104）の［**手ブレ補正**］を［**OFF**］にしてください。

ビーチ

晴天の海や砂浜、湖などを明るく鮮やかに撮影したいときに使います。

- ピントは、画面中央のエリアで合わせます。

雪

晴天の雪景色を明るく鮮やかに撮影したいときに使います。
- ピントは、画面中央のエリアで合わせます。

夕焼け

赤い夕焼けや朝焼けの撮影に使います。
- ピントは、画面中央のエリアで合わせます。

トワイライト

夜明け前や日没後のわずかな自然光の中での風景撮影に使います。
- シャッターボタンを半押しすると、常に AF/ アクセスランプが緑色に点灯します。

夜景

遅いシャッタースピードで、夜景の雰囲気を表現します。
- シャッターボタンを半押しすると、常に AF/ アクセスランプが緑色に点灯します。

クローズアップ

草花や昆虫、小さな被写体などの接写（近接撮影）に使います。
- フォーカスモード（□67）が（マクロ AF）になり、ズームが自動的に最短距離で撮影可能な位置まで移動します。
- ピントを合わせるエリア（AF エリア）を移動できます。移動するには、OK ボタンを押し、マルチセレクターを回すか、▲▼◀▶ を押します。以下の設定をするときは、OK ボタンを押していったん AF エリアが選べる状態を解除し、それぞれの設定を行います。
  - フラッシュモード
  - セルフタイマー
- シャッターボタンを半押ししていないときもピント合わせを行います。ピント合わせの動作音が聞こえることがあります。

料理

料理の撮影に使います。

- フォーカスモード（□67）が（マクロ AF）になり、ズームが自動的に最短距離で撮影可能な位置まで移動します。
- 色合いをマルチセレクターの ▲▼ で調節できます。色合いの設定は、電源を OFF にしても記憶されます。
- ピントを合わせるエリア（AF エリア）を移動できます。移動するには、OK ボタンを押し、マルチセレクターを回すか、▲▼◀▶ を押します。以下の設定をするときは、OK ボタンを押していったん AF エリアが選べる状態を解除し、それぞれの設定を行います。
  - 色合い
  - セルフタイマー
- シャッターボタンを半押ししていないときもピント合わせを行います。ピント合わせの動作音が聞こえることがあります。

ミュージアム

フラッシュ撮影が禁止されている美術館など、フラッシュを発光させたくない場所で使います。

- ピントは、画面中央のエリアで合わせます。
- シャッターボタンを全押しし続けると、最大 10 コマ連写し、最も鮮明に撮れている 1 コマだけをカメラが自動で選んで記録します（BSS（ベストショットセレクター）（□54））。

打ち上げ花火

遅いシャッタースピードで、打ち上げ花火を撮影します。

- ピントは、遠景に固定されます。
- シャッターボタンを半押しすると、常に AF/ アクセスランプが緑色に点灯します。

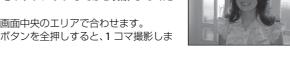
モノクロコピー

ホワイトボードや印刷物などの文字を、シャープに撮影したいときに使います。

- ピントは、画面中央のエリアで合わせます。
- 近くのものを撮影するときは、フォーカスモード（□67）の（マクロ AF）を併用してください。

逆光

逆光状態での撮影に使います。
シーンモードの［**逆光**］を選ぶと表示される画面で、HDR（ハイダイナミックレンジ）合成の［**ON**］または［**OFF**］を選べます。

- ［**OFF**］（初期設定）：人物が陰にならないように、フラッシュを発光します。
  - フラッシュをポップアップしてから撮影してください。
  - ピントは、画面中央のエリアで合わせます。
  - シャッターボタンを全押しすると、1 コマ撮影します。

- ［**ON**］：明暗差の大きい風景撮影に適しています。
  - 撮影画面に HDR アイコンが表示されます。HDR アイコンは、明暗の差が大きいと緑色になります。
  - ピントは、画面中央のエリアで合わせます。
  - シャッターボタンを全押しすると連写し、以下の 2 コマを記録します。
    - 撮影時に D- ライティング（89）処理した画像
    - HDR 合成した画像（白飛びや黒つぶれを抑えた画像）
  - 記録画像の 2 コマ目が HDR 合成した画像になります。記録可能コマ数が 1 コマの場合は、D- ライティング処理した画像のみ記録します。
  - シャッターボタンを全押しした後に静止画が表示されるまで、カメラを動かさないように、しっかり持ってください。撮影終了後、撮影画面に切り換わるまで、電源を OFF にしないでください。
  - 三脚などのご使用をおすすめします。三脚などで固定して撮影するときは、セットアップメニュー（104）の［**手ブレ補正**］を［**OFF**］にしてください。
  - 撮影後の画面に、スミア（2）が発生しますが、記録される画像にはスミアの影響は残りません。
  - 電子ズームは使えません。

いろいろな撮影

パノラマアシスト

パノラマ写真用の画像を複数撮影し、パソコンでパノラマ写真に合成したいときに使います。

- 画像をつなげる方向をマルチセレクターの ▲▼◀▶ で選び、OK ボタンを押します。
- 1 コマ目を撮影したら、画面の表示でつなぎ目を確認しながら必要なコマ数を撮影します。撮影を終了するには、OK ボタンを押します。
- 撮影した画像は、パソコンに取り込んで、付属のソフトウェア「Panorama Maker 5」（92、4）で合成してください。
  →「パノラマアシストの使い方」（3）

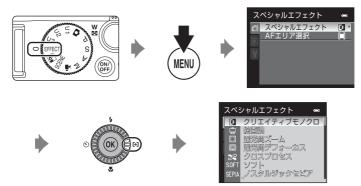
ペット

犬または猫の撮影に使います。

- ［**単写**］または［**連写**］（3 コマ連写）を選びます。
  - ［**単写**］：1 コマずつ撮影します。
  - ［**連写**］（初期設定）：［**ペット自動シャッター**］（初期設定）のときは、検出した顔にピントが合うと、3 コマ連写します（連写速度：画質［**NORMAL**］、画像サイズ［**3648 × 2736**］のとき約1.2コマ/秒）。ペット自動シャッターを使わないときは、シャッターボタンを全押ししている間、最大約 1.2 コマ / 秒で約 90 コマ連写できます（画質［**NORMAL**］、画像サイズ［**3648 × 2736**］のとき）。
- カメラが犬または猫の顔を検出し、その顔にピントを合わせます。初期設定では、ピントが合うと自動でシャッターをきります（ペット自動シャッター）。
- 最大 5 匹の顔を同時に検出します。
- ペットを検出していない状態でシャッターボタンを半押しすると、画面中央の被写体にピントを合わせます。
- マルチセレクターの ◀（セルフタイマー）を押すと、自動シャッターの設定を変更できます。
  - ［**ペット自動シャッター**］（初期設定）：検出した顔にピントが合うと自動でシャッターをきります。［**ペット自動シャッター**］設定時は、撮影画面に が表示されます。
    ［**OFF**］：シャッターボタンのみでシャッターをきります。
- 以下の場合は［**ペット自動シャッター**］が自動的に［**OFF**］になります。
  - 自動シャッターによる連写を 5 回繰り返したとき
  - 撮影中に内蔵メモリーまたは SD カードの残量がなくなったとき

  ペット自動シャッターで撮影を続けるときは、マルチセレクターの◀（セルフタイマー）を押して、再設定してください。
- 電子ズームは使えません。
- ペットとの距離、ペットの動く速さ、顔の向きや明るさなど、撮影条件によっては、犬や猫を検出しないことや、犬や猫以外に枠が表示されることがあります。

スペシャルエフェクトモード（効果を付けて撮影する）

画像に効果を付けて撮影できます。10種類の撮影効果のいずれかを選んで撮影します。
効果を選ぶには、MENUボタンを押してスペシャルエフェクトメニューを表示します。

- 撮影画面でFn1ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回しても、効果を選べます。

- ピント合わせをするエリアは、MENUボタン→タブ→［**AFエリア選択**］の設定によって異なります。
- ［**AFエリア選択**］が［**オート**］（初期設定）のときは、9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアでピントが合います。ピントが合うと、ピントが合った場所のAFエリア表示が緑色に点灯します（最大9カ所）。

スペシャルエフェクトの種類と特徴

項目	内容
クリエイティブモノクロ（初期設定）	粒状感やコントラストを調整した白黒写真を撮影できます。白黒を反転（ソラリゼーション）した写真にすることもできます。 ・粒状感を調整するには、メインコマンドダイヤルを回します。 ・コントラストを調整するには、サブコマンドダイヤルを回します
絵画調	画像処理を行い、絵画のような雰囲気で撮影します。

項目	内容
露光間ズーム※	撮影モードアイコンが緑色に点灯しているときは、シャッターが開いてから閉じるまでの間、**W**（広角）側から**T**（望遠）側にズーム動作して、中心から放射状に広がる流動感のある写真を撮影します。 ・ズームは **W**（広角）端に固定されます。 ・シャッタースピードは、1 秒に固定されます。 ・ズーム動作する倍率（2 倍または 3 倍（初期設定））を切り換えるには、メインコマンドダイヤルを回します。 ・被写体が明るく、シャッタースピードを遅くできないときは、撮影効果を適切に得られません。
露光間デフォーカス※	撮影モードアイコンが緑色に点灯しているときは、シャッターがきれるまでの間にピントをずらして、ソフトフォーカスのような写真を撮影します。 ・被写体が明るく、シャッタースピードを遅くできないときは、撮影効果を適切に得られません。
クロスプロセス	ポジフィルムをネガ現像処理、またはネガフィルムをポジ現像処理したような、通常とは違う反転した色合いで撮影します。 ・色調を選ぶには、メインコマンドダイヤルを回します。 ・周辺光量の ON/OFF を切り換えるには、サブコマンドダイヤルを回します。
ソフト	やわらかな雰囲気にするために、画像全体を少しぼかします。
ノスタルジックセピア	セピア色でコントラストが低めの、昔の写真のような雰囲気にします。
ハイキー	画像全体を明るいトーンで表現します。
ローキー	画像全体を暗いトーンで表現します。
セレクトカラー	画像の特定の色だけを残し、他の部分を白黒にします。 ・残したい色を選ぶには、メインコマンドダイヤルを回します。

※ 三脚などで固定して撮影してください。セットアップメニュー（□104）の［**手ブレ補正**］は［**OFF**］に固定されます。

スペシャルエフェクトモードの設定を変える

- メインコマンドダイヤル、サブコマンドダイヤルで設定できる機能→スペシャルエフェクトによって異なります（□47）。
- マルチセレクターで設定できる機能（□60）→　スペシャルエフェクトによって異なります。「初期設定一覧」をご覧ください（□69）。
- 露出補正ダイヤルで設定できる機能 → 露出補正（□71）
- クイックメニューで設定できる機能 → クイックメニューの種類（□73）
- MENUボタンで設定できる機能 → スペシャルエフェクトメニューの種類（下記）

スペシャルエフェクトメニューの種類

スペシャルエフェクトモードでは、以下の項目の設定が変更できます。

スペシャルエフェクトモードにする → MENUボタン → タブ（□13）

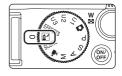
項目	内容	□
AFエリア選択	AF（オートフォーカス）でピント合わせをするエリアの決め方を［**顔認識オート**］、［**オート**］（初期設定）、［**マニュアル**］、［**中央 (スポット)**］、［**中央 (標準)**］または［**中央 (ワイド)**］に設定します。 ・マルチセレクターの ▶（[+]）を押しても設定できます。	48

いろいろな撮影

同時に設定できない機能

他の機能と組み合わせて使えない場合があります（□80）。

ローノイズナイトモード（薄暗いシーンを撮影する）

ISO感度を高めに自動制御します。薄暗いシーンでフラッシュを発光させずに、その場の雰囲気を活かして、ノイズの少ない画像を撮影します。また、ズームの望遠側での撮影で、手ブレや被写体ブレの影響を軽減します。

- ISO感度はISO 400から12800の範囲で自動的に設定されます。
- フラッシュを使うときは、フラッシュをポップアップします。
- ピント合わせをするエリアは、MENUボタン→タブ→［**AFエリア選択**］の設定によって異なります。
- ［**AFエリア選択**］が［**オート**］（初期設定）のときは、9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアでピントが合います。ピントが合うと、ピントが合った場所のAFエリア表示が緑色に点灯します（最大9カ所）。

ローノイズナイトモードについてのご注意

- 薄暗い場面でも手ブレを軽減しますが、フラッシュを使わないときは、三脚などの使用をおすすめします。三脚などで固定して撮影するときは、［**手ブレ補正**］（105）を［**OFF**］にしてください。
- ISO感度を高めにして撮影するため、撮影した画像がざらつくことがあります。
- 常にISO 400以上で撮影されるため、晴天下では適切な露出が得られない（露出がオーバーになる）ことがあります。
- 極端に暗い場面では、ピントが合いにくくなることがあります。
- シャッタースピードは最長1/4秒に制限されます。
- ローノイズナイトモードの場合、選べる画像サイズ（73）は［**2048×1536**］以下です。

内蔵NDフィルターについて

被写体が明るすぎるときなどは、セットアップメニュー（104）の［**内蔵NDフィルター設定**］を設定すると、減光して撮影できます。

関連ページ

オートフォーカスが苦手な被写体→33

ローノイズナイトモードの設定を変える

- マルチセレクターで設定できる機能（□60）→ フラッシュモード（□61）、セルフタイマー（□64）/笑顔自動シャッター（□65）/リモコン（□60）、フォーカスモード（□67）、AFエリア選択
- 露出補正ダイヤルで設定できる機能 → 露出補正（□71）
- クイックメニューで設定できる機能 → クイックメニューの種類（□73）
- MENUボタンで設定できる機能 → ローノイズナイトメニューの種類（下記）

ローノイズナイトモードメニューの種類

ローノイズナイトモードでは、以下の項目の設定が変更できます。

ローノイズナイトモードにする ➔ MENUボタン ➔ タブ（□13）

ローノイズナイトモードメニューの［**連写**］、［**調光補正**］、［**測光方式**］の設定は、他の撮影モードの設定とは連動せずに独立して記憶されます。［**AFエリア選択**］の設定は、電源をOFFにするか、または他の撮影モードに切り換えると、［**オート**］にリセットされます。

項目	内容	□
連写	連続撮影の設定をします。［**単写**］または［**連写**］を選べます。	➡45
調光補正	フラッシュの発光量を補正します。	➡52
測光方式	被写体の明るさを測定する方式を選びます。測定した明るさで露出（シャッタースピードと絞り値の組み合わせ）が決まります。	➡44
AFエリア選択	AF（オートフォーカス）でピント合わせをするエリアの決め方を［**顔認識オート**］、［**オート**］（初期設定）、［**マニュアル**］、［**中央（スポット）**］、［**中央（標準）**］、［**中央（ワイド）**］または［**ターゲット追尾**］に設定します。 • マルチセレクターの▶（[+]）を押しても設定できます。	➡48

同時に設定できない機能

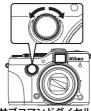
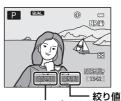
他の機能と組み合わせて使えない場合があります（□80）。

P、S、A、Mモード（露出を設定して撮影する）

撮影状況や撮影意図に合わせて、シャッタースピードや絞り値を自分で設定できるほか、クイックメニュー（□72）や撮影メニュー（□54）の項目を設定して、より本格的な撮影を楽しめます。

- ピント合わせをするエリアは、MENU ボタン→ P、S、A、Mタブ→［**AFエリア選択**］の設定によって異なります。
- ［**AFエリア選択**］が［**オート**］（初期設定）のときは、9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアでピントが合います。ピントが合うと、ピントが合った場所のAFエリア表示が緑色に点灯します（最大9カ所）。

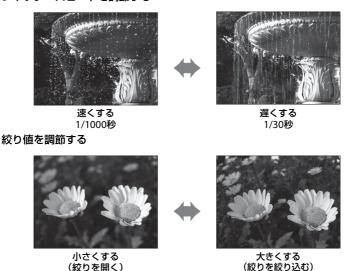
シャッタースピードや絞り値を自分で調節して、画像が意図した明るさ（露出）で撮影されるようにすることを「露出を合わせる」といいます。
同じ露出でもシャッタースピードと絞り値の組み合わせによって撮影される画像の流動感や背景のぼかし具合が変わります。

シャッタースピードや絞り値を設定するには、コマンドダイヤルを回します。

メインコマンドダイヤル

サブコマンドダイヤル

露出モード		シャッタースピード（□83）	絞り値（□52）
P	**プログラムオート**（□53）	自動調節（メインコマンドダイヤルでプログラムシフト可能）	
S	**シャッター優先オート**（□53）	メインコマンドダイヤルで調節	自動調節
A	**絞り優先オート**（□53）	自動調節	サブコマンドダイヤルで調節
M	**マニュアル露出**（□53）	メインコマンドダイヤルで調節	サブコマンドダイヤルで調節

シャッタースピードを調節する

絞り値を調節する

絞りとズームについて

絞り値（F値）とはレンズの明るさを示す値です。レンズの絞り値は、数値が小さくなるほど明るくなり、大きくなるほど暗くなります。レンズの一番明るい絞り値を「開放絞り」といい、一番暗い絞り値を「最小絞り」といいます。

このカメラのズームレンズは、ズーム位置によって絞り値が変化します。広角側の開放絞りはf/2.8、望遠側の開放絞りはf/5.6です。

- ［**ズーム時F値保持**］(□106)を［**ON**］にすると、絞り値の変化を最小限に抑えながらズーム操作できます。

内蔵NDフィルターについて

被写体が明るすぎるときなどは、セットアップメニュー（□104）の［**内蔵NDフィルター設定**］を設定すると、減光して撮影できます。

U1、U2、U3（ユーザーセッティング）モードについて

モードダイヤルのU1、U2、U3（ユーザーセッティング）モードでも、P（プログラムオート）、S（シャッター優先オート）、A（絞り優先オート）またはM（マニュアル露出）で撮影できます。U1、U2、U3には、撮影でよく使う設定の組み合わせ（ユーザーセッティング）を登録できます（⊶58）。

P（プログラムオート）（⚯5）

露出の設定をカメラにまかせて撮影します。

- 撮影中にメインコマンドダイヤルを回すと、露出値を変えずにシャッタースピードと絞り値の組み合わせを変えられます。これを「プログラムシフト」といいます。プログラムシフト中は、液晶モニター左上のP表示の横にプログラムシフトマーク（✱）が表示されます。
- プログラムシフトを解除するには、プログラムシフトマーク（✱）が消えるまでメインコマンドダイヤルを回すか、Fn1 ボタンを押しながらAE-L/AF-Lボタンを押します。モードダイヤルを切り換えたり、電源をOFFにしても、プログラムシフトを解除できます。

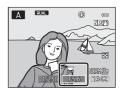
S（シャッター優先オート）（⚯5）

動きの速い被写体を速いシャッタースピードで撮影したり、遅いシャッタースピードで動きを強調するときなどに使います。

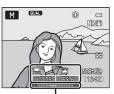
- メインコマンドダイヤルを回すと、シャッタースピードを調節できます。

A（絞り優先オート）（⚯5）

手前から奥まで鮮明に写したり、背景の描写をやわらげたいときなどに使います。

- サブコマンドダイヤルを回すと、絞り値を調節できます。

M（マニュアル露出）（⚯7）

撮影意図に合わせて、露出をコントロールしたいときに使います。

- 設定したシャッタースピードと絞り値の組み合わせによる露出値と、カメラが測定した適正露出値の差が液晶モニターの露出インジケーターに表示されます。露出インジケーターは、－3 EVから+3 EVの範囲で1/3 段ごとに表示されます。
- 露出値の差が－2 EV以下、または+2 EV以上のときは露出インジケーターが赤色で表示されます。
- メインコマンドダイヤルを回すと、シャッタースピードを調節でき、サブコマンドダイヤルを回すと、絞り値を調節できます。

P、S、A、Mモードの設定を変える

- マルチセレクターで設定できる機能（□60）→ フラッシュモード（□61）、セルフタイマー（□64）/笑顔自動シャッター（□65）/リモコン（□60）、フォーカスモード（□67）、AFエリア選択
- 露出補正ダイヤルで設定できる機能 → 露出補正（□71）
- クイックメニューで設定できる機能 → クイックメニューの種類（□73）
- MENUボタンで設定できる機能 → 撮影メニューの種類（下記）

撮影メニューの種類

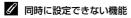
P、S、A、Mモードでは、以下の項目の設定が変更できます。

P、S、A、Mモードにする ➔ MENUボタン ➔ P、S、A、Mタブ（□13）

項目	内容	□
Custom Picture Control	撮影状況や好みに合わせて、記録する画像の画（え）作りを設定できる「COOLPIXピクチャーコントロール」を元に調整したカスタム設定を登録できます。	➡43
測光方式	被写体の明るさを測定する方式を選びます。測定した明るさで露出（シャッタースピードと絞り値の組み合わせ）が決まります。初期設定は［**マルチパターン**］です。	➡44
連写	連続撮影の設定を［**単写**］、［**連写**］、［**フラッシュ連写**］、［**BSS**］（□43）、［**マルチ連写**］、［**インターバル撮影**］から選びます。初期設定は［**単写**］（1コマずつ撮影）です。［**連写**］に設定して、シャッターボタンを全押しし続けると、約1.2コマ/秒の速さで最大約90コマまで連写できます（画質が［**NORMAL**］、画像サイズが 10M［**3648×2736**］のとき）。	➡45

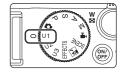
項目	内容	📖
AFエリア選択	AF（オートフォーカス）でピント合わせをするエリアの決め方を［**顔認識オート**］、［**オート**］（初期設定）、［**マニュアル**］、［**中央 (スポット)**］、［**中央 (標準)**］、［**中央 (ワイド)**］または［**ターゲット追尾**］に設定します。 ・マルチセレクターの ▶（[+]）を押しても設定できます。	⚭48
AFモード	シャッターボタンを半押ししたときのみピント合わせを行う［**シングルAF**］（初期設定）、または半押ししていないときもピント合わせを行う［**常時AF**］を選べます。ピント合わせの動作音が聞こえることがあります。	⚭52
調光補正	背景に対する被写体の明るさを調整したいときなどに、フラッシュの発光量を補正できます。初期設定は［**0.0**］です。	⚭52
ノイズ低減フィルター	画像の記録時に通常行うノイズ低減機能の強さを設定します。初期設定は［**標準**］です。	⚭53
長秒時ノイズ低減	暗いところなどで撮影する場合、シャッタースピードが遅くなると、画像にノイズが発生する場合があります。このノイズを低減する設定を行います。初期設定は［**AUTO**］です。	⚭53
ゆがみ補正	レンズの特性によって画像周辺部に生じるゆがみの補正を設定します。ゆがみを補正すると、補正しない場合に比べて、撮影範囲が狭くなります。初期設定は［**OFF**］です。	⚭54
ワイドコンバーター	別売のワイドコンバーター WC-E75Aを使うときは、［**ON**］にします。初期設定は［**OFF**］です。	⚭54
発光切り換え	カメラのアクセサリーシューに取り付けたスピードライト（外付けフラッシュ）を使わないときも、内蔵フラッシュを発光禁止に設定できます。初期設定は［**オート**］です。	⚭55
Active D-ライティング	ハイライトの白とびを抑え、暗部の黒つぶれを軽減し、見た目のコントラストに近い画像で撮影します。初期設定は［**OFF**］です。	⚭56

項目	内容	📖
ズームメモリー	Fn1 ボタンを押しながらズームレバーを操作すると、あらかじめ設定したズームレンズの焦点距離（35mm判換算の撮影画角）に段階的に切り換えできます。 ・初期設定は、すべてのチェックボックスがオン［✔］になっています。	⚯57

同時に設定できない機能

他の機能と組み合わせて使えない場合があります（📖80）。

U1、U2、U3（ユーザーセッティング）モード

撮影でよく使う設定の組み合わせ（ユーザーセッティング）をU1、U2、U3の3通りまで登録できます。P（プログラムオート）、S（シャッター優先オート）、A（絞り優先オート）またはM（マニュアル露出）で撮影できます。

モードダイヤルを回して、U1、U2またはU3に合わせると、［**User Setting 登録**］で登録した設定になります。

- そのまま、構図を決めて撮影するか、必要に応じて設定を変えて撮影します。
- モードダイヤルをU1、U2またはU3に合わせたときの設定の組み合わせは、［**User Setting 登録**］で何度でも再登録できます。
- ［**User Setting 登録**］について詳しくは、⊶58ページをご覧ください。

U1、U2、U3モードの設定を変える

- マルチセレクターで設定できる機能（□60）→ フラッシュモード（□61）、セルフタイマー（□64）/笑顔自動シャッター（□65）/リモコン（□60）、フォーカスモード（□67）、AFエリア選択
- 露出補正ダイヤルで設定できる機能 → 露出補正（□71）
- クイックメニューで設定できる機能 → クイックメニューの種類（□73）
- MENUボタンで設定できる機能
  → U1/U2/U3専用メニューの種類（□58）
  → 撮影メニューの種類（□54）

U1/U2/U3専用メニューの種類

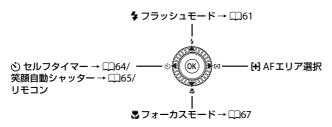
U1、U2、U3モードでは、以下の項目の設定が変更できます。

U1、U2、U3モードにする ➔ MENUボタン ➔ U1、U2、U3タブ（📖13）

項目	内容	📖
User setting 登録	現在の設定内容を登録します。	⛭58
User Setting リセット	U1、U2、U3に登録した設定内容をリセットします。	⛭59
撮影モード	基準となる撮影モードを選びます（初期設定はP）。登録時のプログラムシフトの設定(Pのとき)、シャッタースピード（S、Mのとき）、絞り値（A、Mのとき）も記憶します。	29
焦点距離（35mm判換算）	モードダイヤルを合わせたときのズーム位置を設定します。［**28 mm**］（初期設定）、［**35 mm**］、［**50 mm**］、［**85 mm**］、［**105 mm**］、［**135 mm**］、［**200 mm**］、［**現在のズーム位置**］から選びます。	–
モニター表示設定	モードダイヤルを合わせたときのモニターの表示状態を設定します。セットアップメニューの設定とは、連動しません。	⛭74
水準器の種類	モードダイヤルを合わせたときの水準器の種類を設定します。セットアップメニューの設定とは、連動しません。	⛭74
モニター点灯設定	モードダイヤルを合わせたときの液晶モニターの点灯状態を設定します（初期設定は［**情報ON**］です）。	15
フラッシュ	モードダイヤルを合わせたときのフラッシュモードを設定します。	61
フォーカス	モードダイヤルを合わせたときのフォーカスモードを設定します。フォーカスモードがMF（マニュアルフォーカス）のときは、登録時のフォーカスの距離も記憶します。	67

項目	内容	📖
AFエリア選択	モードダイヤルを合わせたときのAFエリアの決め方を設定します。AFエリア選択が［**マニュアル**］のときは、登録時のAFエリアの位置も記憶します。	⚯48
AF補助光	モードダイヤルを合わせたときのAF補助光の点灯/非点灯を設定します。セットアップメニューの設定とは連動しません。	⚯78

マルチセレクターで設定できる機能

撮影時にマルチセレクターの▲（⚡）、◀（⏲）、▼（🌷）、▶（[+]）を押すと、下記の機能を設定できます。

設定できる機能の種類

設定できる機能は、撮影モードによって、以下のように異なります。

- 各撮影モードの初期設定は「初期設定一覧」（📖69）をご覧ください。

機能		📷	SCENE	EFFECTS	🖼	P、S、A、M、U1、U2、U3	🎥
⚡	フラッシュモード（📖61）	○	※3	※3	○	○	×
⏲	セルフタイマー（📖64）	○			○	○	×
	笑顔自動シャッター（📖65）	○			○	○	×
	リモコン※1	○			○	○	○
🌷	フォーカスモード（📖67）	○			○	○	○
[+]	AFエリア選択※2	×			○	○	×

※1 別売のリモコンML-L3を使ってシャッターをきることができます（⚯105）。記念撮影など自分も一緒に写りたいときや、シャッターボタンを押す操作による手ブレを軽減したいときに便利です。

※2 AF（オートフォーカス）でピント合わせをするエリアの決め方を設定できます（📖54）。マルチセレクターの▶を押したときに、AFエリア選択の設定を表示したくないときは、セットアップメニュー（📖104）の［**マルチセレクター右押し**］を［**OFF**］にしてください。

※3 シーンやスペシャルエフェクトによって異なります。→「初期設定一覧」（📖69）

フラッシュモード（フラッシュを使う）

内蔵フラッシュをポップアップするとフラッシュ撮影ができます。フラッシュの発光モード（フラッシュモード）を撮影状況に合わせて設定できます。

1 ⚡︎（フラッシュポップアップ）ボタンを押し、フラッシュをポップアップする（□7）

- フラッシュを閉じているときは⊛（発光禁止）に固定されます。

2 マルチセレクターの▲（⚡︎ フラッシュモード）を押す

3 マルチセレクターでモードを選び、Ⓚ ボタンを押す

- フラッシュモードの種類→□62
- マニュアル発光を選んだときは、Ⓚボタンを押す前に▶を押し、発光量を選びます。
- ⚡︎（スローシンクロ）または⚡︎（リアシンクロ）を選んだときは、Ⓚ ボタンを押す前に▶を押すと、切り換えできます。
- Ⓚボタンを押さないまま数秒経過すると、選択が決定されて設定メニューが消えます。
- ⚡︎AUTO（自動発光）にするとモニター情報表示（□15）がONでも、⚡︎AUTOは数秒間で消えます。

4 構図を決めて撮影する

- シャッターボタンを半押しすると、フラッシュランプでフラッシュの状態を確認できます。
  - 点灯：シャッターボタンを全押しすると、発光します。
  - 点滅：フラッシュの充電中です。撮影できません。
  - 消灯：発光しません。
- バッテリー残量が少なくなると、フラッシュの充電中は液晶モニターが消灯します。

フラッシュの収納

フラッシュを使わないときは、フラッシュを手で軽く押し下げて、閉じてください（□7）。

内蔵フラッシュの光が届く距離

内蔵フラッシュの光が充分に届く距離は、広角側で約0.3～9.0 m、望遠側で約0.3～4.5 mです（［**ISO感度設定**］が［**オート**］時）。

フラッシュモードの種類

AUTO 自動発光

暗い場所などで、自動的にフラッシュを発光します。

赤目軽減自動発光

人物撮影に適しており、フラッシュで人物の目が赤く写る「赤目現象」を軽減します（63）。

発光禁止

フラッシュは発光しません。

- シーンモードが（おまかせシーン）のとき、または別売のスピードライト（外付けフラッシュ）を取り付けているときに選べます。
- 暗い場所で撮影するときは、手ブレしやすくなるため、三脚などの使用をおすすめします。

強制発光

被写体の明るさに関係なく、フラッシュを発光します。逆光で撮影するときなどに使います。

M マニュアル発光

内蔵フラッシュの発光量を設定して強制発光します。

- 発光量は、[MFull]（フル発光)、[M1/2]、[M1/4]、[M1/8]、[M1/16]、[M1/32]、[M1/64］から選べます。例えば［M1/16］を選ぶと、フル発光の 1/16 になります。
- 別売のスピードライトを取り付けているときは選べません。

スローシンクロ/ リアシンクロ

- スローシンクロ：
  強制発光モードにスロー（低速）シャッターを組み合わせて撮影します。夕景や夜景を背景にした人物撮影に適しています。フラッシュでメインの被写体を明るく照らすと同時に、遅いシャッタースピードで背景を写します。
- リアシンクロ：
  シャッターが閉じる直前にフラッシュを強制発光します。動いている被写体の後方に流れる光や軌跡などを表現したいときなどに適しています。

フラッシュモードの設定について

- 設定は、撮影モードによって異なります。
  →「設定できる機能の種類」（60）
  →「初期設定一覧」（69）
- 他の機能と組み合わせて使えない場合があります。→「同時に設定できない機能」（80）
- 以下の場合、変更したフラッシュモードの設定は、電源をOFFにしても記憶されます。
  - 撮影モードP、S、A、Mの場合
  - （オート撮影）モードで、（赤目軽減自動発光）にして撮影した場合

赤目軽減自動発光について

このカメラは、「アドバンスト赤目軽減方式」を採用しています。
フラッシュが本発光する前に、小光量で数回発光する「プリ発光」で赤目現象の発生を軽減します。さらに、画像の記録時に赤目現象を検出すると、赤目部分を画像補正して記録します。
撮影する際は、以下にご注意ください。

- プリ発光するため、シャッターボタンを押してからシャッターがきれるまでに、通常よりも時間がかかります。
- 画像の記録にかかる時間は、通常よりも少し長くなります。
- 撮影状況によっては、望ましい結果を得られないことがあります。
- ごくまれに赤目以外の部分を補正することがあります。この場合は、他のフラッシュモードにして撮影し直してください。
- NRW (RAW) 画像（📖75）で記録するときの赤目軽減処理は、本発光前のプリ発光のみになります（JPEG同時記録時のJPEG画像を含む）。

セットアップメニュー（📖104）の［**赤目軽減プリ発光**］を［**OFF**］にすると、シャッターボタンの全押しですぐにシャッターがきれます。

外付けフラッシュについて

アクセサリーシュー（📖2）に、以下のニコン製スピードライトを取り付けて撮影できます。

- スピードライト SB-400、SB-600、SB-700、SB-800、SB-900
- ワイヤレススピードコマンダー SU-800

セルフタイマーを使う

記念撮影などで自分も一緒に写りたいときや、シャッターボタンを押す操作による手ブレを軽減したいときは、セルフタイマーが便利です。
セルフタイマー撮影時は、三脚の使用をおすすめします。三脚などで固定して撮影するときは、セットアップメニュー（□104）の［**手ブレ補正**］を［**OFF**］にしてください。

1 マルチセレクターの ◀（セルフタイマー）を押す

2 マルチセレクターで［**10s**］（または［**2s**］）を選び、OKボタンを押す

- セルフタイマーの時間を変更するときは、OKボタンを押す前に▶を押すと、変更できます。
- ［**10s**］（10秒）：記念撮影などに適しています。
- ［**2s**］（2秒）：手ブレの軽減に適しています。
- 撮影モードがシーンモードの［**ペット**］のときは、（ペット自動シャッター）が表示されます（□45）。セルフタイマー［**10s**］、［**2s**］は使えません。
- 設定したセルフタイマーモードが表示されます。
- OKボタンを押さないまま数秒経過すると、選択が決定されて設定メニューが消えます。

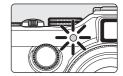
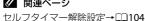
3 構図を決め、シャッターボタンを半押しする

- ピントと露出を合わせます。

4 シャッターボタンを全押しする

- セルフタイマーが作動し、シャッターがきれるまでの秒数が表示されます。作動中はセルフタイマーランプが点滅し、シャッターがきれる約1秒前になると、点灯に変わります。
- シャッターがきれると、セルフタイマーは［**OFF**］になります。
- セルフタイマーを途中で止めるときは、もう一度シャッターボタンを押します。

関連ページ

セルフタイマー解除設定→□104

笑顔自動シャッター（笑顔を撮影する）

カメラが人物の笑顔を検出すると、シャッターボタンを押さなくても自動でシャッターがきれます。

- 撮影モードが（オート撮影）、P、S、A、M、U1、U2、U3、（ローノイズナイト）、シーンモードの［**ポートレート**］または［**夜景ポートレート**］のときに使えます。

1 マルチセレクターの◀（セルフタイマー）を押す

- フラッシュモード、露出、撮影メニューなどを設定するときは、を押す前に設定してください。

2 マルチセレクターで（笑顔自動シャッター）を選び、OKボタンを押す

- OKボタンを押さないまま数秒経過すると、選択が決定されて設定メニューが消えます。

3 構図を決め、シャッターボタンを押さずに笑顔を待つ

- カメラが人物の顔を認識すると、顔が黄色い二重枠のAFエリア表示で囲まれ、ピントが合うと二重枠が一瞬緑色になりピントが固定されます。
- 最大3 人の顔を認識します。複数の顔を認識したときは、最も画面の中央に近い顔が二重枠のAFエリア表示で囲まれ、他の顔が一重枠で囲まれます。
- カメラが二重枠で囲まれた人物の笑顔を検出すると、自動的にシャッターがきれます。
- シャッターがきれるたびに、顔認識と笑顔検出による自動撮影を繰り返します。

4 撮影を終了する

- 笑顔検出による自動撮影を終了するには、手順1に戻って［**OFF**］を選びます。

笑顔自動シャッターについてのご注意

- 電子ズームは使えません。
- 笑顔自動シャッター中は、[□]ボタンを押しても液晶モニターOFFにはなりません(📖15)。
- 撮影条件などによっては、適切に顔の認識や笑顔の検出ができないことがあります。
- 「顔認識撮影した画像の再生について」→📖85
- 撮影モードによっては、笑顔自動シャッターを使えません。
  →「設定できる機能の種類」(📖60)
  →「初期設定一覧」(📖69)
- 他の機能と組み合わせて使えない場合があります。→「同時に設定できない機能」(📖80)

セルフタイマーランプの点滅について

笑顔自動シャッターでは、カメラが顔を認識すると点滅し、シャッターがきれた直後は速く点滅します。

手動でシャッターをきるには

シャッターボタンを押してもシャッターがきれます。顔認識していないときは、画面中央の被写体にピントが合います。

関連ページ

オートフォーカスが苦手な被写体 → 📖33

フォーカスモードを使う

撮影目的に合わせて、以下のフォーカスモードを選べます。

1 マルチセレクターの▼（フォーカスモード）を押す

2 マルチセレクターでフォーカスモードを選び、OKボタンを押す

- フォーカスモードの種類→□68
- OKボタンを押さないまま数秒経過すると、選択が決定されて設定メニューが消えます。
- AF（通常AF）にするとモニター情報表示（□15）がONでも、AFが数秒間で消えます。

フォーカスモードの種類

AF　通常AF

被写体までの距離に応じて自動的にピントを合わせます。レンズから50 cm以上（最も望遠側の場合は80 cm以上）離れた被写体を撮影するときに使います。

マクロAF

花や虫など小さな被写体の近接撮影に使います。
被写体に近づいて撮影できる距離は、ズーム位置によって異なります。
マークやズーム表示が緑色で表示されるズーム位置では、レンズ前約7 cmまでの被写体にピント合わせができます。最も広角側（マークのズーム位置）では、レンズ前約2 cmまでの被写体にピント合わせができます。

遠景AF

窓越しの景色や風景、建物などを撮影するときに使います。
シャッターボタンを半押しすると、常にAF/アクセスランプが緑色に点灯します。ただし、近くの被写体にはピントが合わないことがあります。フラッシュモードは、（発光禁止）になります。

MF　マニュアルフォーカス

レンズ前約2 cm～無限遠（∞）の任意の被写体にピントを合わせられます（2）。最短撮影距離は、ズーム位置によって異なります。
・P、S、A、M、U1、U2、U3、（ローノイズナイト）、スペシャルエフェクトモード、シーンモードの［**スポーツ**］のときに使えます。

フラッシュ撮影についてのご注意

（マクロAF）で撮影距離が30 cm未満の場合、フラッシュの光が充分に行き渡らないことがあります。

フォーカスモードの設定について

- 設定は、撮影モードによって異なります。
  →「設定できる機能の種類」（60）
  →「初期設定一覧」（69）
- 他の機能と組み合わせて使えない場合があります。→「同時に設定できない機能」（80）
- 撮影モードP、S、A、Mの場合、変更したフォーカスモードの設定は、電源をOFFにしても記憶されます。

マクロAFについて

P、S、A、M、U1、U2、U3モードの場合は、撮影メニュー（54）→［**AFモード**］、（動画）モードの場合は、動画メニュー（101）→［**AFモード**］の［**常時AF**］と組み合わせると、シャッターボタンを半押ししなくても、ピント合わせを行います。
それ以外の撮影モードでは、マクロAFになると、自動的に［**常時AF**］になります。
オートフォーカスの動作音が聞こえることがあります。

遠景AFについて

（オート撮影）モード、P、S、A、M、U1、U2、U3モード、（ローノイズナイト）モード、スペシャルエフェクトモードで遠景AFに設定したときは、画面にAFエリアは表示されません。

いろいろな撮影

初期設定一覧

各撮影モードの初期設定は以下のとおりです。

- シーンモードについては、次ページをご覧ください。

撮影モード	フラッシュモード※1 (□61)	セルフタイマー (□64)	フォーカスモード (□67)	AFエリア選択 (□55)
(オート撮影) (□38)	AUTO	OFF	AF※2	–
EFFECTS (スペシャルエフェクト) (□46)	AUTO※3	OFF※4	AF	[■]※5
(ローノイズナイト) (□49)	AUTO	OFF	AF	[■]
P、S、A、M(□51)	AUTO	OFF	AF	[■]
U1、U2、U3 (ユーザーセッティング) (□57)	AUTO	OFF	AF	[■]
(動画) (□98)	※6	OFF※7	AF※2	–

※1 フラッシュを閉じているときは （発光禁止）に固定されます。内蔵フラッシュ使用時は、（発光禁止）を選べません。別売スピードライト使用時は、M（マニュアル発光）を選べません。

※2 AF（通常AF）、（マクロAF）または（遠景AF）に変更できます。

※3 ［**絵画調**］と［**露光間ズーム**］の場合は、（発光禁止）に固定されます。
［**露光間デフォーカス**］の場合は、（発光禁止）または（スローシンクロ）に変更できます。

※4 笑顔自動シャッターには、変更できません。

※5 （ターゲット追尾）は、使えません。
［**露光間ズーム**］の場合は、［**中央（標準）**］に固定されます。

※6 変更できません。

※7 瞬時リモコンに変更できます。

- 撮影モードP、S、A、Mの場合、設定した内容は、電源をOFFにしても記憶されます（セルフタイマーを除く）。

マルチセレクターで設定できる機能

シーンモードの初期設定は以下のとおりです。

	フラッシュモード（□61）	セルフタイマー（□64）	フォーカスモード（□67）	AFエリア選択（□55）
（□40）	⚡AUTO※1	OFF※2	AF※3	–
（□40）	⚡◉	OFF	AF※3	–
（□40）	⊛※3	OFF※2	▲※3	–
（□41）	⊛※3	OFF※3	AF※4	–
（□41）	⚡◉※5	OFF	AF※3	–
（□41）	⚡◉※6	OFF※2	AF※3	–
（□41）	⚡AUTO	OFF※2	AF※3	–
（□42）	⚡AUTO	OFF※2	AF※3	–
（□42）	⊛※3	OFF※2	AF※3	–
（□42）	⊛※3	OFF※2	▲※3	–
（□42）	⊛※3	OFF※2	▲※3	–
（□42）	⚡AUTO	OFF※2	🌷※3	–
（□43）	⊛※3	OFF※2	🌷※3	–
（□43）	⊛※3	OFF※2	AF※7	–
（□43）	⊛※3	OFF※8	▲※3	–
（□43）	⚡AUTO	OFF※2	AF※7	–
（□44）	⚡/⊛※9	OFF※2	AF※3	–
（□45）	⚡AUTO	OFF※2	AF※10	–
（□45）	⊛※3	※11	AF※7	–

※1 ⚡AUTO（自動発光）か⊛（発光禁止）を選べます。⚡AUTO（自動発光）では、自動判別したシーンに合わせて、カメラがフラッシュモードを設定します。
※2 セルフタイマーまたはリモコンに変更できます。
※3 変更できません。
※4 AF（通常AF）またはMF（マニュアルフォーカス）に変更できます。
※5 変更できません。赤目軽減スローシンクロ強制発光に固定されます。
※6 赤目軽減スローシンクロに切り換わることがあります。
※7 AF（通常AF）または🌷（マクロAF）に変更できます。
※8 瞬時リモコンに変更できます。
※9 ［**HDR**］が［**OFF**］のときは⚡（強制発光）に固定されます。［**HDR**］が［**ON**］のときは⊛（発光禁止）に固定されます。
※10 AF（通常AF）、🌷（マクロAF）または▲（遠景AF）に変更できます。
※11 セルフタイマーは使えません。ペット自動シャッター（□45）のON/OFFを設定できます。

同時に設定できない機能

他の機能と組み合わせて使えない場合があります（□80）。

露出補正ダイヤルで設定できる機能

露出補正（明るさを調整する）

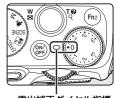
露出補正を設定して撮影すると、画像全体の明るさを明るく、または暗く調整できます。

1 露出補正ダイヤルを回して補正値を選ぶ

- 被写体を明るくしたいとき：補正値を「+」側に設定します。
- 被写体を暗くしたいとき：補正値を「−」側に設定します。

露出補正ダイヤル指標

- ［**0.0**］以外に設定すると、液晶モニターに露出補正マークと補正値が表示され、撮影時は露出補正ダイヤルの指標が点灯します。

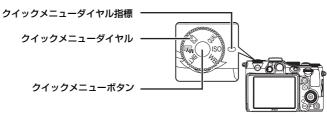
補正値

2 シャッターボタンを押して撮影する

露出補正の設定について

- 撮影モードが、シーンモードの［**打ち上げ花火**］（□43）または M（マニュアル露出）モード（⊶7）の場合、露出補正は使えません。
- 動画撮影中に、露出補正ダイヤルを操作しても露出補正の値は反映しません。

クイックメニューで設定できる機能

撮影時にクイックメニューダイヤルを回すと、指標を合わせた機能のクイックメニューを表示します。クイックメニューの表示中は、クイックメニューダイヤル指標が点灯します。

- クイックメニューボタンを押しても、クイックメニューを表示できます。
- クイックメニューを終了するには、クイックメニューボタンを押すか、シャッターボタンを押します。

設定できる機能は、撮影モードによって異なります。

ダイヤル位置	機能	📷	P、S、A、M、U1、U2、U3	SCENE	EFFECTS	🖼	🎥
QUAL	画質/画像サイズ（📖73）	○	○	○	○	○	×
	動画設定（📖73）	×	×	×	×	×	○
ISO	ISO感度設定（📖73）	×	○	×	×	×	×
WB	ホワイトバランス（📖73）	×	○	×	×	○	○
BKT	ブラケティング（📖73）	×	○	×	×	×	×
My	マイメニュー（📖73）	×	○	×	×	×	×
🎨	Picture Control（📖73）	×	○	×	×	×	×

同時に設定できない機能

他の機能と組み合わせて使えない場合があります（📖80）。

クイックメニューの種類

項目	内容	📖
QUAL **画質/画像サイズ**	記録する画質（画像の圧縮率）や画像サイズ（画像の大きさ）を設定します（📖74）。初期設定は画質が［**NORMAL**］、画像サイズが 10M［**3648 × 2736**］です。 この設定は、他の撮影モードにも適用されます。（ローノイズナイトモード、撮影モードU1、U2、U3を除く）。	74
QUAL **動画設定**	撮影する動画の種類を設定します。 初期設定は、720/30p［**HD 720p（1280×720）**］です。	➡42
ISO **ISO感度設定**	ISO感度を高くするほど、より暗い被写体を撮影できます。また、同じ明るさの被写体でも、より速いシャッタースピードで撮影でき、手ブレや被写体ブレを軽減しやすくなります。［**オート**］（初期設定）では、カメラが自動でISO感度を設定します。 ・M（マニュアル露出）モードのときに［**オート**］、［**高感度オート**］、［**ISO 100-200**］または［**ISO 100-400**］に設定すると、ISO 感度は ISO 100 に固定されます。	➡30
WB **ホワイトバランス**	画像の色合いを見た目に近づけたいときなどに設定します。［**オート（標準）**］（初期設定）で状況に対応できますが、思い通りの色合いにならないときは、天候や光源に合わせて設定してください。 ・プリセットマニュアルのプリセット値は、撮影モード P、S、A、M、U1、U2、U3、ローノイズナイトモード、または動画で共通です。	➡32
BKT **ブラケティング**	シャッタースピード（Tv）またはISO感度（Sv）で露出（明るさ）を自動的に変えて連続撮影したり、ホワイトバランス（WB）をずらした複数の画像を記録したりできます。初期設定は［**OFF**］です。	➡36
My **マイメニュー**	撮影時によく使うメニュー項目だけを表示できます。 ・マイメニューで表示する項目は、セットアップメニュー（📖104）の［**マイメニュー登録**］で変更できます。	➡90
🅟 Picture Control	撮影状況や好みに合わせて、記録する画像の画（え）作りを設定できます。初期設定は［**スタンダード**］です。	➡38

画質と画像サイズを変える

撮影画面にする ➔ QUAL（クイックメニューダイヤル）（□72）➔ 画質/画像サイズ

記録時の画質（画像の圧縮率）や画像サイズ（画像の大きさ）を選べます。

1 マルチセレクターの◀　▶を押して画質の種類（□75）を選ぶ

- メインコマンドダイヤルを回しても項目を選べます。
- 画質のみ変更するときは、画質の種類を選んだ後、クイックメニューボタンを押します。
- 続けて画像サイズを変更するときは、マルチセレクターの▼を押します。

2 画像サイズの種類（□77）を選ぶ

記録可能コマ数

- ［**画質**］が［**NRW (RAW)**］のときは、［**画像サイズ**］を選べません。
- 選んでいる画像サイズでの記録可能コマ数が表示されます。
- マルチセレクターの▲を押すと画質の設定に戻ります。

3 設定が終わったら、クイックメニューボタンまたは®ボタンを押す

- 撮影画面に戻ります。

画質の種類

画質を高くするほど、画像の細部の描写が保たれますが、ファイルサイズが大きくなるため、記録できるコマ数は少なくなります。

項目		内容
FINE	FINE	［**NORMAL**］よりも精細な画質になります。画像を拡大するときや、プリンターで細かく表現したいときなどに適しています。 ファイル形式：JPEG、圧縮率：約1/4
NORM	NORMAL （初期設定）	一般的な撮影に適した画質モードです。 ファイル形式：JPEG、圧縮率：約1/8
BASIC	BASIC	画質は［**NORMAL**］よりも低くなりますが、電子メールの添付やホームページ掲載に適しています。 ファイル形式：JPEG、圧縮率：約1/16
NRW+ FINE	NRW (RAW) + FINE※	NRW (RAW)とFINE（JPEG）の2種類の画像を同時に記録します。
NRW+ NORM	NRW (RAW) + NORMAL※	NRW (RAW)とNORMAL（JPEG）の2種類の画像を同時に記録します。
NRW+ BASIC	NRW (RAW) + BASIC※	NRW (RAW)とBASIC（JPEG）の2種類の画像を同時に記録します。
NRW	NRW (RAW)※	撮像素子の生データを記録します。撮影後は、再生メニュー（□89）の［**NRW (RAW) 現像**］を使って、JPEG形式の画像を作成します。 • ［**NRW (RAW)**］を選ぶと、［**画像サイズ**］は、10M［**3648 × 2736**］にリセットされます。 ファイル形式：NRW (RAW)

※ シーンモード、スペシャルエフェクトモード（［**露光間ズーム**］、［**露光間デフォーカス**］を除く）、ローノイズナイトモードでは選べません。

COOLPIX P7100のNRW (RAW) 画像について

- 撮影した画像ファイルの拡張子は、「.NRW」になります。
- NRW (RAW) 画像は、そのままではプリントできません。［**NRW (RAW) 現像**］でJPEG 形式の画像を作成すると、PictBridge 対応プリンターやプリントサービス店でのプリントができます。
- NRW (RAW) 画像は、そのままではNRW (RAW) 現像以外の画像編集ができません。画像編集するときは、［**NRW (RAW) 現像**］（➡17）を使って作成したJPEG形式の画像を編集してください。
- パソコンでNRW (RAW) 画像を表示するには、ViewNX 2をインストールする必要があります。Capture NX 2でもNRW (RAW) 画像を扱えます。
- ViewNX 2は、付属のViewNX 2 CD-ROM を使ってパソコンにインストールできます（「ViewNX 2を使う」📖92をご覧ください）。
  ViewNX 2の使い方は、ViewNX 2の操作画面やヘルプをご覧ください。

画質の設定について

- 画質の設定は、撮影時や再生時の画面で確認できます（📖8～10）。
- 設定は、他の撮影モードにも適用されます（撮影モードU1、U2、U3を除く）。
- 以下の撮影モードでは、NRW (RAW) 画像を記録できません。
  - シーンモード
  - スペシャルエフェクト（［**露光間ズーム**］、［**露光間デフォーカス**］を除く）
  - ローノイズナイトモード

  他の撮影モードからシーンモード、またはスペシャルエフェクト（［**露光間ズーム**］、［**露光間デフォーカス**］を除く）にすると、画質は以下のように切り換わります。
  - ［**NRW (RAW)**］のとき：［**NORMAL**］に切り換わります。
  - ［**NRW (RAW) + FINE**］、［**NRW (RAW) + NORMAL**］、［**NRW (RAW) + BASIC**］のとき：それぞれ［**FINE**］、［**NORMAL**］、［**BASIC**］に切り換わります。
- ［**画質**］が［**NRW (RAW)**］、［**NRW (RAW) + FINE**］、［**NRW (RAW) + NORMAL**］または［**NRW (RAW) + BASIC**］のときは、電子ズームは使えません。
- 他の機能と組み合わせて使えない場合があります。→「同時に設定できない機能」（📖80）

NRW (RAW) 画像とJPEG画像の同時記録について

- 同時記録したNRW (RAW) 画像とJPEG画像は、同じファイル番号で拡張子がそれぞれ「.NRW」と「.JPG」になります（➡99）。
- カメラでの再生時は、JPEG画像だけが表示されます。
- JPEG画像を🗑ボタンを押して削除すると、同時記録したNRW (RAW) 画像も削除されますので、ご注意ください。

関連ページ

- 記録可能コマ数→📖78
- 記録データのファイル名とフォルダー名→➡99

画像サイズの種類

画質を［**FINE**］、［**NORMAL**］または［**BASIC**］で記録するときの、JPEG画像の大きさ（ピクセル数）を設定します。
画像サイズを大きくするほど、大きくプリントするのに適していますが、ファイルサイズが大きくなるため、記録できるコマ数は少なくなります。
サイズの小さい画像は、電子メールの添付やホームページ掲載に適しています。ただし、サイズが小さい画像を大きくプリントしようとすると、粒子の粗い画像になります。

項目※	内容
3648×2736 **（初期設定）**	［**3264×2448**］、［**2592×1944**］よりも精細な画像になります。
3264×2448	ファイルサイズと画像のバランスが良く、一般的な撮影に適した画像サイズです。
2592×1944	
2048×1536	［**3648×2736**］、［**3264×2448**］、［**2592×1944**］よりも画像サイズが小さいため、より多く撮影できます。
1600×1200	
1280×960	
1024×768	パソコンのモニターなどへの表示に適した画像サイズです。
640×480	電子メールへの添付や画面の縦横比が4:3のテレビへの表示に適しています。
3648×2432	35mm判フィルムカメラで撮影したときと同じ縦横比（3:2）の画像になります。
3584×2016	ワイドテレビと同じ縦横比（16:9）の画像になります。
2736×2736	正方形の画像になります。

※　記録データの総画素数と長辺×短辺の画素数を表しています。
　　例：3648×2736：約10メガピクセル＝3648×2736ピクセル

画像サイズの設定について

- 画像サイズの設定は、撮影時や再生時の画面で確認できます（□8～10）。
- 設定は、他の撮影モードにも適用されます（ローノイズナイトモード、撮影モードU1、U2、U3を除く）。
- ローノイズナイトモードの場合、選べる画像サイズは［**2048×1536**］以下です。
- 記録されたNRW (RAW) 画像は［**NRW (RAW) 現像**］（⊶17）で、作成するJPEG画像のサイズを選べます（最大3648×2736ピクセル）。
- ［**NRW (RAW) + FINE**］、［**NRW (RAW) + NORMAL**］、［**NRW (RAW) + BASIC**］のときは、JPEG画像の［**画像サイズ**］を設定できます。ただし、［**3648×2432**］、［**3584×2016**］、［**2736×2736**］は選べません。
- 他の機能と組み合わせて使えない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□80）

記録可能コマ数

それぞれの［**画像サイズ**］（□77）と［**画質**］（□75）の組み合わせで、内蔵メモリーや4 GBのSDカードに記録できるおおよそのコマ数は以下のとおりです。ただし、JPEG圧縮の性質上、画像の絵柄によって記録可能コマ数は大きく異なります。同じ容量のSDカードでも、カードの種類によって、記録可能コマ数が異なることがあります。

画像サイズ	画質	内蔵メモリー（約 94 MB）	SDカード※1（4 GB）	プリント時のサイズ※2
3648×2736（初期設定）	FINE NORMAL BASIC NRW (RAW)	約19コマ 約38コマ 約75コマ 約5コマ	約770コマ 約1540コマ 約3010コマ 約230コマ	約31×23 cm※3
3264×2448	FINE NORMAL BASIC	約24コマ 約48コマ 約93コマ	約970コマ 約1910コマ 約3650コマ	約28×21 cm
2592×1944	FINE NORMAL BASIC	約38コマ 約74コマ 約140コマ	約1520コマ 約2940コマ 約5480コマ	約22×16 cm
2048×1536	FINE NORMAL BASIC	約60コマ 約116コマ 約216コマ	約2410コマ 約4640コマ 約8620コマ	約17×13 cm
1600×1200	FINE NORMAL BASIC	約96コマ 約183コマ 約319コマ	約3770コマ 約7100コマ 約12000コマ	約14×10 cm
1280×960	FINE NORMAL BASIC	約144コマ 約263コマ 約433コマ	約5740コマ 約10000コマ 約17200コマ	約11×8 cm
1024×768	FINE NORMAL BASIC	約216コマ 約378コマ 約606コマ	約8620コマ 約15000コマ 約24100コマ	約9×7 cm
640×480	FINE NORMAL BASIC	約433コマ 約673コマ 約866コマ	約17200コマ 約24100コマ 約30100コマ	約5×4 cm
3648×2432	FINE NORMAL BASIC	約22コマ 約43コマ 約84コマ	約870コマ 約1720コマ 約3350コマ	約31×21 cm
3584×2016	FINE NORMAL BASIC	約26コマ 約53コマ 約102コマ	約1060コマ 約2110コマ 約4020コマ	約30×17 cm
2736×2736	FINE NORMAL BASIC	約26コマ 約51コマ 約99コマ	約1030コマ 約2040コマ 約3890コマ	約23×23 cm

※1 記録可能コマ数が10,000コマ以上の場合、画面には「9999」と表示されます。
※2 出力解像度を300 dpiに設定した場合のサイズです。
ピクセル数÷プリンター解像度（dpi）× 2.54 cm で計算しています。同じ画像サイズでも、高い解像度で印刷すると印刷サイズは小さくなり、低い解像度で印刷すると、印刷サイズは大きくなります。
※3 NRW (RAW) 画像のプリント時のサイズは、NRW (RAW) 現像（⚯17）したときの画像サイズによって異なります。

画像サイズ1:1の画像をプリントするときのご注意

画像サイズを「1:1」にして撮影した画像をプリントするときは、プリンターの設定を「フチあり」にしてください。
プリンターによっては、画像を1:1の縦横比でプリントできない場合があります。
詳しくは、お使いのプリンターの使用説明書またはプリントサービス店などでご確認ください。

同時に設定できない機能

撮影時の設定には、他の機能と組み合わせて使えない設定があります。

制限される機能	設定	内容
フラッシュモード	フォーカスモード（□67）	▲（遠景AF）にして撮影するときは、フラッシュは使えません。
	連写（□54）	・［**BSS**］、［**マルチ連写**］にして撮影するときは、フラッシュは使えません。 ・連写にして撮影するときは、内蔵フラッシュは使えません（□84）。 ・［**フラッシュ連写**］にして撮影するときは、内蔵フラッシュが ⚡（強制発光）に固定されます。スピードライト（外付けフラッシュ）は使えません（□84）。
	ブラケティング（□73）	内蔵フラッシュは使えません。
	ワイドコンバーター（□55）	［**ON**］に設定して撮影するときは、フラッシュは使えません。
	発光切り換え（□55）	［**発光切り換え**］が［**内蔵発光禁止**］のときは、⚡◎（赤目軽減自動発光）、M⚡（マニュアル発光）、⚡（スローシンクロ）、⚡（リアシンクロ）は選べません。
セルフタイマー / 笑顔自動シャッター / リモコン	AFエリア選択（□55）	［**ターゲット追尾**］にして撮影するときは、セルフタイマー /笑顔自動シャッター /リモコンは使えません。
フォーカスモード	笑顔自動シャッター（□65）	笑顔自動シャッターを使って撮影するときは、AF（通常AF）に変更されます。
	連写（□54）	［**フラッシュ連写**］にして撮影するときは、▲（遠景AF）は使えません。
	AFエリア選択（□55）	［**ターゲット追尾**］にして撮影するときは、MF（マニュアルフォーカス）は使えません。
画質	連写（□54）	［**マルチ連写**］にして撮影するときは、［**画質**］は［**NORMAL**］に固定されます。
画像サイズ	画質（□75）	・［**画質**］が［**NRW (RAW)**］のときは、［**画像サイズ**］が 10M［**3648 × 2736**］に固定されます。 ・［**NRW (RAW) + FINE**］、［**NRW (RAW) + NORMAL**］、［**NRW (RAW) + BASIC**］のときは、JPEG 画像の［**画像サイズ**］を設定できます。ただし、3:2［**3648 × 2432**］、16:9 7M［**3584 × 2016**］、1:1［**2736 × 2736**］は選べません。
	連写（□54）	［**マルチ連写**］にして撮影するときは、［**画像サイズ**］は 5M（2560 ×1920ピクセル）に固定されます。
ISO感度設定	連写（□54）	［**マルチ連写**］で撮影するときは、撮影モードがP、S、A の場合、［**ISO感度設定**］は明るさに応じて自動的に設定されます。撮影モードがMの場合、ISO感度は400に固定されます。

制限される機能	設定	内容
ホワイトバランス	Picture Control（□73）	［**モノクローム**］にして撮影するときは、［**ホワイトバランス**］は［**オート（標準)**］に固定されます。
	ワイドコンバーター（□55）	［**ON**］に設定して撮影するときは、［**プリセットマニュアル**］は使えません。
Picture Control	Active D-ライティング（□55）	［**Active D-ライティング**］を使って撮影するときは、「手動調整」の［**コントラスト**］を調整できません。
測光方式	AFエリア選択（□55）	• ［**測光方式**］が［**AF スポット**］のときに AF エリア選択を［**オート**］、［**中央 (スポット)**］、［**中央 (標準)**］または［**中央 (ワイド)**］にすると、［**測光方式**］は［**マルチパターン**］に変更されます。 • ［**測光方式**］が［**スポット**］または［**AF スポット**］のときに AF エリア選択を［**ターゲット追尾**］にすると、［**測光方式**］は［**マルチパターン**］に変更されます。
	Active D-ライティング（□55）	［**Active D-ライティング**］を［**OFF**］以外にすると、［**測光方式**］は［**マルチパターン**］にリセットされます。
連写/ブラケティング	連写（□54）/ブラケティング（□73）	連写とブラケティングは同時に使えません。 ［**連写**］の設定を［**単写**］以外にすると、［**ブラケティング**］は［**OFF**］にリセットされます。 ［**ブラケティング**］を［**OFF**］以外にすると、［**連写**］の設定は［**単写**］にリセットされます。
	セルフタイマー（□64）/笑顔自動シャッター（□65）/リモコン（□60）	• 連写とセルフタイマー/リモコンは同時に使えません。 • 連写またはブラケティングと笑顔自動シャッターは同時に使えません。
	画質（□75）	［**画質**］が［**NRW (RAW)**］、［**NRW (RAW) + FINE**］、［**NRW (RAW) + NORMAL**］または［**NRW (RAW) + BASIC**］のときは、［**BSS**］、［**マルチ連写**］または［**WBブラケティング**］は使えません。
	Picture Control（□73）	［**モノクローム**］にして撮影するときは、［**WB ブラケティング**］は使えません。
	長秒時ノイズ低減（□55）	［**長秒時ノイズ低減**］を［**ON**］にして撮影するときは、［**マルチ連写**］は使えません。
	ワイドコンバーター（□55）	［**ON**］に設定して撮影するときは、［**フラッシュ連写**］は使えません。

同時に設定できない機能

制限される機能	設定	内容
AFエリア選択	フォーカスモード（□67）	・［**ターゲット追尾**］以外に設定したときにフォーカスモードを ▲（遠景 AF）にすると、AF エリア選択の設定にかかわらず、遠景にピントが合います。 ・ MF（マニュアルフォーカス）にすると、AF エリア選択を設定できません。
	Picture Control（□73）	AF エリア選択が［**ターゲット追尾**］のときに［**Picture Control**］を［**モノクローム**］にすると、AFエリア選択は［**オート**］に変更されます。
長秒時ノイズ低減	連写（□54）	［**マルチ連写**］で撮影するときは、長秒時ノイズ低減は動作しません。
アクティブ D-ライティング	ISO感度設定（□73）	［**ISO感度設定**］が［**高感度オート**］、［**3200**］、［**Hi 1**］のときは、［**Active D-ライティング**］は使えません。［**高感度オート**］、［**3200**］、［**Hi 1**］にすると、［**Active D-ライティング**］は［**OFF**］にリセットされます。
デート写し込み	画質（□75）	［**画質**］が［**NRW (RAW)**］、［**NRW (RAW) + FINE**］、［**NRW (RAW) + NORMAL**］または［**NRW (RAW) + BASIC**］のときは、日付を写し込めません。
	連写（□54）	［**連写**］、［**フラッシュ連写**］、［**BSS**］にして撮影するときは、日付を写し込めません。
	ブラケティング（□73）	日付を写し込めません。
モニター表示設定	笑顔自動シャッター（□65）	笑顔自動シャッターで撮影するときは、水準器は表示されません。
	AFエリア選択（□55）	・［**顔認識オート**］で撮影するときは、水準器は表示されません。 ・［**ターゲット追尾**］で撮影するときは、水準器は表示されません。また、ターゲット登録後（追尾中）は、ヒストグラムと格子線は表示されません。
モーション検知	笑顔自動シャッター（□65）	笑顔自動シャッターで撮影するときは、モーション検知は作動しません。
操作音	連写（□54）	［**連写**］、［**フラッシュ連写**］、［**BSS**］または［**マルチ連写**］にして撮影するときは、シャッター音は鳴りません。
	ブラケティング（□73）	シャッター音は鳴りません。
目つぶり検出設定	笑顔自動シャッター（□65）/ 連写（□54）/ ブラケティング（□73）	笑顔自動シャッターのとき、［**連写**］の設定を［**単写**］以外にしたとき、ブラケティングのときは、目つぶり検出しません。

制限される機能	設定	内容
電子ズーム	笑顔自動シャッター（□65）	笑顔自動シャッターで撮影するときは、電子ズームは使えません。
	フォーカスモード（□67）	MF（マニュアルフォーカス）にすると、電子ズームは使えません。
	画質（□75）	［**画質**］が［**NRW (RAW)**］、［**NRW (RAW) + FINE**］、［**NRW (RAW) + NORMAL**］または［**NRW (RAW) + BASIC**］のときは、電子ズームは使えません。
	連写（□54）	［**マルチ連写**］にして撮影するときは、電子ズームは使えません。
	AFエリア選択（□55）	［**ターゲット追尾**］で撮影するときは、電子ズームは使えません。
	ワイドコンバーター（□55）	［**ON**］に設定して撮影するときは、電子ズームは使えません。

シャッタースピードの制御範囲（P、S、A、Mモード時）

シャッタースピードの制御範囲は、ISO感度の設定によって異なります。
さらに、以下の連写設定時は、制御範囲が変わります。

設定		制御範囲（秒）
ISO感度設定（□73）※1	オート※2、ISO 100-200※2、ISO 100-400※2、ISO 100、200、400	1/2000 ～ 8 秒（P、S モード） 1/4000※3 ～ 8 秒（A モード） 1/4000※3 ～ 60 秒（M モード）
	高感度オート※2	1/2000 ～ 2秒（Pモード） 1/2000 ～ 4秒（Sモード） 1/4000※3 ～ 4秒（A モード） 1/4000※3 ～ 60 秒（M モード）
	ISO 800	1/2000 ～ 8秒（P、Sモード） 1/4000※3 ～ 8 秒（A モード） 1/4000※3 ～ 15 秒（M モード）
	ISO 1600	1/2000 ～ 4 秒（P、S モード） 1/4000※3 ～ 4 秒（A、M モード）
	ISO 3200	1/2000 ～ 1/2 秒（P、S モード） 1/4000※3 ～ 1/2 秒（A、M モード）
	Hi 1	1/2000 ～ 1/8 秒（P、S モード） 1/4000※3 ～ 1/8 秒（A、M モード）
連写（□54）	連写、BSS、フラッシュ連写	1/2000 ～ 1/2 秒（P、S モード） 1/4000※3 ～ 1/2 秒（A、M モード）
	マルチ連写	1/2000 ～ 1/30 秒

※1 連写の設定によっては、ISO感度の設定が制限されます（□80）。
※2 Mモードのときは、ISO 100に固定されます。
※3 1/4000秒のシャッタースピードは、ズームが広角側で絞り値がf/8（最小絞り）のときのみ設定できます。

連写モード時のフラッシュの動作

各連写モードと組み合わせた場合、内蔵フラッシュまたはスピードライトの動作は次のように制限されます。

連写モード	内蔵フラッシュ	スピードライト※
単写	使用可能	使用可能
連写	発光禁止	使用可能
フラッシュ連写	使用可能	使用不可
BSS	発光禁止	使用不可
マルチ連写	発光禁止	使用不可
インターバル撮影	使用可能	使用可能
ブラケティング機能	発光禁止	使用可能

別売スピードライト使用時には、内蔵フラッシュは自動的に ⓢ（発光禁止）になります。

※ フラッシュモードを ⚡◎（赤目軽減自動発光）（📖61、62）にして、連写またはブラケティング機能を使って撮影する場合、赤目軽減処理は本発光前のプリ発光のみになります。

✔ 電子ズームについてのご注意

- 撮影モードによっては、電子ズームは使えません。
- 電子ズーム使用時は、AFエリア選択や測光方式などが制限されます（⚭79）。

顔認識撮影について

以下の撮影モードでは、人物の顔にカメラを向けると自動的に顔を認識して、顔にピントを合わせます。複数の顔を認識したときは、ピントを合わせる顔に二重枠のAFエリアが表示され、AFエリア以外の顔に一重枠が表示されます。

撮影モード	認識する顔の数	AFエリア（二重枠）
AFエリア選択（⊶48）が［**顔認識オート**］	最大12人	カメラに最も近い顔
シーンモード（□39）の［**おまかせシーン**］、［**ポートレート**］、［**夜景ポートレート**］		
😊（笑顔自動シャッター）（□65）	最大3人	画面中央に最も近い顔

- ［**顔認識オート**］では、顔を認識していない状態でシャッターボタンを半押しすると、9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアでピントが合います。
- ［**おまかせシーン**］では、自動判別した撮影シーンによってAFエリアが変わります。
- ［**ポートレート**］または［**夜景ポートレート**］では、顔を認識していない状態でシャッターボタンを半押しすると、画面中央の被写体にピントを合わせます。
- 😊（笑顔自動シャッター）では、笑顔を検出すると自動的にシャッターがきれます。

✔ 顔認識機能についてのご注意

- 顔の向きなどの撮影条件によっては、顔を認識できないことがあります。また、以下のような場合は、顔を認識できません。
  - 顔の一部がサングラスなどでさえぎられている
  - 構図内で顔を大きく、または小さくとらえすぎている
- 複数の人物がいた場合、どの人物の顔を認識してピントを合わせるかは、顔の向きなどによっても異なります。
- 「オートフォーカスが苦手な被写体」（□33）の撮影では、二重枠が緑色になっていても、まれにピントが合わないことがあります。ピントが合わないときは、「フォーカスロック撮影」（□33）をお試しください。

顔認識撮影した画像の再生について

- 再生すると、顔の上下方向に合わせて自動的に回転して表示されます（［**連写**］（□54）または［**ブラケティング**］（□73）で撮影した画像を除く）。
- 1コマ表示でズームレバーを**T**（Q）方向に回すと、撮影時に認識した顔を中心に拡大表示されます（□35）（［**連写**］（□54））または［**ブラケティング**］（□73）で撮影した画像を除く）。

美肌機能について

以下の撮影モードではシャッターがきれると、人物の顔をカメラが検出し（最大3人）、画像処理で顔の肌をなめらかにしてから画像を記録します。

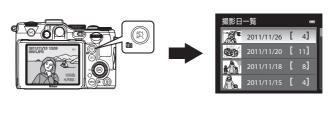
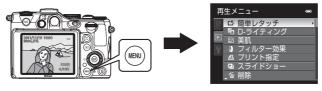
• シーンモードの［**おまかせシーン**］（□40）、［**ポートレート**］（□40）または［**夜景ポートレート**］（□41）

撮影後にも、記録した画像に美肌の編集ができます（□89）。

美肌機能についてのご注意

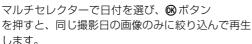
• 画像の記録に時間がかかることがあります。
• 撮影条件によっては、美肌の効果が表れないことや、顔以外の部分が画像処理されることがあります。

いろいろな再生

この章では、画像を絞り込んで再生する方法や再生時に使える機能について説明しています。

再生する画像を撮影日で絞り込む（撮影日一覧モード）

撮影日ごとに画像を絞り込んで再生できます。
再生時にAE-L/AF-L（📅）ボタンを押すと、撮影日の一覧画面になります。

- もう一度 AE-L/AF-L（📅）ボタンを押すと、通常の再生モードに戻ります。

マルチセレクターで日付を選び、OKボタンを押すと、同じ撮影日の画像のみに絞り込んで再生します。

- 選んだ日の最初に撮影した画像から表示されます。
- 日付を選び直すときは、ズームレバーを **W**（▦）方向に回します。
- 撮影日の一覧画面では、以下の操作ができます。
  - 🗑（削除）ボタン：選択中の撮影日の画像を、すべて削除します。
  - MENUボタン：メニュー画面で📅タブ（撮影日一覧メニュー）を選ぶと、再生メニュー（📖89）の内、以下の機能が選択でき、選択中の撮影日の画像をまとめて同じ設定にできます。
    →プリント指定、スライドショー、削除、プロテクト設定、非表示設定
- 1 コマ表示で MENU ボタンを押し、メニュー画面で 📅 タブ（撮影日一覧メニュー）を選ぶと、再生メニュー（📖89）の機能が選べます。
- 撮影日一覧モードでは、サムネイル表示、およびカレンダー表示（📖35）はできません。

✔ 撮影日一覧モードについてのご注意

- 選べる撮影日は最大29日分までです。撮影日が30日以上あると、［**過去画像**］として30日目以降の画像がすべてまとめられます。
- 撮影日一覧モードで表示できる画像は、最新の画像から9,000コマまでです。
- 日時を設定せずに撮影した画像は、「2011年1月1日」の画像として扱われます。

再生モードで使える機能（再生メニュー）

1コマ表示中またはサムネイル表示中にMENUボタンを押してメニュー画面を表示し、▶タブまたは12タブを選ぶと、以下のメニュー操作ができます（□13）。

項目	内容	□
簡単レタッチ※1	コントラストと色の鮮やかさを高めた画像を簡単に作成します。	⚯11
D-ライティング※1	逆光やフラッシュの光量不足などで暗くなった被写体を、明るく補正できます。	⚯11
美肌※1	撮影した画像から人物の顔を検出して、顔の肌をなめらかにします。	⚯12
フィルター効果※1	デジタルフィルターでいろいろな効果を付けます。効果の種類には、［**ソフト**］、［**セレクトカラー**］、［**クロススクリーン**］、［**魚眼効果**］、［**ミニチュア効果**］、［**絵画調**］があります。	⚯13
プリント指定※2	SDカードに記録した画像をプリンターでプリントするときに、どの画像を何枚プリントするかを設定します。	⚯60
スライドショー※2	内蔵メモリー/SDカード内の画像を、1コマずつ順番に自動再生します。	⚯63
削除※2	画像を削除します。複数の画像をまとめて削除できます。	⚯64
プロテクト設定※2	大切な画像を誤って削除しないように、プロテクト（保護）します。	⚯66
画像回転	撮影後に、カメラなどで表示するときの画像の向き（縦横位置）を設定します。	⚯66
非表示設定※2	撮影した画像をカメラで再生できないようにします。	⚯66
スモールピクチャー※1	撮影した画像から、サイズの小さい画像を作成します。ホームページで使ったり、電子メールへ添付したりするのに便利です。	⚯14

再生モードで使える機能（再生メニュー）

項目	内容	📖
音声メモ	撮影した画像に、カメラのマイクを使って音声によるメモを付けられます。音声メモの再生または削除もできます。	67
画像コピー※3	内蔵メモリーの画像をSDカードへ、またはSDカードの画像を内蔵メモリーへコピーできます。	68
黒フレーム※1	撮影した画像の周りに黒い枠を付けます。	15
傾き補正※1	撮影した画像の傾きを補正します。	16
NRW NRW (RAW) 現像※1	撮影したNRW (RAW) 画像（75）をパソコンを使わずにカメラ内でRAW現像し、JPEG画像を作成します。	17

※1 選択中の画像を編集し、元画像とは異なるファイル名で保存します。［**画像サイズ**］（77）が［**3648×2432**］、［**3584×2016**］、［**2736×2736**］の画像や［**HD 720p (1280×720)**］で撮影した動画から切り出した画像は、黒フレーム以外の編集ができません（9、10）。また、編集済みの画像は、繰り返し編集できないことがあります（10）。動画は編集できません。

※2 撮影日一覧モードのときは、撮影日の一覧画面（88）でMENUボタンを押すと、選んだ日付の画像をまとめて同じ設定にできます。

※3 撮影日一覧モードのときは、表示されません。

各項目の詳細は、「詳細編　画像の編集（静止画）」（9）や「詳細編　再生メニュー」（60）をご覧ください。

テレビ、パソコン、プリンターとの接続

テレビやパソコン、プリンターに接続すると、撮影した画像や動画をいろいろな方法で楽しむことができます。

- 外部機器と接続するときは、カメラの電池残量が充分にあることを確認し、必ず、カメラの電源をOFFにしてから接続してください。また、接続方法や接続後の操作方法については、各機器の説明書も併せてお読みください。

テレビで鑑賞する E20

撮影した画像や動画をテレビに映して鑑賞できます。
接続方法：付属のオーディオビデオケーブル（AVケーブル）EG-CP16の映像プラグと音声プラグ（ステレオ）をテレビの外部入力端子に接続します。または、市販のHDMIケーブル（Type C）を、テレビのHDMI入力端子に接続します。

パソコンで閲覧、管理する 92

パソコンに転送すると、静止画や動画の再生だけではなく、簡易編集や画像データの管理ができます。
接続方法：付属のUSBケーブル UC-E6をパソコンのUSB端子に接続します。

- パソコンと接続する前に付属の「ViewNX 2 CD」を使って、ViewNX 2 をパソコンにインストールしてください。付属の「ViewNX 2 CD」の使い方、パソコンへの簡単な転送手順については、94 ページをご覧ください。

パソコンを使わずにプリントする E22

パソコンを使わずに画像をプリントできます。
接続方法：付属のUSBケーブル UC-E6をプリンターのUSB端子に接続します。

ViewNX 2を使う

ViewNX 2は、画像や動画の転送、閲覧、編集、共有、これら全てを可能とするオールインワンソフトです。
付属の「ViewNX 2 CD」からインストールできます。

ViewNX 2をインストールする

対応OS

Windows

- Windows 7 Home Premium/Professional/Enterprise/Ultimate
- Windows Vista Home Basic/Home Premium/Business/Enterprise/Ultimate（Service Pack 2）
- Windows XP Home Edition/Professional（Service Pack 3）

Macintosh

- Mac OS X（version10.5.8、10.6.7）

対応OSに関する最新情報、動作環境については、当社ホームページのサポート情報でご確認ください。

1 パソコンを起動し、付属の「ViewNX 2 CD」をCD-ROMドライブに入れる

- Mac OS：［**ViewNX 2**］ウィンドウが表示されるので、ウィンドウ内の［**Welcome**］アイコンをダブルクリックします。

2 ［言語選択］ダイアログで言語を選択し、［Welcome］ウィンドウを開く

- ［**言語選択**］ダイアログのメニューに選択したい言語がない場合は、［**地域選択**］をクリックし、地域を選択してから言語を選択してください。
- ［**次へ**］をクリックすると、［**Welcome**］ウィンドウが開きます。

3 インストールを開始する

- インストールをする前に、［**Welcome**］ウィンドウの［**インストールガイド**］をクリックして、インストール方法のヘルプと動作環境を確認することをおすすめします。
- ［**Welcome**］ウィンドウの［**インストール（推奨）**］をクリックします。
- 画面の指示に従ってインストールを続けてください。

4 インストール終了画面が表示されたら、インストールを終了する

- Windows：［**はい**］をクリックします。
- Mac OS：［**OK**］をクリックします。

以下のソフトウェアがインストールされます。

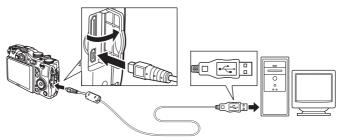
- ViewNX 2（以下の3つのモジュールで構成されています）
  - Nikon Transfer 2：画像をパソコンに取り込みます
  - ViewNX 2：取り込んだ画像の閲覧、編集、印刷ができます
  - Nikon Movie Editor：取り込んだ動画の簡易編集ができます
- Panorama Maker 5（シーンモードのパノラマアシストを使って撮影した画像をパノラマ写真に合成します）
- QuickTime（Windows のみ）

5 CD-ROMをCD-ROM ドライブから取り出す

パソコンに画像を取り込む

1 画像の入ったSDカードを用意する

SD カード内の画像は、次の方法でパソコンに取り込めます。

- SD カードを入れたカメラの電源をOFF にしてから、付属のUSB ケーブルUC-E6でカメラとパソコンを接続し、カメラの電源をON にする。

- カードスロットを装備したパソコンのときは、カードスロットに直接SD カードを差し込む。
- 市販のカードリーダーをパソコンに接続して、SD カードをセットする。

起動するプログラム（ソフトウェア）を選ぶ画面がパソコンに表示されたときは、Nikon Transfer 2 を選びます。

- **Windows 7 をお使いの場合**
  右の画面が表示されたときは、次の手順でNikon Transfer 2を選びます。

  1 ［**画像とビデオのインポート**］の［**プログラムの変更**］をクリックすると表示される画面で、［**画像ファイルを取り込む-Nikon Transfer 2使用**］を選んで、［**OK**］をクリックする
  2 ［**画像ファイルを取り込む**］をダブルクリックする

SDカード内に大量の画像があると、Nikon Transfer 2の起動に時間がかかる場合があります。Nikon Transfer 2が起動するまでお待ちください。

USBケーブル接続についてのご注意

USBハブに接続した場合の動作は保証しておりません。

2 画像をパソコンに取り込む

- Nikon Transfer 2の［**オプション**］の［**転送元**］に、接続したカメラ名またはリムーバブルディスクのデバイス名が表示されていることを確認します（①）。
- ［**転送開始**］ボタンをクリックします（②）。

- 記録されているすべての画像がパソコンに取り込まれます（ViewNX 2 の初期設定）。

3 接続を解除する

- カメラを接続している場合は、カメラの電源をOFF にしてから、USB ケーブルを抜きます。
- カードリーダーやカードスロットをお使いの場合は、パソコン上でリムーバブルディスクの取り外しを行ってから、カードリーダーまたはSDカードを取り外してください。

画像を見る

ViewNX 2 を起動する

- 画像の取り込みが終わると、ViewNX 2 が自動的に起動し、取り込んだ画像が表示されます。
- ViewNX 2 の詳しい使い方は、ViewNX 2 のヘルプを参照してください。

ViewNX 2 を手動で起動するには

- Windows：デスクトップの［**ViewNX 2**］のショートカットアイコンをダブルクリックする
- Mac OS：Dock の［**ViewNX 2**］アイコンをクリックする

画像を編集する

ViewNX 2のツールバーで［**エディット**］をクリックします。

階調の補正、シャープネスの調整、画像の切り抜き（クロップ）などの編集ができます。

動画を編集する

ViewNX 2のツールバーで［**Movie Editor**］をクリックします。

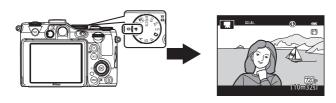
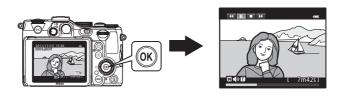
このカメラで撮影した動画の不要な部分を削除するなどの編集ができます。

画像をプリントする

ViewNX 2のツールバーで［**印刷**］をクリックします。

ダイアログが表示され、パソコンにつないだプリンターから、画像をプリントできます。

動画を撮影、再生する

モードダイヤルを🎬に合わせると、動画撮影画面になります。シャッターボタンを押すと、動画を撮影できます。

再生モードで🆗ボタンを押すと、動画を再生します。

動画を撮影する

動画（音声付き）を撮影できます。

1 モードダイヤルを🎥に合わせる

- 液晶モニターに、記録できる時間が表示されます。
- ［**動画設定**］が720p［**HD 720p (1280 ×720)**］の場合、撮影画面の縦横比が16:9に切り換わります（右の画面の範囲で記録されます）。
- 記録可能な残り時間の目安を液晶モニターで確認できます。内蔵メモリーへの記録中は、INが表示されます。

※イラスト上の記録可能時間の数値は、実際とは異なります。

2 シャッターボタンを全押しして、撮影を開始する

- 画面中央でピントが合います。動画の撮影時は、AF エリアは表示されません。
- 動画撮影中にAE-L/AF-Lボタンを押すと、露出またはピントが固定されます（📖3）。解除するにはもう一度AE-L/AF-Lボタンを押します。
- 記録可能な残り時間が無くなると、撮影が自動的に終了します。

3 シャッターボタンを全押しして、撮影を終了する

✔ 動画の記録についてのご注意

撮影終了後、AF/アクセスランプが点滅しているときは、動画の記録は終了していません。**バッテリー/SDカードカバーを開けないでください。**記録が終了する前にSDカードやバッテリーを取り出すと、動画が記録されないことや、撮影した動画やカメラ、SDカードが壊れることがあります。

動画撮影についてのご注意

- 動画をSDカードに記録するときは、SDスピードクラスがClass 6以上のSDカードをおすすめします（□23）。転送速度が遅いカードでは、動画の撮影が途中で終了することがあります。
- 電子ズームを使うと、画質は劣化します。電子ズームを使わずに動画撮影を開始したときは、ズームレバーを**T**方向に回し続けると、光学ズームの最大倍率でズームが止まります。いったんズームレバーから指をはなして、もう一度**T**方向に回すと電子ズームが作動します。電子ズームは、動画撮影を終了するとキャンセルされます。
- ズームレバーなどの操作音、ズーム、オートフォーカス、手ブレ補正、明るさが変化したときの絞り制御などの動作音が録音されることがあります。ズームの動作音が録音されにくくするには、セットアップメニュー（□104）の［**ズーム速度設定**］を［**オート**］（初期設定）または［**静音**］に設定してください。
- 動画の撮影では、液晶モニターにスミア（☼2）が発生した場合、記録される動画にもスミアの影響が残ります。スミアの影響を避けるため、太陽や太陽の照り返し、電灯などを画面内に入れずに撮影するようおすすめします。
- フラッシュは発光しません。
- 動画撮影中は、Eye-Fiカードの通信機能がOFFになります（⊶93）。

オートフォーカスについてのご注意

- 動画メニュー（□101）の［**AF モード**］が AF-S［**シングル AF**］（初期設定）の場合、シャッターボタンを半押ししたときに、ピントは固定されます。
- 「オートフォーカスが苦手な被写体」（□33）では、ピント合わせができないことがあります。このような被写体を動画で撮影するときは、以下の方法をお試しください。
  1. 撮影前に動画メニューの［**AFモード**］をAF-S［**シングルAF**］（初期設定）にする。
  2. 等距離にある別の被写体を画面中央に配置してシャッターボタンを押し、動画撮影を開始してから構図を変える。

カメラの温度について

- 動画撮影などで長時間使ったり、周囲の温度が高い場所で使ったりすると、カメラの温度が高くなることがあります。
- 動画撮影中にカメラ内部が極端に高温になると、30 秒後に撮影が自動終了します。
  自動終了までの残りの秒数（30s）が画面に表示されます。
  自動終了後、5秒後に電源もOFFになります。
  カメラ内部の温度が下がるまでしばらく放置してからお使いください。

動画の記録可能時間

動画設定（□73）	内蔵メモリー（約 94 MB）	SDカード（4 GB）※
HD 720p (1280×720)	約1分28秒	約55分
VGA (640×480)	約4分24秒	約2時間55分
QVGA (320×240)	約20分28秒	約13時間35分

数値はおおよその目安です。同じ容量でもSDカードの種類や撮影した動画のビットレートによって記録可能時間は異なります。

※ 1回の撮影で記録可能な時間は、最長29分です。合計29分以上記録できるSDカードを使用しても、カメラが表示する記録可能時間は、最長29分です。

外部マイクについて

- 内蔵マイクのかわりに、別売のステレオマイクロホン ME-1（103）を外部マイク端子（□3）に接続して、動画撮影時の音声や、静止画の音声メモ（□90）の録音ができます。
- 外部マイクを接続したときは、動画メニュー（□101）の［**風切り音低減**］は使えません。
- 外部マイクの感度は、セットアップメニュー（□104）の［**外付けマイク感度**］で設定できます。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→99

動画モードの設定を変える

以下の操作部を使って、設定を変更できます。

- マルチセレクターで設定できる機能（□60）→ リモコン（□60）、フォーカスモード（□67）
- 露出補正ダイヤルで設定できる機能 → 露出補正（□71）
- クイックメニューで設定できる機能 → クイックメニューの種類（□73）
- MENUボタンで設定できる機能 → 動画メニューの種類（下記）

動画メニューの種類

動画モードでは、以下の項目の設定が変更できます。

動画モードの撮影画面にする ➔ MENUボタン ➔ 動画タブ（□13）

項目	内容	□
AFモード	動画撮影開始時のピントに固定する［**シングルAF**］（初期設定）、または動画撮影中もピント合わせを繰り返す［**常時AF**］を選べます。 ［**常時AF**］にすると、ピントを合わせる動作音が録音されることがあります。動作音が気になるときは、［**シングルAF**］での撮影をおすすめします。	➡69
風切り音低減	動画撮影時に内蔵マイクに吹き付ける風の音を抑えて記録するか設定します。再生時に風切り音以外の音が聞こえにくくなることがあります。初期設定は［**OFF**］です。	➡69

動画を再生する

1 ▶（再生）ボタンを押し、再生モードにする

- マルチセレクターで動画を選びます。
- 動画設定（□100）のアイコンが表示されている画像が動画です。

2 OKボタンを押し、再生する

音量の調節

再生中にズームレバー **T**/**W**（□2）を操作します。

動画再生中の操作

画面上部には操作パネルが表示されます。
マルチセレクターの◀ ▶で操作パネルのアイコンを選び、OKボタンを押すと以下の操作ができます。

機能	アイコン	内容	
巻き戻し	◀◀	OKボタンを押している間、巻き戻します。	
早送り	▶▶	OKボタンを押している間、早送りします。	
一時停止	‖	一時停止中に画面上部の操作パネルのアイコンで以下の操作ができます。	
		◀‖	1コマ戻ります。OKボタンを押し続けると、連続してコマ戻しします。※
		‖▶	1コマ進みます。OKボタンを押し続けると、連続してコマ送りします。※
		✂	動画の必要な部分だけを切り出して保存します（⚯28）。
		🖼	動画の 1 フレームを静止画として保存します（⚯29）。
		▶	再生を再開します。
再生終了	■	1コマ表示に戻ります。	

※ マルチセレクターまたはコマンドダイヤルを回してもコマ送り/コマ戻しできます。

動画を削除するには、1コマ表示（□34）やサムネイル表示（□35）で動画を選んで🗑ボタンを押します（□36）。

✔ 動画再生についてのご注意

COOLPIX P7100以外で撮影した動画は、再生できません。

カメラに関する基本設定

この章では、Ｙセットアップメニューで設定できる項目の種類を説明しています。

- メニュー画面の基本操作については、「メニューを使う（MENUボタン）」（□13）をご覧ください。
- 設定できる項目のより詳しい説明は、「詳細編　セットアップメニュー」（⊶70）をご覧ください。

セットアップメニュー

MENUボタンを押す ➔ Y（セットアップ）タブ（□13）

メニュー画面でYタブを選ぶと、以下の項目をセットアップメニューで設定できます。

項目	内容	□
オープニング画面	［**COOLPIX**］を選ぶと、電源ON時に、オープニング画面（COOLPIXロゴ）を表示してから、撮影/再生画面を表示します。［**撮影した画像**］を選ぶと、オープニング画面として撮影した画像を表示します。初期設定は［**なし**］です。	E70
地域と日時	内蔵時計の日時を設定します。［**タイムゾーン**］では、ご使用の地域や夏時間（サマータイム）を設定します。また、訪問先（✈）のタイムゾーンを登録すると、自宅（⌂）との時差を自動計算し、撮影日時を現地時間で記録できます。	E71
モニター設定	撮影後の画像表示や画面の明るさを設定します。［**モニター表示設定**］では、液晶モニターに水準器、ヒストグラム、格子線を表示するか設定できます。［**水準器の種類**］では、［**円形表示**］（初期設定）または［**バー表示**］のどちらか選べます。	E74
デート写し込み	撮影時に画像に撮影日時を写し込んで記録します。初期設定は［**OFF**］です。 • シーンモードの［**スポーツ**］、［**ミュージアム**］、［**逆光**］の［**HDR**］が［**ON**］、［**パノラマアシスト**］または［**ペット**］の［**連写**］にしたときや、動画撮影のときは、日時を写し込めません。	E75
セルフタイマー解除設定	セルフタイマー撮影後に設定を解除するかどうか設定します。初期設定は［**撮影後に自動解除する**］です。	E76

項目	内容	📖
手ブレ補正	撮影時に手ブレの影響を軽減します。初期設定は［**ON**］です。 • 三脚などでカメラを固定するときは、補正機能の誤動作を防ぐため［**OFF**］にしてください。	E76
モーション検知	撮影時にカメラが被写体の動きや手ブレを検知すると、ブレを軽減するためにISO感度を上げてシャッタースピードを速くします。初期設定は［**OFF**］です。 撮影画面の表示は、ブレを検知してシャッタースピードが速くなると緑色に変わります。 • 撮影モードなどの設定によっては、検知しません。その場合は撮影画面には表示されません。	E77
AF**補助光**	［**AUTO**］（初期設定）時は、暗い場所などでオートフォーカスによるピント合わせを補助するAF補助光（📖33）が点灯します。 • AF 補助光が届く距離は、広角側で約 8.0 m、望遠側で約 7.0 m です。 • AF 補助光の設定に関わらず、AF エリアの位置やシーンモードによっては点灯しません。	E78
赤目軽減プリ発光	［**ON**］（初期設定）時は、フラッシュモード（📖61）が（赤目軽減自動発光）のとき、フラッシュが本発光する前に小光量で数回発光する「プリ発光」で赤目現象の発生を軽減してから、画像補正による赤目軽減処理をします。	E78
電子ズーム	［**ON**］（初期設定）時は、光学ズームが最も望遠側にある状態でズームレバーを**T**（Q）方向に回すと、電子ズームが作動します（📖31）。 ［**クロップ**］時は、撮影する静止画の画質が電子ズームで劣化しない範囲（ズーム表示のマークの位置まで）にズーム倍率を制限します（動画撮影中を除く）。 • 撮影モードなどの設定によっては、電子ズームは使えません。	E79

項目	内容	📖
ズーム速度設定	ズームの動作速度を設定します。 ［**オート**］（初期設定）を選ぶと、静止画撮影時は［**標準**］の設定でズームが動作します。動画撮影時は［**静音**］の設定でズームが動作します。 ［**標準**］を選ぶと、静止画撮影時も動画撮影時も、標準の速度でズームが動作します。 ［**静音**］を選ぶと、静止画撮影時も動画撮影時も、［**標準**］よりも遅い速度でズームが動作し、ズームの動作音が録音されにくくなります。	80
ズーム時F値保持	［**ON**］時は、撮影モードがA、Mのときに、絞り値の変化を最小限に抑えながらズーム操作を行います。ただし、ズーム操作によって絞りの制御範囲を超えてしまうことがあります。初期設定は［**OFF**］です。	80
操作音	操作時に電子音を鳴らすかどうかを設定します。初期設定では電子音が鳴ります。 • 撮影モードなどの設定によっては、操作音は鳴りません。	81
縦位置情報の記録	［**AUTO**］（初期設定）時は、撮影した画像に縦位置または横位置の情報を記録します。 • 顔認識（📖85）またはペット検出（📖45）して撮影した画像は、設定に関わらず顔の上下方向に合わせて自動的に回転して表示されます。	81
縦位置自動回転	［**する**］（初期設定）時は、画像を再生するときに、カメラの上下方向に合わせて、画像を自動的に回転して表示します。	82
オートパワーオフ	節電のために液晶モニターが消灯するまでの時間を設定します。初期設定は［**1 分**］です。	82
メモリーの初期化/カードの初期化（フォーマット）	SDカードを入れていないときは内蔵メモリーを、SDカードを入れているときはSDカードを初期化（フォーマット）します。 • **初期化すると内蔵メモリーまたは SD カード内のデータはすべて削除され、元に戻せません。** 必要なデータは初期化する前にパソコンなどに保存してください。	83
言語/Language	メニュー画面などに表示する言語を選びます。	83

項目	内容	📖
TV出力設定	オーディオビデオケーブルやHDMIケーブルでテレビと接続しても、画像がテレビに映らないときに設定します。［**HDMI 機器制御**］では、HDMI-CEC規格対応のテレビにHDMIケーブルで接続したときに、テレビからの信号を受信するかどうかを設定します。	🔗84
外付けマイク感度	外部マイクのマイク感度を設定します。初期設定は［**オート**］です。 ・マイク感度が低い場合は、［**高**］に設定してください。	🔗84
内蔵ND フィルター設定	カメラ内蔵のNDフィルターを使って、撮影時にカメラに入る光量を減光できます。被写体が明るすぎて露出オーバーになるときなどに使います。初期設定は［**OFF**］です。 ・撮影モードが P、S、A、M、U1、U2、U3、🌃（ローノイズナイト）以外のときは、設定にかかわらず、撮影モードや撮影状況によって自動制御されます。	🔗85
コマンドダイヤルの設定	撮影時に操作できるメインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルの機能を入れ換えます。 ・初期設定は［**入れ換えない**］です。	🔗86
マルチセレクター右押し	［**AFエリア選択**］（初期設定）時は、撮影時にマルチセレクターの▶（[+]）を押すと、AFエリア選択の設定（📖50）を表示します。 ▶（[+]）を押してもAFエリア選択の設定を表示したくないときは、［**OFF**］にします。	🔗86
削除ボタン設定	［**2度押しで削除**］にすると、削除の確認メッセージの表示中に、もう一度🗑ボタンを押すと削除できます。初期設定は［**2度押しを禁止**］です。	🔗86
AE-L/AF-L ボタン設定	撮影時にAE-L/AF-Lボタンを押したときの動作を設定します。［**AE-L/AF-L**］（初期設定）時は、撮影時にAE-L/AF-Lボタンを押すと、ピントと露出の両方を固定します。 ・シーンモードが［**おまかせシーン**］（📖40）のときは使えません。	🔗87
Fn1＋シャッターボタン	撮影時にFn1（ファンクション1）ボタンを押しながらシャッターボタンを押したときの機能を設定します。初期設定は［**OFF**］です。	🔗88

カメラに関する基本設定

セットアップメニュー

項目	内容	📖
Fn1 ＋コマンドダイヤル	撮影時にFn1（ファンクション1）ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能を設定します。初期設定は［**OFF**］です。	➡89
Fn1ガイド表示	撮影時にFn1（ファンクション1）ボタンを押したときにガイド表示をするかどうか設定します。初期設定は［**ON**］です。	➡89
Fn2ボタン設定	撮影時にFn2（ファンクション2）ボタンを押したときの動作を設定します。初期設定は［**OFF**］です。	➡90
マイメニュー登録	よく使うメニュー項目をマイメニュー（📖73）に登録できます（最大5項目）。	➡90
連番リセット	［**はい**］を選ぶと、ファイル番号の連番をリセットします。リセットすると新しい記録フォルダーが作られ、次に撮影する画像の連番は、「0001」から始まります。	➡91
目つぶり検出設定	笑顔自動シャッター以外で顔認識撮影（📖85）した直後、被写体の人物が目を閉じている可能性をカメラが検出すると［**目つぶり確認**］画面が表示され、撮影した画像を確認できます。初期設定は［**OFF**］です。	➡92
Eye-Fi送信機能	市販のEye-Fiカードによるパソコンへの画像送信機能を有効にするかどうか設定します。初期設定は［**無効**］です。	➡93
MFゲージ単位設定	マニュアルフォーカスで画面のゲージに表示する距離の単位を「m（メートル）」（初期設定）または「ft（フィート）」に設定します。	➡94
インジケーターの＋/－方向	撮影モードがMのときに表示される露出インジケーターやブラケティングの設定で表示されるインジケーターの＋/－表示の方向を設定します。	➡94
設定クリアー	カメラを初期設定にリセットします。 • ［**地域と日時**］、［**言語 /Language**］など、一部の設定やモードダイヤル U1、U2、U3 に登録したユーザーセッティングの内容はリセットされません。	➡94
バージョン情報	カメラのファームウェアのバージョン情報を表示します。	➡98

詳細編

詳細編では、機能の詳細や使い方のヒントなどを記載しています。

撮影

再生

メニュー

資料

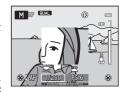
マニュアルフォーカスの使い方

撮影モードがP、S、A、M、U1、U2、U3、(ローノイズナイト)、EFFECTS(スペシャルエフェクト)、シーンモードの［**スポーツ**］のときに使えます。

1 マルチセレクターの▼（フォーカスモード）を押す

- マルチセレクターで MF（マニュアルフォーカス）を選び、Ⓚボタンを押します。
- 画面上部にMFが表示され、写る範囲と画像中央部の拡大表示が同時に表示されます。

2 ピントを合わせる

- 液晶モニターを見ながら、マルチセレクターを使ってピントを合わせます。
- ▲を押すと、遠くの被写体にピントが合います。
- ▼を押すと、近くの被写体にピントが合います。
- ▶ を押すと、いったんオートフォーカスでピントを合わせてから、マニュアルフォーカスの操作ができます。［**はい**］を選んでⓀボタンを押すと、画面中央の被写体にオートフォーカスします。
- シャッターボタンを半押しすると、構図を確認できます。そのまま全押ししても撮影できます。

3 Ⓚボタンを押す

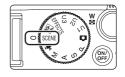
- 設定したピントに固定され、固定したピントで続けて撮影できます。
- 設定したピントを変更するときは、もう一度Ⓚボタンを押して手順2の画面を表示します。
- オートフォーカスに戻すときは、手順 1 に戻って MF以外を選びます。

MF（マニュアルフォーカス）について

- 手順2で画面右のゲージに表示される数字は、ゲージを中央付近にしたときにピントが合う距離の目安です。このゲージの単位は、セットアップメニューの［**MFゲージ単位設定**］(94)で変更できます。
- シャッターボタンを半押しすると、およその被写界深度（被写体の前後のピントの合う範囲）を確認できます。
- 電子ズームは使えません。
- 液晶モニターをOFFにすると、フォーカスモードはAF（通常AF）になります。
- セットアップメニューの［**Fn1 ＋コマンドダイヤル**］(89)を［**マニュアルフォーカス**］にすると、Fn1ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回して、手順2の画面を表示したり、ピントを合わせたりできます。

パノラマアシストの使い方

三脚を使うと、構図を合わせやすくなります。三脚などで固定して撮影するときは、セットアップメニューの[**手ブレ補正**]（➡76）を[**OFF**]にしてください。

1 モードダイヤルをSCENEに合わせる

2 MENU ボタンを押してシーンメニューを表示し、マルチセレクターで⌶［パノラマアシスト］を選び、Ⓚボタンを押す

- パノラマ方向（画像をつなげる方向）を示す▷マークが表示されます。

3 マルチセレクターでパノラマ方向を選び、Ⓚ ボタンを押す

- 右方向につなげるときは▷、左方向は◁、上方向は△、下方向は▽を選びます。
- 選んだ方向に黄色い▷▷マークが移動し、Ⓚボタンを押すと方向を決定します。決定した方向の▷（白色）が表示されます。
- フラッシュモード（📖61）、セルフタイマー（📖64）/リモコン（➡105）、フォーカスモード（📖67）、露出補正（📖71）を設定したいときは、ここで設定してください。
- もう一度Ⓚボタンを押すと、パノラマ方向を選び直せます。

4 一番端の被写体に構図を合わせ、1コマ目を撮影する

- 画面中央でピントを合わせます。
- 撮影した画像が、画面の約 1/3 の部分に半透明で表示されます。

5 2コマ目以降を撮影する

- 次の被写体の 1/3 が前の絵柄に重なるように構図を合わせて、シャッターボタンを押してください。
- この手順を繰り返して、必要な画像を撮影してください。

6 必要な画像を撮影し終わったら、OKボタンを押す

- 手順3の状態に戻ります。

パノラマアシストについてのご注意

- フラッシュモード、セルフタイマー / リモコン、フォーカスモード、露出補正は、1 コマ目のシャッターをきる前に設定してください。1コマ目を撮影した後は変更できません。1コマ目を撮影した後は、［**画質**］（□75）、［**画像サイズ**］（□77）の変更やズーム操作、画像の削除もできません。
- 撮影中にオートパワーオフ（⚮82）による待機状態になると撮影が終了します。オートパワーオフの時間を長めに設定しておくことをおすすめします。

AE/AF-L表示について

パノラマアシストモードでは、パノラマ写真を構成するすべての画像を、1コマ目と同じ露出、ホワイトバランスおよびピントで撮影します。
1コマ目を撮影すると、露出、ホワイトバランスとピントをロック（固定）したことを示すAE/AF-Lが画面に表示されます。

パノラマ写真に合成するには

撮影した画像はパソコンに転送して（□94）、Panorama Maker 5でパノラマ写真に合成できます。
Panorama Maker 5 は、付属の「ViewNX 2 CD」を使ってパソコンにインストールできます。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→⚮99

P（プログラムオート）、S（シャッター優先オート）、A（絞り優先オート）

1 モードダイヤルをP、S、またはAに合わせる

2 コマンドダイヤルを回して、露出を設定する

- Pモードの場合、メインコマンドダイヤルを回すと、プログラムシフト（□53）を設定できます。
- Sモードの場合、メインコマンドダイヤルを回すと、シャッタースピードを最大1/2000～8秒の範囲で設定できます。
- Aモードの場合、サブコマンドダイヤルを回すと、絞り値をf/2.8 ～ 8（広角側）、f/5.6 ～ 8（望遠側）の範囲で設定できます。

3 構図を決めて撮影する

- 初期設定では、9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアでピントが合います。ピントが合うと、ピントが合った場所のAFエリア表示が緑色に点灯します（最大9カ所）（➡48）。

詳細編

撮影時のご注意

- 露出を設定したあとにズーム操作をすると、露出の組み合わせや絞り値が変化することがあります。
- 被写体が暗すぎたり明るすぎたりすると、適切な露出が得られない場合があります。このときにシャッターボタンを半押しすると、シャッタースピード表示や絞り値表示が点滅します。設定したシャッタースピード、または絞り値を変えてください。また、内蔵NDフィルター（E85）、ISO感度（E30）などの設定を変更すると適切な露出が得られることがあります。
- 1/4秒以上の低速シャッタースピードに設定すると、撮影画像にノイズが出ることがあります。このようなときはシャッタースピード表示が赤色に点灯します。撮影メニューの［**長秒時ノイズ低減**］（E53）を［**ON**］にするようおすすめします。

シャッタースピードについて

- シャッタースピードの制御範囲は、ISO感度の設定によって異なります。さらに、連写では、範囲が制限されます（83）。
- ズームが広角側で絞り値がf/8（最小絞り）のときは、シャッタースピードが1/4000秒まで設定されます。

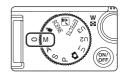
関連ページ

コマンドダイヤルの設定 → E86

M（マニュアル露出）

シャッタースピードも絞り値も撮影者が設定できます。

- シャッタースピードを最大1/4000～60秒の範囲で設定できます。

1 モードダイヤルをMに合わせる

2 メインコマンドダイヤルを回して、シャッタースピードを設定する

- 1/4 秒以上の低速シャッタースピードの場合は、シャッタースピード表示が赤色に点灯します（⚯5）。
- 露出インジケーターについて→📖53

露出インジケーター

3 サブコマンドダイヤルを回して、絞り値を設定する

- 必要に応じて、手順2～3を繰り返してシャッタースピードと絞り値を調整します。

4 ピントを合わせて撮影する

- 初期設定では、9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアでピントが合います。ピントが合うと、ピントが合った場所のAFエリア表示が緑色に点灯します（最大9カ所）（⚯48）。

詳細編

撮影時のご注意

露出を設定したあとにズーム操作をすると、絞り値が変化することがあります。

ISO感度についてのご注意

［**ISO感度設定**］（⚯30）を［**オート**］（初期設定）、［**高感度オート**］、［**ISO 100-200**］または［**ISO 100-400**］に設定していると、ISO感度はISO 100に固定されます。

シャッタースピードについて

- 1/4000秒のシャッタースピードは、ズームが広角側で絞り値がf/8（最小絞り）のときのみ設定できます。
- シャッタースピードの制御範囲は、ISO感度の設定によって異なります。さらに、連写では、範囲が制限されます（📖83）。

画像の編集（静止画）

画像編集の種類

このカメラでは以下の機能を使って画像を簡単に編集できます。編集した画像は元画像とは別に、異なるファイル名で保存されます（🔗99）。

編集の種類	用途
簡単レタッチ（🔗11）	コントラストと色の鮮やかさを高めた画像を簡単に作成します。
D-ライティング（🔗11）	逆光やフラッシュの光量不足で暗くなった部分を明るく補正します。
美肌（🔗12）	人物の顔の肌をなめらかにします。
フィルター効果（🔗13）	デジタルフィルターでいろいろな効果を付けます。効果の種類には、［**ソフト**］、［**セレクトカラー**］、［**クロススクリーン**］、［**魚眼効果**］、［**ミニチュア効果**］、［**絵画調**］があります。
スモールピクチャー（🔗14）	サイズの小さい画像を作成します。電子メールに添付して送信するときなどに使います。
黒フレーム（🔗15）	画像の周りに黒い枠を付けます。画像に境界線を付けたいときなどに使います。
傾き補正（🔗16）	画像の傾きを補正します。
NRW (RAW) 現像（🔗17）	撮影したNRW (RAW) 画像（📖75）をパソコンを使わずにカメラ内でRAW現像し、JPEG画像を作成します。
トリミング（🔗19）	画像の一部を切り抜きます。被写体をクローズアップしたいときや構図に手を加えたいときなどに使います。

✔ 画像編集についてのご注意

- ［**画像サイズ**］（📖77）を ［**3648×2432**］、 ［**3584×2016**］、 ［**2736×2736**］にして撮影した画像は、黒フレーム以外の編集ができません。
  ［**HD 720p (1280×720)**］で撮影した動画から切り出した静止画も、黒フレーム以外の編集ができません。
- 画像から人物の顔を検出できないときは、美肌の編集はできません（🔗12）。
- NRW (RAW) 画像は、そのままではNRW (RAW) 現像以外の画像編集ができません。NRW (RAW) 現像で作成したJPEG画像を編集してください。
- COOLPIX P7100以外で撮影した画像は、このカメラで編集できません。
- COOLPIX P7100以外のデジタルカメラでは、このカメラで編集した画像の正常な表示やパソコンへの転送ができないことがあります。
- 内蔵メモリー /SDカードに充分な空き容量がないときは、編集できません。

画像編集の制限

編集で作成した画像に別の編集を追加するときには、以下の制限があります。

編集に使った機能	追加できる編集機能
簡単レタッチ D-ライティング	美肌、スモールピクチャー、黒フレーム、傾き補正またはトリミングができます。 簡単レタッチとD-ライティングを組み合わせることはできません。
美肌 NRW (RAW) 現像	追加編集できます。
フィルター効果	美肌、スモールピクチャー、黒フレームまたは傾き補正ができます。
スモールピクチャー	追加編集できません。
黒フレーム	スモールピクチャーができます。
傾き補正	スモールピクチャーまたは黒フレームができます。
トリミング	黒フレームまたは傾き補正ができます。 画像サイズが320 × 240 以下の画像の場合は、傾き補正できません。

- 編集で作成した画像に同じ種類の編集を繰り返すことはできません。
- スモールピクチャーと別の編集機能を組み合わせるときは、スモールピクチャーは最後に編集してください。
- 撮影時に美肌機能を使って撮影した画像にも、美肌の編集ができます。

元画像と編集画像の関係について

- 編集で作成した画像は、元画像を削除しても削除されません。また、編集で作成した画像を削除しても、元画像は削除されません。
- 編集で作成した画像の撮影日時は、元の画像と同じです。
- ［**プリント指定**］（E60）や［**プロテクト設定**］（E66）した画像を編集しても、これらの設定内容は編集で作成した画像に反映されません。

簡単レタッチ（コントラストと鮮やかさを高める）

画像を選ぶ（34）➔ MENUボタン ➔ タブ（13）➔ 簡単レタッチ

マルチセレクターの▲▼を押して効果の度合いを選び、OKボタンを押す

- 左側に表示される画像は補正前、右側は補正後の見本です。
- 中止するときは、◀ を押します。
- 簡単レタッチで作成した画像は、再生画面でが表示されます。

D-ライティング（画像の暗い部分を明るく補正する）

画像を選ぶ（34）➔ MENUボタン ➔ タブ（13）➔ D-ライティング

マルチセレクターの▲▼を押して効果の度合いを選び、OKボタンを押す

- 左側に表示される画像は補正前、右側は補正後の見本です。
- 中止するときは、◀ を押します。
- D-ライティングで作成した画像は、再生画面でが表示されます。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→99

美肌（肌をなめらかにする）

画像を選ぶ（34）➔ MENUボタン ➔ ▶タブ（13）➔ 美肌

1 マルチセレクターの▲▼を押して効果の度合いを選び、ⓚボタンを押す

- 確認画面になり、美肌編集した顔が拡大表示されます。
- 中止するときは、◀を押します。

2 効果を確認する

- 最も画面の中央に近い順に、最大12人の肌を編集します。
- 美肌編集した顔が複数あるときは、マルチセレクターの◀ ▶を押すと顔の切り換えができます。
- 効果の度合いを変えたいときは、MENUボタンを押して、手順1に戻ります。
- ⓚボタンを押すと、美肌編集した画像が作成されます。
- 美肌編集で作成した画像は、再生画面でが表示されます。

詳細編

美肌についてのご注意

- 顔の向きや明るさなど、画像によっては、適切に顔を検出できないことや望ましい効果が得られないことがあります。
- 画像から人物の顔を検出できないときは、警告メッセージが表示され、再生メニューに戻ります。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→99

フィルター効果（デジタルフィルター）

画像を選ぶ（□34）➔ MENUボタン ➔ ▶タブ（□13）➔ フィルター効果

項目	内容
ソフト	画像の中央部から外側をぼかしたような雰囲気にします。顔認識（□85）やペット検出（□45）して撮影した画像の場合は、顔を中心に周りをぼかします。
セレクトカラー	画像の特定の色だけを残し、他の部分を白黒にします。
クロススクリーン	太陽の反射や街灯などの光源から、放射状に光の筋を伸ばします。夜景などを撮影した画像が適しています。
魚眼効果	魚眼レンズで撮影したような画像にします。マクロで撮影した画像が適しています。
ミニチュア効果	ミニチュア（模型）を接写したように加工します。高いところから見下ろして撮影した画像で、主要な被写体が画面中央付近に写った画像が適しています。
絵画調	絵画のような雰囲気に加工します。

1 マルチセレクターの▲▼を押してフィルター効果の種類を選び、OKボタンを押す

- ［**クロススクリーン**］、［**魚眼効果**］、［**ミニチュア効果**］、［**絵画調**］を選んだ場合→手順3

2 効果を調節して、OKボタンを押す

- ［**ソフト**］の場合：▲▼で効果の範囲を選びます。
- ［**セレクトカラー**］の場合：▲▼ で残したい色合いを選びます。

［ソフト］の場合

詳細編

3 効果を確認し、Ⓚボタンを押す

- 編集した画像が作成されます。
- 中止するときは、◀を押します。

- フィルター効果で作成した画像は、再生画面で が表示されます。

スモールピクチャー（画像サイズを小さくする）

画像を選ぶ（□34）➔ MENUボタン ➔ ▶タブ（□13）➔ スモールピクチャー

1 マルチセレクターの▲▼を押してスモールピクチャーのサイズを選び、Ⓚボタンを押す

- サイズは［**640 × 480**］、［**320 × 240**］または［**160×120**］から選べます。

2 ［**はい**］を選び、Ⓚボタンを押す

- スモールピクチャーが作成されます。
- 画質は［**BASIC**］（圧縮率約 1/16）として保存されます。
- 中止するときは、［**いいえ**］を選び、Ⓚ ボタンを押します。

- スモールピクチャーで作成した画像は、黒の枠で囲まれて表示されます。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→99

🄱🄺 黒フレーム（画像の周りに黒い枠を付ける）

画像を選ぶ（📖34）➔ MENUボタン ➔ ▶タブ（📖13）➔ 🄱🄺黒フレーム

1 マルチセレクターの ▲▼ を押して枠の太さを選び、OKボタンを押す

- 枠の太さは、［**細**］、［**中**］、［**太**］から選べます。

2 ［はい］を選び、OKボタンを押す

- 黒い枠を付けた画像が作成されます。
- 中止するときは、［**いいえ**］を選び、OK ボタンを押します。

- 黒フレームで作成した画像は、再生画面で🄱🄺が表示されます。

✔ 黒フレームについてのご注意

- 黒い枠は画像の上に重ねられるため、黒い枠の太さに応じて画像が削られます。
- 黒い枠を付けた画像をフチなしでプリントすると、黒い枠がプリントされないことがあります。

🖉 関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→⚭99

傾き補正（画像の傾きを補正する）

画像を選ぶ（34）➔ MENUボタン ➔ ▶タブ（13）➔ 傾き補正

マルチセレクターで傾きを補正する

- ◀を押すごとに反時計方向に1度ずつ回転します。
- ▶を押すごとに時計方向に1度ずつ回転します。
- 中止するときは、MENUボタンを押します。
- ⓚボタンを押すと、傾き補正した画像が作成されます。
- 傾き補正した画像は、再生画面でが表示されます。

傾き補正についてのご注意

- 傾き補正をすると、画像の周辺が切り取られます。補正する傾きが大きくなるほど、画像の周辺は大きく切り取られます。
- 傾きが補正できるのは、最大15度までです。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→99

NRW NRW (RAW) 現像（NRW画像からJPEG画像を作成する）

MENUボタンを押す ➔ ▶タブ（□13）➔ NRWNRW (RAW)現像

1 マルチセレクターで RAW 現像する画像を選び、Ⓚボタンを押す

2 NRW（RAW）現像のパラメーターをそれぞれ設定する

- ズームレバーを **T**（Q）方向に回して画像を確認しながら、以下の設定をします。設定画面に戻るには、もう一度**T**（Q）方向に回します。
  - ［**ホワイトバランス**］：ホワイトバランスを設定できます（［**AUTO（電球色を残す）**］は除く、⊶32）。
  - ［**露出補正**］：明るさを設定できます。
  - ［**Picture Control**］：画像の仕上がりを設定できます（⊶38）。
  - ［**画質**］：画質を［**FINE**］、［**NORMAL**］、［**BASIC**］の中から選べます（□75）。
  - ［**画像サイズ**］：画像サイズを設定できます（□77）。3:2［**3648×2432**］、16:9 7M［**3584×2016**］、1:1［**2736×2736**］を選ぶと、画像はトリミングされます。
  - ［**ゆがみ補正**］：ゆがみ補正を設定します（⊶54）。
  - ［**D-ライティング**］：画像の暗い部分を明るく補正します（⊶11）。
- 設定を初期設定に戻すときは、🗑ボタンを押します。
- 設定が完了したら、［**現像**］を選びます。

3 ［はい］を選び、Ⓚボタンを押す

- NRW (RAW) 現像後のJPEG画像が作成されます。
- 作成をやめるときは、［**いいえ**］を選びます。

NRW (RAW) 現像についてのご注意

- COOLPIX P7100 で NRW (RAW) 現像できる画像は、COOLPIX P7100 で撮影した NRW (RAW) 画像だけです。
- ［**ホワイトバランス**］を［**プリセットマニュアル**］以外で撮影した画像では、NRW (RAW) 現像の［**ホワイトバランス**］で［**プリセットマニュアル**］は選べません。

関連ページ

- 画像サイズ1:1の画像をプリントするときのご注意→79
- 記録データのファイル名とフォルダー名→99

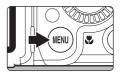
トリミング（画像の一部を切り抜く）

拡大表示（35）中にMENU:マークが表示されている画像は、液晶モニターに表示している部分だけにトリミング（切り抜き）できます。トリミングした画像は、元画像とは別に保存されます。

1 トリミングしたい画像を拡大表示する（35）

2 切り抜きたい部分だけが表示されるように調節する

- ズームレバーを**T**（Q）または**W**（）方向に回して拡大率を調節します。
- マルチセレクターの▲▼◀▶を押して表示範囲を移動します。

3 MENUボタンを押す

4 マルチセレクターで［**はい**］を選び、OKボタンを押す

- トリミング画像が作成されます。
- 中止するときは、［**いいえ**］を選び、OK ボタンを押します。

画像サイズについて

切り抜く範囲が狭くなるほど、トリミングで作成した画像の画像サイズ（ピクセル数）は小さくなります。トリミングして画像サイズが 320×240 または 160×120 になった画像は、再生時に黒の枠で囲まれ、画面左側にスモールピクチャーのアイコンが表示されます。

縦位置の画像を縦位置のままトリミングするには

［**画像回転**］（66）で画像を横位置に回転してからトリミングし、もう一度回転して縦位置に戻します。縦位置画像は、左右の黒い帯が見えなくなるまで画像を拡大するとトリミングできますが、画像は横位置になります。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→99

詳細編

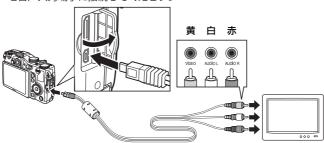
テレビとの接続（テレビ画面での再生）

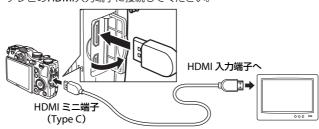
カメラをテレビに接続すると、撮影した画像をテレビ画面で再生できます。HDMI端子が付いたテレビをお持ちの場合は、市販のHDMIケーブルで接続して再生できます。

1 カメラの電源をOFFにする

2 カメラとテレビを接続する

付属のオーディオビデオケーブル（AVケーブル）で接続する場合

- AVケーブルの黄色のプラグをテレビの映像入力端子に、赤色と白色のプラグを音声入力端子に接続してください。

市販のHDMIケーブルで接続する場合

- テレビのHDMI入力端子に接続してください。

3 テレビの入力をビデオ入力（外部入力）に切り換える

- 詳しくはお使いのテレビの使用説明書をご覧ください。

4 カメラの▶ボタンを長押しして電源をONにする

- カメラは再生モードになり、撮影した画像がテレビに表示されます。
- テレビとの接続中は、カメラの液晶モニターは消灯したままになります。

HDMI接続についてのご注意

- HDMIケーブルは付属していません。市販のものをご用意ください。カメラのHDMI出力端子は、HDMIミニ端子（Type C）です。HDMIケーブルご購入時は、ケーブルの片方がHDMIミニ端子のものをお選びください。
- 撮影時の設定は、静止画の［**画像サイズ**］（77）は［**2048 ×1536**］以上、動画の［**動画設定**］（42）は［**HD 720p (1280×720)**］をおすすめします。

ケーブル接続時のご注意

- ケーブルは、プラグの挿入方向を確認して、無理な力を加えずにまっすぐに差し込んでください。プラグを引き抜くときも、まっすぐに引き抜いてください。
- カメラのHDMIミニ端子とUSB/ オーディオビデオ出力端子に、同時にケーブルを接続しないでください。

画像がテレビに映らないときは

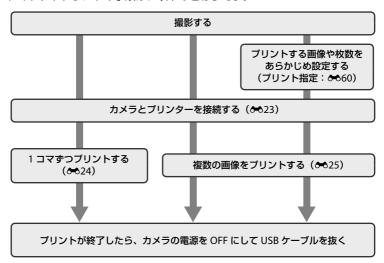
セットアップメニューの［**TV出力設定**］（84）がお使いのテレビに合っているか確認してください。

テレビのリモコンを使う（HDMI 機器制御）

HDMI-CEC規格対応テレビのリモコンで、再生中の操作ができます。
カメラのマルチセレクターやズームレバーのかわりに、リモコンで画像の選択や動画、1コマ表示と4コマのサムネイル表示の切り換えができます。

- カメラのセットアップメニュー［**TV出力設定**］の［**HDMI 機器制御**］（84）を［**ON**］（初期設定）にし、HDMIケーブルで接続してください。
- リモコンは、テレビに向けて操作してください。
- お使いのテレビがHDMI-CEC規格に対応しているかどうかは、テレビの使用説明書などでご確認ください。

プリンターとの接続（ダイレクトプリント）

PictBridge（☆16）対応プリンターをお使いの場合は、パソコンを使わずに、カメラとプリンターを直接つないでプリントできます（ダイレクトプリント）。ダイレクトプリントの手順は、以下のとおりです。

電源についてのご注意

- プリンターと接続するときは、途中で電源が切れないように、充分に残量のあるバッテリーをお使いください。
- 別売のACアダプター EH-5bとパワーコネクター EP-5A（⚭103）を使うと、家庭用コンセント（AC 100 V）から、このカメラへ電源を供給できます。EH-5b以外のACアダプターやEP-5A以外のパワーコネクターは絶対に使わないでください。カメラの故障、発熱の原因となります。

画像のプリント方法について

SDカードに記録した画像は、パソコンに転送したり、カメラをプリンターに接続してプリントする他に以下の方法でプリントできます。

- カードスロットが付いたDPOF対応プリンターでプリントする。
- プリントサービス店にプリントを依頼する。

これらの方法でプリントするときは、プリントする画像やプリント枚数などを、再生メニューの［**プリント指定**］を使って、あらかじめSDカードに設定できます（⚭60）。

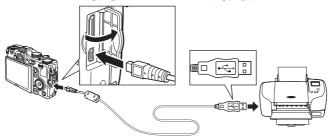
カメラとプリンターを接続する

1 カメラの電源をOFFにする

2 プリンターの電源をONにする

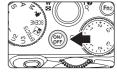
- プリンターの設定を確認してください。

3 付属のUSBケーブルで、カメラとプリンターを接続する

- プラグの挿入方向を確認して、無理な力を加えずにまっすぐに差し込んでください。プラグを引き抜くときも、まっすぐに引き抜いてください。

4 カメラの電源をONにする

- 正しく接続されると、カメラの液晶モニターに［**PictBridge**］画面（①）が表示された後、［**プリント画像選択**］画面（②）が表示されます。

①

②

1コマずつプリントする

カメラとプリンターを正しく接続してから（23）、以下の手順でプリントしてください。

1 マルチセレクターでプリントする画像を選び、Ⓚボタンを押す

- メインコマンドダイヤルを回しても画像を選べます。
- ズームレバーを**W**（▦）方向に回すと12コマ表示に、**T**（Q）方向に回すと1コマ表示に切り換わります。

2 ［プリント枚数設定］を選び、Ⓚボタンを押す

3 プリント枚数（9枚まで）を設定し、Ⓚボタンを押す

4 ［用紙設定］を選び、Ⓚボタンを押す

詳細編

関連ページ

画像サイズ1:1の画像をプリントするときのご注意→□79

5 用紙サイズを選び、Ⓚボタンを押す

- プリンターの設定を優先したいときは、［**プリンターの設定**］を選びます。

6 ［**プリント実行**］を選び、Ⓚボタンを押す

7 プリントが始まる

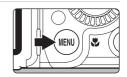
- プリントが終わると、手順1の画面に戻ります。
- プリントを途中で中止したいときは、Ⓚボタンを押します。

プリント中の枚数/総枚数

複数の画像をプリントする

カメラとプリンターを正しく接続してから（⊶23）、以下の手順でプリントしてください。

1 ［**プリント画像選択**］画面が表示されたら、MENUボタンを押す

- ［**プリントメニュー**］画面が表示されます。

2 マルチセレクターで［**用紙設定**］を選び、Ⓚ ボタンを押す

- プリントメニューを終了したいときは、MENUボタンを押します。

詳細編

3 用紙サイズを選び、Ⓚボタンを押す

- プリンターの設定を優先したいときは、［**プリンターの設定**］を選びます。

4 ［**プリント選択**］、［**全画像プリント**］または［**DPOFプリント**］を選んで、Ⓚボタンを押す

プリント選択

プリントする画像（最大99コマまで）と、それぞれのプリント枚数（各9枚まで）を設定できます。

- マルチセレクターの ◀▶ を押して画像を選び、▲▼ を押してプリント枚数を設定します。
- メインコマンドダイヤルを回しても画像を選べます。
- プリントされる画像には、チェックマークとプリント枚数が表示されます。枚数を 0 にすると、その画像の選択を解除できます。
- ズームレバーを **T**(🔍)方向に回すと 1 コマ表示に、**W**(▦)方向に回すと12コマ表示に切り換わります。
- 設定が終了したら Ⓚ ボタンを押します。

- 右の画面が表示されたら、［**プリント実行**］を選び、Ⓚ ボタンを押すと画像のプリントが始まります。
- ［**キャンセル**］を選んで Ⓚ ボタンを押すと、プリントメニューに戻ります。

詳細編

全画像プリント

SDカードまたは内蔵メモリー内のすべての画像を1枚ずつプリントできます。

- 右の画面が表示されたら、［**プリント実行**］を選び、Ⓚ ボタンを押すと画像のプリントが始まります。
- ［**キャンセル**］を選んで Ⓚ ボタンを押すと、プリントメニューに戻ります。

DPOFプリント

［**プリント指定**］（⚙60）であらかじめ指定しておいた画像をプリントできます。

- 右の画面が表示されたら、［**プリント実行**］を選び、Ⓚ ボタンを押すと画像のプリントが始まります。
- ［**キャンセル**］を選んで Ⓚ ボタンを押すと、プリントメニューに戻ります。

- ［**画像の確認**］を選んで Ⓚ ボタンを押すと、どの画像をプリント指定したか確認できます。もう一度 Ⓚ ボタンを押すと、画像のプリントが始まります。

5 プリントが始まる

- プリントが終わると、手順2の画面に戻ります。
- プリントを途中で中止したいときは、Ⓚボタンを押します。

プリント中の枚数/総枚数

用紙設定について

用紙設定画面では、［**プリンターの設定**］以外に、［**L サイズ**］、［**2L サイズ**］、［**はがき**］、［**100×150 mm**］、［**4×6 in.**］、［**8×10 in.**］、［**Letter**］、［**A3 サイズ**］、［**A4 サイズ**］のうち、プリンターが対応している用紙サイズを表示します。

動画の編集

動画の必要な部分だけを切り出す

撮影した動画の必要な部分だけを切り出し、別ファイルとして保存します。

1 編集する動画を再生して、切り出したい先頭で一時停止する（□102）

2 マルチセレクターの◀▶で操作パネルの✂を選び、Ⓚボタンを押す

- 動画編集画面が表示されます。

3 ▲▼を押して編集操作パネルの✂（始点の設定）を選ぶ

- マルチセレクターを回すか、◀ ▶を押して、始点の位置を調整します。
- 編集を中止するには、▲▼ で ↩（戻る）を選び、Ⓚボタンを押します。

4 ▲▼を押して✂（終点の設定）を選ぶ

- マルチセレクターを回すか、◀ ▶を押して、右端にある終点を必要な部分の終了位置まで移動します。
- ▶（プレビュー）を選び、Ⓚボタンを押すと、保存する前に指定した範囲の動画を再生して確認できます。プレビュー再生中は、ズームレバー**T**/**W**で音量を調節できます。マルチセレクターを回すと早送り/巻き戻しできます。プレビュー再生を停止するときは、もう一度Ⓚボタンを押します。

5 設定が完了したら、▲▼を押して📥（保存）を選び、Ⓚボタンを押す

6 ［はい］を選び、Ⓚボタンを押す

- 編集した動画が保存されます。
- 保存しないときは［**いいえ**］を選びます。

詳細編

動画編集についてのご注意

- 編集で作成した動画から、もう一度動画を切り出すことはできません。他の範囲を切り出すときは、元の動画を選んで編集してください。
- 秒単位で動画を切り出すため、設定した始点/終点のフレームと、実際の切り出し範囲は、多少ずれることがあります。再生時間が2秒未満になる動画の切り出しはできません。
- 内蔵メモリー /SDカードに充分な空き容量がないときは、編集できません。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→⚯99

動画の1フレームを静止画として保存する

撮影した動画の1画面を静止画として切り出して保存できます。

- 動画の再生を一時停止して、切り出したい画面を表示します（📖102）。
- マルチセレクターの◀▶で操作パネルの📷を選んで🆗ボタンを押します。

- 確認画面が表示されたら、［**はい**］を選んで🆗ボタンを押して保存します。保存をやめるときは、［**いいえ**］を選びます。
- 保存される静止画の画質は［**NORMAL**］です。画像サイズは元の動画の種類（画像サイズ）（⚯42）によって異なります。

動画の種類	静止画の画像サイズ
720p HD 720p (1280×720)	16:9 1M（1280×720）
VGA VGA (640×480)	VGA（640×480）
QVGA QVGA (320×240)	QVGA（320×240）

詳細編

静止画保存についてのご注意

QVGA（320×240）で保存された画像は、再生時に黒の枠で囲まれて表示されます。

クイックメニュー

QUAL 画質と画像サイズ

画質と画像サイズを設定するには、「画質と画像サイズを変える」(□74)をご覧ください。

ISO ISO感度設定(ISO感度を設定する)

モードダイヤルをP、S、A、Mに合わせる ➔ ISO(クイックメニューダイヤル)(□72) ➔ ISO感度設定

ISO感度を高くすると、より少ない光量で撮影できます。
ISO感度を高くするほど、より暗い被写体を撮影できます。また、同じ明るさの被写体でも、より速いシャッタースピードで撮影でき、手ブレや被写体の動きによるブレを軽減しやすくなります。

- ISO 感度を高くすると、暗い被写体の撮影やフラッシュを使わない撮影、望遠側での撮影などに効果的ですが、撮影した画像が多少ざらつくことがあります。

1 マルチセレクターの◀▶を押してISO感度設定を選ぶ

- メインコマンドダイヤルを回しても項目を選べます。
- ISO感度を[**オート**]、[**高感度オート**]、[**ISO 100-200**]または[**ISO 100-400**]にしたときはマルチセレクターの▼を押して、手順2に進みます。
- ISO感度を固定にしたときは、手順3に進みます。

2 低速限界設定を選ぶ

- マルチセレクターの▲を押すとISO感度の設定に戻ります。

3 設定が終わったら、クイックメニューボタンまたは®ボタンを押す

- 撮影画面に戻ります。

詳細編

ISO感度の種類

項目	内容
ISO感度設定	・AUTO［**オート**］（初期設定）：明るい場所では ISO 100 になり、暗い場所では自動的に ISO 800 まで ISO 感度が高くなります。 ・HI ISO［**高感度オート**］：被写体の明るさに応じて、ISO 100 から ISO 1600 までの範囲で ISO 感度が自動的に設定されます。 ・A 200［**ISO 100-200**］、A 400［**ISO 100-400**］（感度制限オート）：カメラが自動的にISO感度を変更するときの範囲を選べます。選んだ範囲の上限値以上に ISO 感度は上がりません。ISO 感度の上限値を設定することで、画像のざらつきを抑える効果があります。 ・［**100**］、［**200**］、［**400**］、［**800**］、［**1600**］、［**3200**］、［**Hi 1**］（ISO 6400 相当）： ISO 感度を選んだ値に固定します。
低速限界設定	撮影モードがPまたはAのときに［**ISO感度設定**］を［**オート**］、［**高感度オート**］、［**ISO 100-200**］または［**ISO 100-400**］に設定した場合、ISO感度の自動制御が働き始めるシャッタースピード（1/125～1秒）を設定します。初期設定は［**OFF**］です。ここで設定したシャッタースピードでは露出不足となる場合、適正露出を得るためにISO感度を自動的に高くします。ISO感度が上がっても露出不足となる場合は、シャッタースピードが遅くなります。

ISO感度の設定は、撮影時の画面で確認できます（□8）。

- ［**オート**］に設定した場合、ISO 100で撮影できるときは何も表示されず、ISO感度が自動的に上がったときにISOマークが表示されます（□30）。
- ［**高感度オート**］に設定したときはHI ISOマークが表示され、［**ISO 100-200**］または［**ISO 100-400**］に設定したときはA ISOマークとISO感度の上限値が表示されます。

詳細編

ISO感度設定についてのご注意

- M（マニュアル露出）モードのときに［**オート**］、［**高感度オート**］、［**ISO 100-200**］または［**ISO 100-400**］に設定すると、ISO感度はISO 100に固定されます。
- 他の機能と組み合わせて使えない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□80）

WB ホワイトバランス（画像の色を見た目の色に合わせる）

モードダイヤルをP、S、A、M、、に合わせる ➔ WB（クイックメニューダイヤル）（72）➔ ホワイトバランス

人間の目には、晴天、曇り空、白熱電球や蛍光灯の室内など、光源の色に関係なく白い被写体は白く見えます。人間の目に白く見える色を、デジタルカメラで白く撮影するには、光源の色に合わせて調整が必要です。この調整を「ホワイトバランスを合わせる」といいます。
初期設定の［**オート（標準）**］でほとんどの光源に対応できますが、撮影した画像が思い通りの色にならないときは、天候や光源に合わせて設定を変更してください。

1 マルチセレクターの◀▶を押してホワイトバランスの種類を選ぶ

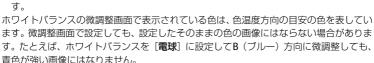
- メインコマンドダイヤルを回しても項目を選べます。
- Kを選んだときは、［**色温度設定**］から色温度（34）を設定できます。
- ホワイトバランスの微調整をするときは、［**微調整**］を選んで OK ボタンを押します。

2 設定が終わったら、クイックメニューボタンまたはOKボタンを押す

- 撮影画面に戻ります。

ホワイトバランスの微調整について

マルチセレクターの▲▼◀ ▶を押して微調整値を設定します。
- A（アンバー）、B（ブルー）、G（グリーン）、M（マゼンタ）の4 方向で、各方向6 段まで微調整できます。
- ボタンを押すと微調整値が中央（座標0、0）にリセットされます。
- サブコマンドダイヤルを回すと前の手順1の画面に戻ります。

ホワイトバランスの微調整画面で表示されている色は、色温度方向の目安の色を表しています。微調整画面で設定しても、設定したそのままの色の画像にはならない場合があります。たとえば、ホワイトバランスを［**電球**］に設定してB（ブルー）方向に微調整しても、青色が強い画像にはなりません。

ホワイトバランスの種類

項目		内容
AUTO1	**オート（標準）（初期設定）**	カメラが自動的にホワイトバランスを調整します。ほとんどの場合、初期設定のままで撮影できます。 ［**オート（電球色を残す）**］を選ぶと、電球色の光源下で撮影した際に暖かみのある画像の仕上がりになります。 フラッシュ使用時は、フラッシュ発光の条件に応じて、適したホワイトバランスに調整されます。
AUTO2	**オート（電球色を残す）**	
☀	**晴天**	晴天の屋外での撮影に適しています。
電球アイコン	**電球**	白熱電球の下での撮影に適しています。
蛍光灯アイコン	**蛍光灯（FL1～FL3）**	蛍光灯の下での撮影に適しています。［**FL1**］（白色蛍光灯）、［**FL2**］（昼白色蛍光灯）、［**FL3**］（昼光色蛍光灯）のいずれかを選べます。
曇天アイコン	**曇天**	曇り空の屋外での撮影に適しています。
フラッシュアイコン	**フラッシュ**	フラッシュを使う撮影に適しています。
K	**色温度設定**	色温度（E34）を直接指定できます。
PRE	**プリセットマニュアル（1～3）**	特殊な照明の下などでの撮影に適しています。詳しくは「プリセットマニュアルの使い方」（E35）をご覧ください。

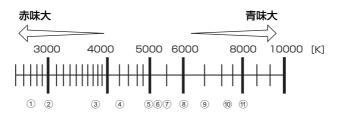
［**オート（標準）**］以外のときは、撮影時の画面にアイコンが表示されます（□8）。

詳細編

ホワイトバランスについてのご注意

- ［**オート（標準）**］、［**オート（電球色を残す）**］、［**フラッシュ**］以外のホワイトバランスを選んだときは、フラッシュを発光禁止アイコン（発光禁止）に設定してください（□61）。
- 他の機能と組み合わせて使えない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□80）

色温度について

光の色には、赤味を帯びたものや青味を帯びたものがあり、人間の主観で光の色を表すと、見る人によって微妙に異なります。そこで、光の色を絶対温度（K：ケルビン）という客観的な数字で表したものが色温度です。色温度が低くなるほど赤味を帯びた光色になります。色温度が高くなるほど青味を帯びた光色になります。

① ナトリウム灯混合光（約2700K）
② 電球（約3000K）
電球色蛍光灯（約3000K）
③ 温白色蛍光灯（約3700K）
④ 白色蛍光灯（約4200K）
⑤ 昼白色蛍光灯（約5000K）
⑥ 晴天（約5200K）
⑦ フラッシュ（約5400K）
⑧ 曇天（約6000K）
⑨ 昼光色蛍光灯（約6500K ）
⑩ 高色温度の水銀灯（約7200K）
⑪ 晴天日陰（約8000K）

プリセットマニュアルの使い方

特殊な照明下（赤みがかった照明など）で撮影した画像を、普通の照明下で撮影したように見せたいときなどに使います。
以下の手順で、撮影する照明下のホワイトバランス値を測定して、撮影します。

- プリセット値は、PRE1、PRE2、PRE3の3つまで記憶できます。

1 撮影する照明下で、白またはグレーの被写体を用意する

2 ホワイトバランスのクイックメニューを表示し（⊖32）、マルチセレクターの◀▶を押してPRE1、PRE2またはPRE3を選ぶ

- メインコマンドダイヤルを回しても項目を選べます。

3 ▼を押して［プリセットマニュアル］を選び、◀▶を押して［**PRE**］を選ぶ

- レンズが測定用のズーム位置になります。

4 測定窓に、用意した白またはグレーの被写体を収め、Ⓚボタンを押す

- シャッターがきれて、ホワイトバランスのプリセット値が新たに設定されます（画像は記録されません）。

測定窓

プリセットマニュアルについてのご注意

- フラッシュ発光時のホワイトバランス値は測定できません。フラッシュ撮影時は、［**ホワイトバランス**］を［**オート（標準）**］、［**オート（電球色を残す）**］または［**フラッシュ**］に設定してください。
- ワイドコンバーター装着時は、プリセットマニュアルを使えません。プリセット値の測定もできません。

前回測定したホワイトバランス値を使いたいときは

手順3で［✕］を選びます。再測定せずに、ホワイトバランスが前回の値に設定されます。

測定したホワイトバランス値を微調整したいときは

プリセット済みのPRE1、PRE2またはPRE3を選んでから、［**微調整**］を選んでⓀボタンを押すと、ホワイトバランスの微調整（⊖32）ができます。

詳細編

BKT ブラケティング（シャッタースピード、ISO感度、ホワイトバランスをずらして連続撮影する）

モードダイヤルをP、S、A、Mに合わせる ➔ BKT（クイックメニューダイヤル）（📖72）➔ ブラケティング

シャッタースピード（Tv）またはISO感度（Sv）で露出（明るさ）を自動的に変えて連続撮影したり、ホワイトバランス（WB）をずらした複数の画像を記録したりできます。画像の明るさの調整が難しい場合や複数の光源が混在していてホワイトバランスを決めにくい場合の撮影に効果的です。

1 マルチセレクターの◀▶を押してブラケティングの種類を選び、▼を押す

- メインコマンドダイヤルを回しても項目を選べます。

2 撮影するコマ数を選び、▼を押す

- 3コマまたは5コマから選べます。

3 補正するステップの幅を選び、▼を押す

- Tv（AEブラケティング（Tv））またはSv（AEブラケティング（Sv））の場合は、［**0.3**］、［**0.7**］、［**1**］から選べます。
- WB（ WBブラケティング ）の場合は、［**1**］、［**2**］、［**3**］から選べます

4 ブラケティングの範囲を選び、クイックメニューボタンまたは🆗ボタンを押す

- 撮影画面に戻ります。
- ［**リセット**］を選んで🆗ボタンを押すと、調整値は初期設定に戻ります。

関連ページ

インジケーターの＋/－方向 → ⚯94

詳細編

ブラケティングの種類

項目		内容
OFF	OFF（初期設定）	ブラケティングを行いません。
Tv	AE ブラケティング (Tv)	連写するコマ数と露出差のステップの幅、撮影の範囲を設定します。シャッターボタンを全押しすると、自動的にシャッタースピードを調節しながら連続撮影します。 •「Tv」は Time value のことです。
Sv	AE ブラケティング (Sv)	連写するコマ数とISO感度のステップの幅、撮影の範囲を設定します。シャッターボタンを全押しすると、シャッタースピードと絞り値を固定したまま、ISO感度を変えながら連続撮影します。 •「Sv」は Sensitivity value のことです。
WB	WBブラケティング	記録するコマ数と色温度補正値のステップの幅、記録する範囲を設定します。 シャッターボタンを全押しすると、1コマ撮影し、色温度を変えた画像を設定したコマ数分記録します。

［**OFF**］以外のときは、撮影時の画面にアイコンが表示されます（□8）。

ブラケティングについてのご注意

- M（マニュアル露出）モードの場合、［**AEブラケティング (Tv)**］、［**AEブラケティング (Sv)**］は使えません。
- S（シャッター優先オート）モードの場合、［**AEブラケティング (Tv)**］は使えません。
- 露出補正（□71）と［**AEブラケティング (Tv)**］を同時に設定すると、補正量を加算します。ただし、インジケーターに表示される基準点は変わりません。
- ［**WB ブラケティング**］では、色温度（A（アンバー）からB（ブルー）への横方向）の補正のみを行います。G（グリーン）からM（マゼンタ）への縦方向の補正は行いません。
- 他の機能と組み合わせて使えない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□80）

Picture Control（COOLPIXピクチャーコントロール）（記録する画像の画（え）作りを設定する）

モードダイヤルをP、S、A、Mに合わせる ➔ （クイックメニューダイヤル）（□72）

撮影状況や好みに合わせて、記録する画像の画（え）作りを設定できます。輪郭強調の度合い、コントラスト、色の濃さ（彩度）を細かく調整することもできます。

COOLPIX ピクチャーコントロールの種類

項目		内容
SD	**スタンダード（初期設定）**	鮮やかでバランスのとれた標準的な画像になります。ほとんどの撮影状況に適しています。
NL	**ニュートラル**	素材性を重視した自然な画像になります。撮影後に画像を加工したいときに適しています。
VI	**ビビッド**	メリハリのある生き生きとした色鮮やかな画像になります。青、赤、緑など、原色の色を強調したいときに適しています。
MC	**モノクローム**	白黒やセピアなど、単色の濃淡で表現した画像になります。
C1	**カスタム 1**※	COOLPIXカスタムピクチャーコントロールで［**カスタム1**］に登録した設定にします。
C2	**カスタム 2**※	COOLPIXカスタムピクチャーコントロールで［**カスタム2**］に登録した設定にします。

※［**Custom Picture Control**］（⊶43）でカスタマイズした設定を登録したときのみ表示されます。

［**スタンダード**］以外のときは、撮影時の画面にアイコンが表示されます（□8）。

詳細編

COOLPIXピクチャーコントロールについてのご注意

- COOLPIX P7100 の COOLPIX ピクチャーコントロール機能は、他のカメラ、Capture NX、Capture NX 2およびViewNX 2のピクチャーコントロール機能と相互利用はできません。
- 他の機能と組み合わせて使えない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□80）

COOLPIXピクチャーコントロールのカスタマイズ：クイック調整と手動調整

COOLPIXピクチャーコントロールは、輪郭強調、コントラスト、色の濃さ（彩度）などの画（え）作りの要素をバランス良くまとめて調整できる「クイック調整」と、要素ひとつひとつを細かく調整できる「手動調整」でカスタマイズできます。

1 マルチセレクターでCOOLPIXピクチャーコントロールの種類を選び、Ⓞボタンを押す

- メインコマンドダイヤルを回しても項目を選べます。

2 ▲▼を押して調整する項目（⊶40）を選び、◀▶を押して値を設定する

- Ⓞボタンを押すと、値が設定されます。
- 調整した COOLPIX ピクチャーコントロールの項目名の末尾にアスタリスク（＊）が表示されます。
- ［**リセット**］を選んでⓄボタンを押すと、調整値は初期設定に戻ります。

COOLPIXピクチャーコントロールのグリッド表示

上記手順1の画面でズームレバーを**T**（Q）方向に回すと、コントラスト（CONTRAST）と色の濃さ（SATURATION：彩度）がグリッド（方眼）で表示されます。縦軸はコントラストの強弱を、横軸は色の濃さを示します。もう一度**T**（Q）方向に回すと、元の画面に戻ります。
グリッド表示では、現在の設定値と初期設定値が表示され、他のCOOLPIXピクチャーコントロールとの関係がわかります。

- マルチセレクターを回すと、他の COOLPIX ピクチャーコントロールに切り換えられます。
- Ⓞボタンを押すと調整画面（上記の手順2）が表示されます。
- ［**モノクローム**］の場合、グリッド表示はコントラストのみ表示されます。
- 手動調整の［**コントラスト**］または［**色の濃さ (彩度)**］を調整中でもグリッド表示に切り換わります。

詳細編

クイック調整と手動調整の種類

項目	内容
クイック調整※1	輪郭強調、コントラスト、色の濃さ（彩度）のレベルを自動的に調整します。［**－2**］～［**＋2**］まで5段階の調整ができます。－側にするとそれぞれのCOOLPIXピクチャーコントロールの特徴を抑えた画像になり、＋側にするとそれぞれのCOOLPIXピクチャーコントロールの特徴を強調した画像になります。 初期設定は［**0**］です。
輪郭強調	画像の輪郭の強調度合い（シャープネス）を設定します。自動で調整する［**A**］（オート）と、［**0**］（輪郭強調しない）～［**6**］まで7段階の調整ができます。 数字が大きいほどくっきりとした画像になり、小さいほどソフトな画像になります。 初期設定は［**スタンダード**］または［**モノクローム**］のとき［**3**］、［**ニュートラル**］のとき［**2**］、［**ビビッド**］のとき［**4**］です。
コントラスト	画像のコントラストを設定します。自動で調整する［**A**］（オート）と、［**－3**］～［**＋3**］まで7段階の調整ができます。 －側にすると軟調な画像になり、＋側にすると硬調な画像になります。晴天時の人物撮影や白とびが気になる場合などは－側が、かすんだ遠景の撮影などには＋側が適しています。 初期設定は［**0**］です。
色の濃さ（彩度）※2	画像の色の鮮やかさを設定します。自動で調整する［**A**］（オート）と、［**－3**］～［**＋3**］まで7段階の調整ができます。 －側にすると鮮やかさが抑えられ、＋側にするとより鮮やかになります。 初期設定は［**0**］です。
フィルター効果※3	白黒写真用カラーフィルターを通して撮影したときのような効果が得られます。フィルター効果は［**OFF**］（初期設定）、［**Y**］（黄色）、［**O**］（オレンジ）、［**R**］（赤）、［**G**］（緑）から選べます。 ［**Y**］、［**O**］、［**R**］： コントラストを強調する効果があり、風景撮影で空の明るさを抑えたい場合などに使います。［**Y**］→［**O**］→［**R**］の順にコントラストが強くなります。 ［**G**］： 肌の色や唇などを落ち着いた感じに仕上げます。ポートレート撮影などに使います。

項目	内容
調色※3	印画紙を調色したときのように、画像全体の色調を調整できます。調色は［**B&W**］（白黒）（初期設定）、［**Sepia**］（セピア調）、［**Cyanotype**］（青写真）から選べます。 ［**Sepia**］または［**Cyanotype**］を選んでロータリーマルチセレクターの▼を押すと、さらに色の濃淡を7段階から選べます。◀▶を押して選んでください。

※1［**ニュートラル**］、［**モノクローム**］、［**カスタム 1**］または［**カスタム 2**］の場合は、クイック調整できません。
手動調整した後にクイック調整をすると、手動調整で設定した値は無効になります。
※2［**モノクローム**］の場合は、表示されません。
※3［**モノクローム**］のときのみ表示されます。

［輪郭強調］についてのご注意

［**輪郭強調**］の効果は、撮影時の画面では確認できません。画像を再生して確認してください。

［コントラスト］についてのご注意

［**Active D-ライティング**］（⚭56）が［**OFF**］以外のときは、［**コントラスト**］に⊠が表示され、調整はできません。

［コントラスト］、［色の濃さ (彩度)］の［A］（オート）についてのご注意

- 同じような状況で撮影しても、被写体の位置や大きさ、露出によって、仕上がり具合は変化します。
- ［**コントラスト**］または［**色の濃さ (彩度)**］に［**A**］（オート）が設定されたCOOLPIXピクチャーコントロールは、グリッド表示のときに設定値が緑色で表示されます。

［カスタム 1］、［カスタム 2］で調整できる項目について

［**カスタム 1**］または［**カスタム 2**］を選んだ場合は、元になったCOOLPIXピクチャーコントロールの項目が調整できます。

詳細編

QUAL 動画設定（撮影する動画の種類を変える）

モードダイヤルを🎥に合わせる ➔ QUAL（クイックメニューダイヤル）（📖72）➔ 動画設定

撮影する動画の種類を選びます。画像サイズが大きく、ビットレートが大きいほど高画質になりますが、ファイルサイズは大きくなります。

1 マルチセレクターの◀▶を押して動画の種類を選ぶ

記録可能時間

- 選んでいる動画の種類での記録可能時間が表示されます。
- メインコマンドダイヤルを回しても項目を選べます。

2 設定が終わったら、クイックメニューボタンまたは®ボタンを押す

- 撮影画面に戻ります。

画像サイズ

項目	内容
720P HD 720p (1280×720)（初期設定）	縦横比16:9の動画を記録します。 • ビットレート：約 9 Mbps
VGA VGA (640×480)	縦横比4:3の動画を記録します。 • ビットレート：約 3 Mbps
QVGA QVGA (320×240)	縦横比4:3の動画を記録します。 • ビットレート：約 640 kbps

- ビットレートとは、1 秒間あたりの動画のデータ量です。撮影する被写体により、ビットレートが自動的に変わる「VBR 記録方式」を採用しています。動きの多い被写体を記録した場合は、ファイルサイズが大きくなります。
- 撮影フレーム数は、［**HD 720p (1280 × 720)**］の場合は約 24 フレーム / 秒、［**VGA (640 × 480)**］、［**QVGA (320 × 240)**］の場合は約 30 フレーム / 秒です。

詳細編

動画の記録可能時間 → 📖100

Custom Picture Control（COOLPIXカスタムピクチャーコントロール）

モードダイヤルをP、S、A、Mに合わせる ➔ MENUボタン ➔ P、S、A、Mタブ（🕮13）➔ Custom Picture Control

「COOLPIXピクチャーコントロール」を調整（カスタマイズ）した画作り設定を2つまで登録できます。登録した設定は「COOLPIXピクチャーコントロール」の［**カスタム1**］、［**カスタム2**］として呼び出せます。

COOLPIXカスタムピクチャーコントロールを登録する

1 マルチセレクターで［**編集と登録**］を選び、Ⓚボタンを押す

2 元にするCOOLPIXピクチャーコントロール（E39）を選び、Ⓚボタンを押す

3 ▲▼を押して調整する項目を選び、◀▶を押して値を設定する（E39）

- 項目の内容はCOOLPIXピクチャーコントロールの調整と同じです。
- Ⓚボタンを押して、登録先の選択画面を表示します。
- ［**リセット**］を選んでⓀボタンを押すと、調整値は初期設定に戻ります。

4 登録先を選び、Ⓚボタンを押す

- COOLPIX カスタムピクチャーコントロールが登録されます。
- 登録すると、［**Picture Control**］および［**Custom Picture Control**］の選択画面で［**カスタム 1**］または［**カスタム 2**］を選べるようになります。

COOLPIXカスタムピクチャーコントロールを削除するには

「COOLPIXカスタムピクチャーコントロールを登録する」の手順1で［**登録削除**］を選んで、登録を削除します。

測光方式

モードダイヤルをP、S、A、M、に合わせる ➔ MENUボタン ➔ P、S、A、M、タブ（13）➔ 測光方式

露出を合わせるため、被写体の明るさを測ることを「測光」といいます。
カメラが 測光する方式を設定します。

項目	内容
マルチパターン（初期設定）	画面の広い領域を測光します。 さまざまな撮影状況で適正な露出が得られます。通常の撮影では、マルチパターン測光をおすすめします。
中央部重点	画面に表示されている中央部重点測光範囲に重点を置いて測光します。ポートレート撮影など、重点的に画面中央部に露出を合わせたいときなどに使います。露出を合わせたい部分が画面中央部にないときは、フォーカスロック（33）をお使いください。
スポット	画面中央部に表示されているスポット測光範囲で測光します。被写体と背景の明るさが著しく異なるときなどに使います。被写体がスポット測光範囲に入るように撮影してください。露出を合わせたい部分が画面中央部にないときは、フォーカスロック（33）をお使いください。
AFスポット	選択されているAFエリアを測光し、露出値を決定します。AFエリア選択（48）が［**顔認識オート**］または［**マニュアル**］のときに設定できます。

測光方式についてのご注意

- 電子ズームが1.2 ～ 1.8 倍のときは、［**測光方式**］は［**中央部重点**］になります。電子ズームが2.0 ～ 4.0倍のときは、［**スポット**］になります。ただし、電子ズームのときは、測光範囲は表示されません。
- 他の機能と組み合わせて使えない場合があります。→「同時に設定できない機能」（80）

ローノイズナイトモードの測光方式について

ローノイズナイトモードでも［**測光方式**］を設定できます（50）。撮影モードP、S、A、Mの［**測光方式**］とは連動せずに独立して記憶されます。

測光方式表示について

［**測光方式**］を［**中央部重点**］または［**スポット**］に設定すると、測光範囲が表示されます（8）。

詳細編

連写

モードダイヤルをP、S、A、M、に合わせる ➔ MENUボタン ➔ P、S、A、M、タブ（13）➔ 連写

連写（連続撮影）やBSS（ベストショットセレクター）などを設定できます。

項目	内容
単写（初期設定）	1コマずつ撮影します。
連写	シャッターボタンを全押しし続けると、約1.2コマ/秒の速さで最大約90コマまで連写できます（画質が［**NORMAL**］、画像サイズが ［**3648×2736**］のとき）。
フラッシュ連写	シャッターボタンを全押しし続けると、内蔵フラッシュを使った連続撮影をします（約1コマ/秒の速さで連続約3コマ：（画質が［**NORMAL**］、画像サイズが ［**3648×2736**］のとき）。 1セットの連続撮影が終わるたびに、内蔵フラッシュを充電します。充電が終わるまでは、次の撮影はできません。 ISO感度を上げて撮影するので、撮影した画像が多少ざらつく場合があります。
BSS BSS（ベストショットセレクター）	暗い場所でフラッシュを使わずに撮影するときや、望遠側で撮影するときなど、手ブレしやすい状況で撮影する場合に設定します。 シャッターボタンを全押しし続けると、最大10コマ連写し、最も鮮明に撮れている1コマだけをカメラが自動で選んで記録します。
マルチ連写	シャッターボタンを1回全押しすると約30コマ/秒の速さで16コマの連続写真を撮影し、1コマの画像として記録します。 • 記録される画質は［**NORMAL**］、画像サイズは（2560×1920ピクセル）に固定されます。 • 電子ズームは使えません。
インターバル撮影	あらかじめ設定した撮影間隔（インターバル）で、静止画を自動的に連続撮影します（46）。

［**単写**］以外のときは、撮影時の画面にアイコンが表示されます（8）。

詳細編

連写についてのご注意

- ピントと露出、ホワイトバランスは、最初の1コマと同じ条件に固定されます。
- 画質や画像サイズ、SD カードの種類または撮影状況によって、連写速度が遅くなることがあります。
- ［**ISO感度設定**］（⚮30）が［**3200**］または［**Hi 1**］のときは、連写速度が遅くなります。
- 他の機能と組み合わせて使えない場合があります。→「同時に設定できない機能」（📖80）
- 連写時の内蔵フラッシュ、別売スピードライト（外付けフラッシュ）の使用について→「同時に設定できない機能」（📖80）
- 連続撮影中に内蔵フラッシュを開閉しないでください。開閉すると撮影が終了します。

フラッシュ連写についてのご注意

内蔵フラッシュが閉じていると、フラッシュ連写はできません。フラッシュ連写で撮影するときは、内蔵フラッシュをポップアップしてください。

BSSについてのご注意

［**BSS**］は静止している被写体の撮影に効果的です。動いている被写体の撮影や、構図を変えながらの撮影では、望ましい結果が得られない場合があります。

マルチ連写についてのご注意

マルチ連写の撮影では、液晶モニターにスミア（☼2）が発生した場合、記録される画像にもスミアの影響が残ります。スミアの影響を避けるため、太陽や太陽の照り返し、電灯などを画面内に入れずに撮影するようおすすめします。

ローノイズナイトモードの連写について

ローノイズナイトモードでも［**連写**］を［**単写**］または［**連写**］に設定できます（📖50）。撮影モードP、S、A、Mの［**連写**］とは連動せずに独立して記憶されます。

インターバル撮影を使った撮影方法

モードダイヤルをP、S、A、Mに合わせる ➔ MENUボタン ➔ P、S、A、Mタブ（📖13）➔ 連写

撮影間隔は、［**30 秒**］、［**1 分**］、［**5 分**］または［**10 分**］に設定できます。

1 マルチセレクターで［連写］設定の🕒［インターバル撮影］を選び、Ⓚボタンを押す

詳細編

2 撮影間隔を選び、Ⓚボタンを押す

- インターバル撮影できる最大コマ数は、撮影間隔によって異なります。
  -［**30 秒**］：600コマ
  -［**1 分**］：300コマ
  -［**5 分**］：60コマ
  -［**10 分**］：30コマ

3 MENU ボタンを押す

- 撮影画面に戻ります。

4 シャッターボタンを全押しして、1コマ目の撮影を開始する

- 撮影の合間は、液晶モニターが消灯し、電源ランプが点滅します。
- 次のコマの撮影直前になると、自動的に液晶モニターが再点灯します。

5 もう一度シャッターボタンを全押しして、撮影を終了する

- 内蔵メモリー /SDカードの残量がなくなったとき、または撮影コマ数が上限に達すると、撮影が自動的に終了します。

インターバル撮影についてのご注意

- 途中で電源が切れないように、充分に残量のあるバッテリーをお使いください。
- 別売のACアダプター EH-5bとパワーコネクター EP-5A（E103）を使うと、家庭用コンセント（AC 100 V）からこのカメラへ電源を供給できます。EH-5b以外のACアダプターやEP-5A以外のパワーコネクターは絶対に使わないでください。カメラの故障、発熱の原因となります。
- インターバル撮影中は、モードダイヤルを回さないでください。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→E99

AFエリア選択

モードダイヤルをP、S、A、M、EFFECTS、に合わせる → MENUボタン → P、S、A、M、、タブ（13）→ AFエリア選択

オートフォーカスでピント合わせをするエリアの決め方を設定します。
- マルチセレクターの▶（）を押しても設定できます（60、86）。

項目	内容
顔認識オート	カメラが人物の顔を認識すると、顔にピントが合います（顔認識撮影について→85）。 複数の顔を認識したときは、最もカメラに近い顔にピントが合います。 人物以外の撮影や顔を認識できない構図では、AFエリア選択が［**オート**］になり、9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアでピントが合います。 AFエリア • 液晶モニターを OFF にすると、AF エリアは［**中央 (標準)**］に固定されます。
オート （初期設定）	9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアでピントが合います。 シャッターボタンを半押しするまで、AFエリアは表示されません。 半押しすると、ピントが合ったAF エリアが画面に表示されます（最大9カ所）。 AFエリア • 液晶モニターを OFF にすると、AF エリアは［**中央 (標準)**］に固定されます。

項目	内容
[⊡] マニュアル	画面内の99カ所から、ピントを合わせたいエリアを自分で選びます。比較的動きの少ない被写体が画面中央にない場合に適しています。 マルチセレクターを回すか、▲▼◀▶を押して、画面に表示されているAFエリアを、ピントを合わせたい位置に動かしてから撮影します。 AFエリア 選択可能エリア • 以下の設定をするときは、Ⓚ ボタンを押していったんAF エリアが選べる状態を解除し、それぞれの設定を行います。 - フラッシュモード、フォーカスモード、またはセルフタイマー もう一度Ⓚボタンを押すと、再びAFエリアを選べる状態になります。 • ［**画像サイズ**］（□77）が ［**2736 × 2736**］のときは、選べる AF エリアの位置は 81 カ所になります。
[▪] 中央（スポット） [■] 中央（標準） [▬] 中央（ワイド）	画面中央の被写体にピントが合います。 AFエリアが画面中央に常に表示されます。 AFエリアのサイズは3つから選べます。 AFエリア
[⊕] ターゲット追尾	ピントを合わせたい被写体を登録するとターゲット追尾が始まり、AFエリアが被写体を追いかけて移動します。→「動く被写体にピントを合わせて撮影する（ターゲット追尾）」（⚬⚬50）。

✔ AFエリア選択についてのご注意

- 電子ズーム使用時は、［**AFエリア選択**］の設定にかかわらず、画面中央でピント合わせを行います。
- 「オートフォーカスが苦手な被写体」（□33）の撮影では、ピントが合わないことがあります。
- 他の機能と組み合わせて使えない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□80）

動く被写体にピントを合わせて撮影する（ターゲット追尾）

モードダイヤルをP、S、A、M、に合わせる ➔ MENUボタン ➔ P、S、A、M、タブ（13）➔ AFエリア選択

動きのある被写体の撮影をするときに使います。ピントを合わせたい被写体を登録するとターゲット追尾が始まり、AFエリアが被写体を追いかけて移動します。

- 撮影モードがP、S、A、M、U1、U2、U3、（ローノイズナイト）のときに使えます。

1 マルチセレクターで［ターゲット追尾］を選び、ボタンを押す

- ターゲット追尾になり、画面中央に白色の枠が表示されます。

2 被写体を画面の中央の枠に合わせて、ボタンを押す

- 被写体が登録されます。
- 枠が赤色で表示されたときは、被写体にピントを合わせられません。構図を変えて、もう一度被写体を登録してください。
- 被写体が登録されると、黄色いAFエリア表示で囲まれ、ターゲット追尾が始まります。
- 登録を解除したいときは、ボタンを押します。
- カメラが被写体を見失って AF エリア表示が消えたときは、もう一度被写体を登録してください。

3 シャッターボタンを全押しして撮影する

- シャッターボタンを半押しして、AFエリアでピントが合うと、AFエリア表示が緑色になり、ピントが固定されます。
- AF エリアが表示されていない状態でシャッターボタンを半押しすると、画面中央の被写体にピントが合います。

ターゲット追尾についてのご注意

- 電子ズームは使えません。
- ズーム位置、フラッシュモード、フォーカスモードまたはメニューは、被写体を登録する前に設定してください。被写体を登録した後に設定を変更すると、被写体の登録が解除されます。
- 被写体の動きが速いときや手ブレが大きいとき、類似した被写体がある場合など、撮影条件によっては、被写体をターゲットに登録できないことや追尾できないこと、または別の被写体を追尾することがあります。被写体の大きさや明るさなどによっても、適切にターゲット追尾できないことがあります。
- 「オートフォーカスが苦手な被写体」（□33）の撮影では、AFエリア表示が緑色になっていても、まれにピントが合わないことがあります。ピントが合わないときは、AFエリアを［**マニュアル**］、［**中央 (スポット)**］、［**中央 (標準)**］または［**中央 (ワイド)**］にするか、撮影モードをオート撮影モードなどに切り換え、等距離にある別の被写体でピントを合わせるフォーカスロック撮影（□33）をお試しください。
- ターゲット追尾中は、□ボタンを押しても液晶モニターOFFにはなりません（□15）。
- 他の機能と組み合わせて使えない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□80）

AFモード（オートフォーカスモード）

モードダイヤルをP､S､A､Mに合わせる ➔ MENUボタン ➔ P､S､A､Mタブ(□13) ➔ AFモード

ピントの合わせ方を設定します。

項目	内容
AF-S シングルAF（初期設定）	シャッターボタンを半押ししたときだけピントを合わせます。
AF-F 常時AF	シャッターボタンを半押しするまで、常にピント合わせを繰り返します。動きのある被写体の撮影に適しています。常にピントを合わせる動作音がします。

動画のAFモードについて

動画撮影時のAFモードは、動画メニューの［**AFモード**］（⚯69）で設定します。

調光補正

モードダイヤルをP、S、A、M、☑に合わせる ➔ MENUボタン ➔ P、S、A、M、☑タブ（□13）➔ 調光補正

背景に対する被写体の明るさを調整したいときなどに、フラッシュの発光量を補正できます。

項目	内容
－0.3～－2.0	－0.3～－2.0 EVまで、1/3段ごとにフラッシュの発光量が少なくなります。被写体に光が強く当たりすぎないよう発光量を少なくします。
0.0（初期設定）	調光補正を行いません。
+0.3～+2.0	0.3～2.0 EVまで、1/3段ごとにフラッシュの発光量が多くなります。構図の中心となる被写体をより明るく照らすように発光量を多くします。

［**0.0**］以外のときは、撮影時の画面にアイコンが表示されます（□8）。

ローノイズナイトモードの調光補正について

ローノイズナイトモードでも［**調光補正**］を設定できます（□50）。撮影モードP、S、A、Mの［**調光補正**］とは連動せずに独立して記憶されます。

ノイズ低減フィルター

モードダイヤルをP、S、A、Mに合わせる ➔ MENUボタン ➔ P、S、A、Mタブ（□13）
➔ ノイズ低減フィルター

画像の記録時に通常行うノイズ低減機能の強さを設定します。

- シャッタースピードが遅くなったときに発生するノイズは、［**長秒時ノイズ低減**］（➡53）で設定します。

項目		内容
NR+	**強め**	ノイズ低減を標準よりも強めに行います。
NR	**標準（初期設定）**	ノイズ低減を標準の強さで行います。
NR-	**弱め**	ノイズ低減を標準よりも弱めに行います。

［**標準**］以外のときは、撮影時の画面にアイコンが表示されます（□8）。

長秒時ノイズ低減

モードダイヤルをP、S、A、Mに合わせる ➔ MENUボタン ➔ P、S、A、Mタブ（□13）
➔ 長秒時ノイズ低減

暗いところなどで撮影する場合、シャッタースピードが遅くなると、画像にノイズが発生する場合があります。このノイズを低減する設定を行います。長秒時ノイズ低減処理が行われると、撮影開始から内蔵メモリー/SDカードへ画像が記録されるまでの時間が、通常より長くかかります。

項目		内容
AUTO	AUTO **（初期設定）**	ノイズが発生するような遅いシャッタースピードになると、ノイズ低減を行います。
⏱NR	ON	1/4秒以上の低速シャッタースピードのときに必ずノイズ低減を行います。低速シャッタースピードで撮影するときは、［**ON**］にすることをおすすめします。

長秒時ノイズ低減が行われるときは、撮影時の画面で⏱NRのマークが点灯します（□8）。

✔ 長秒時ノイズ低減についてのご注意

他の機能と組み合わせて使えない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□80）

詳細編

ゆがみ補正

モードダイヤルをP、S、A、Mに合わせる ➔ MENUボタン ➔ P、S、A、Mタブ（□13）
➔ ゆがみ補正

レンズの特性によって画像周辺部に生じるゆがみの補正を設定します。ゆがみを補正すると、補正しない場合に比べて、撮影範囲が狭くなります。
［**ON**］にすると、ゆがみを補正します。

- 初期設定は［**OFF**］です。

［**ON**］のときは、撮影時の画面にアイコンが表示されます（□8）。

ゆがみ補正についてのご注意

他の機能と組み合わせて使えない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□80）

ワイドコンバーター

モードダイヤルをP、S、A、Mに合わせる ➔ MENUボタン ➔ P、S、A、Mタブ（□13）
➔ ワイドコンバーター

別売のワイドコンバーター WC-E75A（0.75倍）装着時に設定してください。装着には別売のアダプターリング UR-E22も必要です。

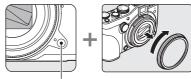
項目	内容
W ON	ワイドコンバーター WC-E75A を使うときに設定します。WC-E75A装着時の撮影画角は、35 mm判換算で約21 mm相当になります（［**ゆがみ補正**］を［**OFF**］にしたとき）。ズームレンズは広角端に固定されます。電子ズームは使えません。
OFF OFF（初期設定）	ワイドコンバーターを使わないときに設定します（アダプターリングを取り外し、レンズリングを必ず取り付けてください）。

［**ON**］のときは、撮影時の画面にアイコンが表示されます（□8）。

ワイドコンバーター撮影のご注意

- 撮影の前に、［**ワイドコンバーター**］を［**ON**］にしてください。ワイドコンバーターを外して撮影するときは、［**ワイドコンバーター**］を［**OFF**］にしてください。
- ［**ワイドコンバーター**］が［**ON**］のときは、内蔵フラッシュは自動的に ⊕（発光禁止）になります。ただし、別売のスピードライト（⊶101）を使うと、フラッシュ撮影ができます。
- スピードライトを使う場合、画像の周辺部が暗くなることがあります。撮影後に液晶モニターで画像を確認してください。スピードライト SB-600、SB-700、SB-800 または SB-900を使う場合は、ワイドパネルの使用をおすすめします。
- ［**ワイドコンバーター**］が［**ON**］のときは、AF補助光は使えません。
- 他の機能と組み合わせて使えない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□80）

レンズリングの着脱について

- ワイドコンバーターを取り付ける前に、レンズリングを取り外します。レンズリングを着脱するときは、あらかじめカメラの電源を必ず OFF にしてください。レンズリング取り外しボタンを押しながら、レンズリングを時計周りに回すと取り外せます。
- レンズリングをカメラに取り付けるには、レンズリングの着脱指標（白い点）をレンズリング取り外しボタンに合わせて、レンズリングを反時計回りに回します。
- ワイドコンバーターを使わないときは、カメラにレンズリングを必ず取り付けてください。
- ワイドコンバーターの取り付け方法は、ワイドコンバーターの使用説明書をご覧ください。

発光切り換え

モードダイヤルをP、S、A、Mに合わせる ➔ MENUボタン ➔ P、S、A、Mタブ（□13）➔ 発光切り換え

カメラのアクセサリーシューに取り付けたスピードライト（外付けフラッシュ）（⊶101）を使わないときも、内蔵フラッシュを発光禁止に設定できます。

項目	内容
AUTO **オート（初期設定）**	スピードライト使用時は、スピードライトを発光します。スピードライトを使用しないときは、内蔵フラッシュを発光します。
OFF **内蔵発光禁止**	内蔵フラッシュを常に発光禁止にします。

発光切り換えについてのご注意

他の機能と組み合わせて使えない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□80）

詳細編

Active D-ライティング（アクティブD-ライティング）

モードダイヤルをP、S、A、Mに合わせる ➔ MENUボタン ➔ P、S、A、Mタブ（□13）
➔ Active D-ライティング

撮影の前にあらかじめ「アクティブ D-ライティング」を設定しておくと、ハイライトの白とびを抑え、暗部の黒つぶれを軽減する効果があります。撮影した画像は、見た目のコントラストに近い仕上がりになります。暗い室内から外の風景を撮ったり、直射日光の強い海辺など明暗差の激しい景色を撮影するときに効果的です。

項目		内容
HI	**強め**	撮影時に処理するアクティブD-ライティングの効果の度合いを設定します。
NORM	**標準**	
LO	**弱め**	
OFF	**OFF（初期設定）**	アクティブD-ライティング処理をしません。

［**OFF**］以外のときは、撮影時の画面にアイコンが表示されます（□8）。

✔ アクティブ D-ライティングについてのご注意

- アクティブ D-ライティングで撮影すると、記録に時間がかかります。
- アクティブ D-ライティングを［**OFF**］にして撮影する場合よりも、露出をアンダー側に制御し、階調が適切な明るさになるように、ハイライト部やシャドー部および中間調を調整して記録します。
- 他の機能と組み合わせて使えない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□80）

✔ ［Active D-ライティング］と［D-ライティング］の違い

［**Active D-ライティング**］は、撮影前に階調が適切に調整できるようにアンダー側に露出を制御して撮影します。一方、再生メニューの［**D-ライティング**］（⊶11）は、撮影した画像に対して階調を適切に再調整します。

詳細編

ズームメモリー

モードダイヤルをP、S、A、Mに合わせる ➔ MENUボタン ➔ P、S、A、Mタブ（□13）
➔ ズームメモリー

Fn1ボタンを押しながらズームレバーを操作すると、あらかじめ［**ズームメモリー**］で設定したズームレンズの焦点距離（35mm判換算の撮影画角）に段階的に切り換えできます。［**28 mm**］、［**35 mm**］、［**50 mm**］、［**85 mm**］、［**105 mm**］、［**135 mm**］、［**200 mm**］を設定できます。

- 焦点距離をマルチセレクターで選び、Ⓚボタンを押してチェックボックスのオン［✔］/オフを設定します。
- 焦点距離の設定は、複数選べます。
- 初期設定は、すべてのチェックボックスがオン［✔］になっています。
- 設定を終了するには、マルチセレクターの◀を押します。

ズーム操作についてのご注意

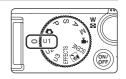
- ズームメモリーをオンに設定した焦点距離に切り換えるには、Fn1ボタンを押しながらズームレバーを操作します。
  最初に切り換わる焦点距離は、操作する前と一番近い焦点距離です。他の焦点距離に切り換えるには、いったんズームレバーをはなしてから操作してください。
- 電子ズームを使うときは、Fn1ボタンから指をはなしてください。

U1/U2/U3専用メニュー

ここでは［**User Setting登録**］と［**User Settingリセット**］の使い方を説明します。［**User Setting登録**］と［**User Settingリセット**］以外の項目の詳細は、「U1、U2、U3（ユーザーセッティング）モード」（📖57）をご覧ください。

User Setting 登録

撮影でよく使う設定を変更して、U1、U2、U3に登録します。

1 モードダイヤルをU1、U2またはU3に合わせる

2 撮影時の設定をよく使う組み合わせに変更する

- MENU ボタンを押してメニューを表示し、マルチセレクターでタブを切り換えます（📖13）。
  - U1、U2、U3タブ：U1/U2/U3専用メニューを表示します（📖57）。
  - P、S、A、Mタブ：撮影メニューを表示します（📖54）。
- クイックメニューは、クイックメニューボタンを押して表示します（📖72）。

3 変更が終わったら、U1/U2/U3専用メニューの［**User Setting 登録**］を選んで、OKボタンを押す

4 ［はい］を選んで、OKボタンを押す

- 現在の設定内容が登録されます。
- ズームレバーを **T**（Q）方向に回すと、設定状態を確認できます（➡59）。登録画面に戻るには、もう一度**T**（Q）方向に回します。

詳細編

時計用電池のご注意

内蔵の時計用電池（27）が切れると、U1、U2またはU3に登録した設定内容がリセットされますのでご注意ください。重要な設定は、必要に応じてメモしておくことをおすすめします。

User Settingの設定状態の確認画面について

58の手順4の画面でズームレバーを**T**（Q）方向に回すと、設定状態の確認ができます。

1 撮影モード
2 シャッタースピード
3 絞り値
4 フラッシュモード
5 調光補正
6 発光切り換え
7 AFエリア選択、AFモード、AF補助光
8 測光方式、連写モード、
アクティブD-ライティング
9 ノイズ低減フィルター、長秒時ノイズ低減
10 ズームメモリー
11 フォーカスモード、焦点距離（35mm判換算）、
ゆがみ補正、ワイドコンバーター
12 モニター表示設定、水準器の種類
13 モニター点灯設定
14 画質、画像サイズ
15 ISO感度設定
16 ホワイトバランス
17 ブラケティング
18 Picture Control

U1、U2、U3のリセットについて

U1/U2/U3専用メニューで［**User Settingリセット**］を選ぶと、ユーザーセッティングに登録された設定内容は、以下のようにリセットされます。

- U1/U2/U3専用メニュー：［**撮影モード**］：P［**プログラムオート**］、［**焦点距離（35mm判換算）**］：［**28 mm**］、［**モニター表示設定**］：すべてオフ、［**水準器の種類**］：［**円形表示**］、［**モニター点灯設定**］：［**情報ON**］、［**フラッシュ**］：AUTO［**自動発光**］、［**フォーカス**］：AF［**通常AF**］、［**AFエリア選択**］：［**オート**］、［**AF補助光**］：［**AUTO**］
- 撮影メニュー、クイックメニュー：それぞれの項目の初期設定と同じ

詳細編

再生メニュー

画像編集機能［**簡単レタッチ**］、［**D-ライティング**］、［**美肌**］、［**フィルター効果**］、［**スモールピクチャー**］、［**黒フレーム**］、［**傾き補正**］、［**NRW (RAW) 現像**］については、「画像の編集（静止画）」（E9）をご覧ください。

プリント指定（プリントする画像や枚数の設定）

MENUボタンを押す ➔ ▶タブ（□13）➔ プリント指定

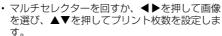
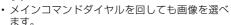
SDカードに記録した画像を以下の方法でプリントする場合、どの画像を何枚プリントするかを、あらかじめSDカードに設定できます。

- カードスロットが付いたDPOF対応（16）のプリンターでプリントする。
- DPOF対応のプリントサービス店にプリントを依頼する。
- カメラを　PictBridge　対応（16）のプリンターに接続してプリントする（E22）（カメラからSDカードを取り外すと、内蔵メモリーに記録した画像にもプリント指定できます）。

1 マルチセレクターで［**複数画像選択**］を選び、OKボタンを押す

- 撮影日一覧モード（□88）のときは、右の画面は表示されません。
  手順2へ進んでください。

2 プリントする画像（最大99コマまで）と、それぞれのプリント枚数（各9枚まで）を設定する

- マルチセレクターを回すか、◀▶を押して画像を選び、▲▼を押してプリント枚数を設定します。

- メインコマンドダイヤルを回しても画像を選べます。
- プリントされる画像には、チェックマークとプリント枚数が表示されます。枚数を0にすると、その画像の選択を解除できます。
- ズームレバーを**T**（Q）方向に回すと1コマ表示に、**W**（▦）方向に回すと12コマ表示に切り換わります。
- 設定が終了したらOKボタンを押します。

3 日付と撮影情報を画像に入れてプリントするかどうかを設定する

- ［**日付**］を選んで🆗ボタンを押すと、すべての画像に撮影日を印字します。
- ［**撮影情報**］を選んで🆗ボタンを押すと、すべての画像に撮影情報（シャッタースピードと絞り値）を印字します。
- ［**選択終了**］を選んで🆗ボタンを押し、設定を有効にします。

プリント指定を行った画像は、再生時の画面で🖶が表示されます。

✔ 日付と撮影情報を入れてプリントするときのご注意

プリント指定で設定した［**日付**］と［**撮影情報**］は、「日付」や「撮影情報」が印字可能なDPOF対応プリンター（🔧16）で印字できます。

- 付属のUSBケーブルでカメラをプリンターに接続して「DPOFプリント」（⚯27）するときは、「撮影情報」は印字できません。
- プリント指定を行った後、再び［**プリント指定**］を表示すると、［**日付**］と［**撮影情報**］の設定はリセットされますのでご注意ください。
- プリントされる日付は、撮影時点でカメラに設定されている日時です。撮影後にセットアップメニューの［**地域と日時**］を変更してもプリントされる日付には反映されません。

[プリント指定]についてのご注意

- 撮影日一覧モードでプリント指定するときに、選んだ撮影日以外の画像がすでにプリント指定されていると、右の画面が表示されます。
  - [**はい**]を選ぶと、他の画像のプリント指定に今回の設定内容を追加します。
  - [**いいえ**]を選ぶと、他の画像のプリント指定をすべて解除して、今回の設定だけを残します。

  また、今回の設定内容を追加することで設定コマ数が 99 コマを超える場合は、右の画面が表示されます。
  - [**はい**]を選ぶと、他の画像のプリント指定をすべて解除して、今回の設定だけを残します。
  - [**キャンセル**]を選ぶと、他の画像のプリント指定を残して、今回の設定を取り消します。
- NRW (RAW) 画像は、プリント指定ができません。[**NRW (RAW) 現像**](⚯17)を使って作成したJPEG形式の画像をプリント指定してください。

プリント指定をすべて取り消すには

プリント指定の手順1(⚯60)で[**プリント指定取消**]を選んでⓀボタンを押すと、すべての画像に対するプリント指定を取り消しできます。

[デート写し込み]について

セットアップメニューの[**デート写し込み**](⚯75)を使うと、撮影時に日時を画像に写し込んで記録できます。日付の印字に対応していないプリンターでも日付入りの画像をプリントできます。デート写し込みした画像は、[**プリント指定**]で日付の印字を設定しても、デート写し込みした日付のみがプリントに表示されます。

関連ページ

画像サイズ1:1の画像をプリントするときのご注意→📖79

スライドショー

MENUボタンを押す➔ ▶タブ（□13）➔ スライドショー

内蔵メモリー/SDカード内の画像を、1コマずつ順番に自動再生します。

1 マルチセレクターで［**開始**］を選び、Ⓚ ボタンを押す

- 画像の表示時間を変更するには、［**開始**］を選ぶ前に［**インターバル設定**］を選んでⓀボタンを押し、画像の表示時間を選びます。
- 繰り返し再生するには、［**開始**］を選ぶ前に［**エンドレス**］を選んでⓀボタンを押し、チェックボックスをオン［✔］にします。

2 スライドショーが始まる

- 再生中にマルチセレクターの ▶ を押すと次の画像、◀を押すと前の画像を表示します（ボタンを押し続けると早送り/早戻しになります）。
- 途中で終了または一時停止したいときは、Ⓚボタンを押します。

3 終了または再開する

- スライドショー終了時や一時停止中は、右の画面になります。■を選び、Ⓚボタンを押すと再生メニューに戻ります。▶ を選ぶとスライドショーを再開します。

スライドショーについてのご注意

- 動画（□102）は1フレーム目だけを表示します。
- スライドショーを連続再生できる時間は、［**エンドレス**］に設定している場合も含め、最大約30分です（⚭82）。

詳細編

🗑 削除

MENUボタンを押す ➔ ▶タブ（📖13）➔ 🗑 削除

画像を削除します。複数の画像をまとめて削除できます。

項目	内容
削除画像選択	画像選択の画面で、画像を選んで削除します。→「画像選択画面の操作方法」（⚭65） ・［**画質**］（📖75）を［**NRW (RAW) + FINE**］、［**NRW (RAW) + NORMAL**］または［**NRW (RAW) + BASIC**］で撮影した画像を選ぶと、NRW (RAW) と JPEG の画像が同時に削除されます。
全画像削除	すべての画像を削除します。
削除画像選択 (NRWのみ)	画像選択の画面には、NRW (RAW)画像のみ表示されます。画像を選んで削除します。 ・NRW (RAW) と JPEG を同時記録した画像は、NRW (RAW) 画像のみを削除します。
削除画像選択 (JPEGのみ)	画像選択の画面には、JPEG画像のみ表示されます。画像を選んで削除します。 ・NRW (RAW) と JPEG を同時記録した画像は、JPEG 画像のみを削除します。

☑ 画像削除についてのご注意

- 削除した画像は元に戻せないため、ご注意ください。残しておきたい画像はパソコンに転送して保存することをおすすめします。
- ⊚ｭ マークが表示されている画像は、プロテクト（保護）されているので削除されません（⚭66）。
- NRW (RAW) とJPEG を同時記録した画像は、画像選択画面で NRW+JPEG が表示されます。

画像選択画面の操作方法

以下のメニューでは、画像選択画面が表示されます。
1画像のみ選べるメニュー項目と、複数の画像を選べるメニュー項目があります。

1画像だけ選べる機能	複数の画像を選べる機能
・**再生メニュー**： 簡単レタッチ※（E11）、 D-ライティング※（E11）、 美肌※（E12）、 フィルター効果※（E13）、 画像回転（E66）、 スモールピクチャー※（E14）、 音声メモ※（E67）、 黒フレーム※（E15）、 傾き補正※（E16）、 NRW (RAW) 現像（E17） ・**セットアップメニュー**： オープニング画面の［**撮影した画像**］（E70）	・**再生メニュー**： プリント指定の［**複数画像選択**］（E60）、 削除の削除画像選択（E64）、 プロテクト設定（E66）、 非表示設定（E66）、 画像コピーの［**選択画像コピー**］（E68）

※ 再生モード以外で再生メニューを表示したとき（□13）にメニュー項目を選ぶと表示されます。

以下の手順で画像を選びます。

1 マルチセレクターを回すか、◀ ▶を押して、画像を選ぶ

- メインコマンドダイヤルを回しても画像を選べます。
- ズームレバーを **T**（Q）方向に回すと 1 コマ表示に、**W**（⊞）方向に回すと12コマ表示に切り換わります。
- 1画像だけ選べる機能の場合→手順3へ

2 ▲▼を押してON/OFF（またはプリント枚数）を設定する

- ONにすると、選択画像に✔が表示されます。複数の画像に設定したいときは、手順1と2を繰り返します。

3 Ⓚボタンを押して画像選択を決定する

- 削除画像選択などでは、確認画面になります。画面の表示に従って操作してください。

詳細編

On プロテクト設定

MENUボタンを押す ➔ ▶タブ（□13）➔ On プロテクト設定

大切な画像を誤って削除しないように、画像にプロテクト（保護）を設定できます。
画像選択の画面で、画像を選んでプロテクトの設定または解除をします。→「画像選択画面の操作方法」（🔗65）
ただし、内蔵メモリー/SDカードを初期化（フォーマット、🔗83）すると、プロテクト設定した画像も削除されますので、ご注意ください。
プロテクト設定した画像は、カメラでの再生時に◎マーク（□10）が表示されます。

画像回転

MENUボタンを押す ➔ ▶タブ（□13）➔ 画像回転

撮影後に、カメラなどで表示するときの画像の向き（縦横位置）を設定します。静止画を時計方向に90度、または反時計方向に90度回転できます。
撮影時に縦位置で記録された画像は、時計回り/反時計回りのどちらか一方向に180度まで回転できます。
画像選択の画面で回転する画像を選ぶと（🔗65）、画像回転の画面が表示されます。マルチセレクターを回すか、◀または▶を押すと90度回転します。
®ボタンを押すと、表示している方向で決定し、画像に縦横位置情報が記録されます。

非表示設定

MENUボタンを押す ➔ ▶タブ（□13）➔ 非表示設定

撮影した画像をカメラで再生できないようにします。
画像選択の画面で、画像を選んで非表示の設定または解除をします。→「画像選択画面の操作方法」（🔗65）
非表示設定した画像は［**削除**］では削除されません。ただし、内蔵メモリー/SDカードを初期化（フォーマット、🔗83）すると、非表示設定した画像も削除されますので、ご注意ください。

音声メモ

MENUボタンを押す ➔ ▶タブ（13）➔ 音声メモ

撮影した画像に、カメラのマイクを使って音声によるメモが付けられます。

- 音声メモが付いていない画像では録音画面になり、音声メモが付いた画像（1コマ表示でが表示されている画像）では音声メモの再生画面になります。

音声メモを録音する

- ボタンを押している間、約20秒まで音声メモを録音できます。
- 録音中はカメラのマイクに触れないようご注意ください。
- 録音中は REC とが点滅します。
- 録音が終了すると、音声メモ再生画面になります。

音声メモを再生する

音声メモを録音した画像には、1コマ表示でが表示されます。

- 再生するには、ボタンを押します。もう一度押すと、再生が止まります。
- 再生中は、ズームレバー**T/W**で音量を調節できます。
- 再生前または再生終了後にマルチセレクターの◀を押すと、再生メニューに戻ります。MENUボタンを押すと、再生メニューを終了します。

音声メモを削除する

音声メモの再生画面でボタンを押します。マルチセレクターの▲▼を押して［**はい**］を選び、ボタンを押すと、音声メモだけを削除します。

音声メモについてのご注意

- 音声メモが付いた画像を削除すると、その画像に付けた音声メモも削除されます。
- すでに音声メモが録音されている画像には、音声メモを録音できません。録音内容を変更するときは、いったん音声メモだけを削除してから、もう一度音声メモを録音してください。
- COOLPIX P7100以外で撮影した画像には、このカメラで音声メモを付けられません。
- ［**プロテクト設定**］（66）された画像の音声メモは削除できません。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名 → 99

詳細編

画像コピー（内蔵メモリーとSDカード間のコピー）

MENUボタンを押す ➔ ▶タブ（□13）➔ 画像コピー

内蔵メモリーの画像をSDカードへ、またはSDカードの画像を内蔵メモリーへコピーできます。

1 マルチセレクターでコピーする方向を選び、Ⓚボタンを押す

- IN➔SD：内蔵メモリーからSDカードへコピーします。
- SD➔IN：SDカードから内蔵メモリーへコピーします。

2 コピーの方法を選び、Ⓚボタンを押す

- ［**選択画像コピー**］：画像選択の画面（E65）で、画像を選んでコピーします。
- ［**全画像コピー**］：すべての画像をコピーします。

画像コピーについてのご注意

- コピーできるファイルの形式は、JPEG、NRW、MOV、WAVです。これ以外の形式のファイルはコピーできません。
- 画像に付けた「音声メモ」（E67）や、［**プロテクト設定**］（E66）の設定も、画像と同時にコピーします。
- ［**画質**］（□75）を［**NRW (RAW) + FINE**］、［**NRW (RAW) + NORMAL**］または［**NRW (RAW) + BASIC**］で撮影した画像を選ぶと、NRW (RAW)とJPEGの画像が同時にコピーされます。
- 他社製のカメラで撮影した画像やパソコンで加工した画像のコピーは動作を保証していません。
- ［**プリント指定**］（E60）の設定内容は、コピーされません。
- ［**非表示設定**］（E66）した画像はコピーできません。

［撮影画像がありません］のメッセージについて

SDカードに画像が記録されていないときに再生モードに切り換えると、［**撮影画像がありません**］と表示されますが、MENUボタンを押すと画像コピー画面が表示され、内蔵メモリー内の画像をSDカードにコピーできます。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→E99

動画メニュー

AFモード

モードダイヤルを🎞に合わせる ➔ MENUボタン ➔ 🎞（動画）タブ（□13）➔ AFモード

動画を撮影するときのピントの合わせ方を選びます。

項目	内容
AF-S シングルAF（初期設定）	シャッターボタンを半押ししたときのピントに固定します。撮影中に被写体との距離があまり変化しない撮影に適しています。
AF-F 常時AF	動画撮影中、ピント合わせを繰り返します。 撮影中に被写体との距離が変化する撮影に適しています。ピントを合わせる動作音が録音されることがあります。動作音が気になるときは、［**シングルAF**］での撮影をおすすめします。

風切り音低減

モードダイヤルを🎞に合わせる➔ MENUボタン ➔ 🎞（動画）タブ（□13）➔ 風切り音低減

項目	内容
ON	カメラの内蔵マイクに吹き付ける風の音を抑えて記録します。強風時の撮影に適しています。再生時に風切り音以外の音が聞こえにくくなることがあります。
OFF OFF（初期設定）	風切り音を低減しません。

［**ON**］のときは、撮影時の画面にアイコンが表示されます（□8）。

✔ 風切り音低減についてのご注意

外部マイク（⚭84）を使用して撮影するときは、風切り音低減機能は動作しません。

詳細編

オープニング画面

MENUボタンを押す ➔ ¥タブ（□13）➔ オープニング画面

カメラの電源をONにしたときに、液晶モニターにオープニング画面を表示するかどうかを設定します。

項目	内容
なし （初期設定）	オープニング画面を表示しないで、撮影または再生画面を表示します。
COOLPIX	オープニング画面を表示してから、撮影または再生画面を表示します。
撮影した画像	撮影した画像をオープニング画面として表示します。画像選択の画面が表示されたら画像を選び（E65）、Ⓚボタンを押して登録します。 • 登録した画像はカメラに記憶されるため、元画像を削除しても、オープニング画面に残ります。 • NRW (RAW) 画像（□75）、［**画像サイズ**］（□77）を［**3648 × 2432**］、［**3584 × 2016**］または［**2736 × 2736**］にして撮影した画像、およびスモールピクチャー（E14）やトリミング（E19）で作成した画像サイズ 320 × 240 以下の画像は、登録できません。

詳細編

地域と日時

MENUボタンを押す ➔ ￥タブ（□13）➔ 地域と日時

項目	内容
日時の設定	内蔵時計の日付と時刻を設定します。 表示される設定画面で、マルチセレクターを使って設定します。 • 項目を選ぶ：▶ または ◀ を押します（[**年**]、[**月**]、[**日**]、[**時**]、[**分**]に切り換わります）。 • 項目の内容を合わせる：▲ または ▼ を押します。メインコマンドダイヤルを回しても変更できます。 • 設定を完了する：[**分**] を選び、OK ボタンまたは ▶ を押します。 日時の設定 年 2011 月 11 日 15 15 : 10 変更
日付の表示順	日付の表示順を、[**年/月/日**]、[**月/日/年**]、[**日/月/年**] から選べます。
タイムゾーン	自宅（⌂）のタイムゾーン（地域）や夏時間（サマータイム）を設定します。 また、訪問先（✈）のタイムゾーンを登録すると、自宅（⌂）との時差（⚯73）を自動的に計算し、撮影日時を現地時間で記録できます。海外旅行などに便利です。

詳細編

時差のある地域で使うには

1 マルチセレクターで［**タイムゾーン**］を選び、Ⓚボタンを押す

- ［**タイムゾーン**］画面が表示されます。

2 ✈［**訪問先**］を選び、Ⓚボタンを押す

- 訪問先の時計に切り換わります。

3 ▶を押す

- 地域の設定画面が表示されます。

4 ◀または▶を押して訪問先の地域（タイムゾーン）を選ぶ

- 自宅と訪問先の時差が表示されます。
- 夏時間（サマータイム）が現在実施されている地域で使うときは、▲を押して夏時間の設定をオンにします。設定をオンにすると、画面上部に☀マークが表示され、時計が1時間進みます。オフにするときは、▼を押します。
- Ⓚボタンを押して、訪問先を決定します。
- 訪問先の時計に設定しているときは、撮影時の画面に✈マークが表示されます。

⌂（自宅）の設定について

- 自宅のタイムゾーンに戻すには、手順2で⌂［**自宅**］を選び、Ⓚボタンを押してください。
- 自宅のタイムゾーンを変更するには、手順2で⌂［**自宅**］を選び、✈［**訪問先**］と同様の手順でタイムゾーンを変更してください。

タイムゾーンについて

時差とタイムゾーンの関係は以下の表をご覧ください。
この表にない時差は、正しい時刻を［**地域と日時**］で合わせてください。

時差 +/–	タイムゾーン	時差 +/–	タイムゾーン
–20	Midway, Samoa（ミッドウェー、サモア）	–8	Madrid, Paris, Berlin（マドリード、パリ、ベルリン）
–19	Hawaii, Tahiti（ハワイ、タヒチ）	–7	Athens, Helsinki, Ankara（アテネ、ヘルシンキ、アンカラ）
–18	Alaska, Anchorage（アラスカ、アンカレッジ）	–6	Moscow, Nairobi, Riyadh, Kuwait, Manama（モスクワ、ナイロビ、リヤド、クウェート、マナマ）
–17	PST (PDT): Los Angeles, Seattle, Vancouver（ロサンゼルス、シアトル、バンクーバー）	–5	Abu Dhabi, Dubai（アブダビ、ドバイ）
–16	MST (MDT): Denver, Phoenix（デンバー、フェニックス）	–4	Islamabad, Karachi（イスラマバード、カラチ）
–15	CST (CDT): Chicago, Houston, Mexico City（シカゴ、ヒューストン、メキシコシティー）	–3.5	New Delhi（ニューデリー）
–14	EST (EDT): New York, Toronto, Lima（ニューヨーク、トロント、リマ）	–3	Colombo, Dhaka（コロンボ、ダッカ）
–13.5	Caracas（カラカス）	–2	Bangkok, Jakarta（バンコク、ジャカルタ）
–13	Manaus（マナウス）	–1	Beijing, Hong Kong, Singapore（北京、香港、シンガポール）
–12	Buenos Aires, Sao Paulo（ブエノスアイレス、サンパウロ）	±0	Tokyo, Seoul（東京、ソウル）
–11	Fernando de Noronha（フェルナンド・デ・ノローニャ）	+1	Sydney, Guam（シドニー、グアム）
–10	Azores（アゾレス）	+2	New Caledonia（ニューカレドニア）
–9	London, Casablanca（ロンドン、カサブランカ）	+3	Auckland, Fiji（オークランド、フィジー）

モニター設定

MENUボタンを押す ➔ ¥タブ（□13）➔ モニター設定

項目	内容
撮影後の画像表示	［**ON**］（初期設定）：撮影直後に、撮影した画像を表示してから撮影画面に戻ります。 ［**OFF**］：撮影直後に、撮影した画像を表示しません。 ［**ピント位置拡大表示**］：撮影直後に、撮影した画像を表示してから撮影画面に戻ります。ピント合わせを行ったエリアに、その部分の拡大画像が表示されます。 ［**トーンレベルインフォメーション**］：撮影直後に、トーンレベルインフォメーション（□15）を表示します。
画面の明るさ	画面の明るさを5段階で調節できます。初期設定は［**3**］です。
モニター表示設定	撮影時の液晶モニターに表示する表示オプションを設定します。液晶モニターの表示（□15）が［**情報ON**］のときと［**情報OFF**］のときのそれぞれで表示オプション（□8）を設定できます。初期設定はすべて非表示（オフ）です。 **水準器表示**：カメラが水平になっているか確認するための水準器を表示します。カメラが水平や垂直になると、水準器表示の指標が緑色になります。 **ヒストグラム表示**：画像の明るさの分布を表すグラフを表示します（□8）。 **格子線表示**：構図を決めるための格子状のガイドを表示します。 • 表示 / 非表示の選択は、マルチセレクターでオプションを選び、Ⓚ ボタンを押してチェックボックスのオン［✔］/ オフを切り換えます。 • 設定が完了したら、［**決定**］を選び、Ⓚ ボタンを押します。
水準器の種類	水準器の表示を［**円形表示**］（初期設定）または［**バー表示**］のどちらかに設定します（□8）。

モニター表示設定についてのご注意

- 動画モードのときは、格子線表示のみ表示されます。
- 撮影モードU1、U2またはU3の場合、セットアップメニューの［**モニター表示設定**］では、設定ができません。U1、U2またはU3のタブを選び、U1/U2/U3専用メニューの［**モニター表示設定**］で設定してください（□13、58）。

デート写し込み（日付を画像に入れる）

MENUボタンを押す ➔ 🔧タブ（□13）➔ デート写し込み

撮影時に日時を画像に写し込んで記録できます。日付の印字（⊶61）に対応していないプリンターでも日付入りの画像をプリントできます。

項目	内容
DATE 年・月・日	画像に日付を写し込みます。
DATE 年・月・日・時刻	画像に日付と時刻を写し込みます。
OFF OFF（初期設定）	日付、時刻のどちらも写し込みません。

［**OFF**］以外のときは、撮影時の画面にアイコンが表示されます（□8）。

デート写し込みについてのご注意

- 一度写し込まれた日時を画像から消したり、撮影した後で日時を写し込むことはできません。
- 以下の場合は日時を写し込めません。
  - シーンモードが［**スポーツ**］、［**ミュージアム**］、［**逆光**］の［**HDR**］が［**ON**］、［**パノラマアシスト**］または［**ペット**］の［**連写**］のとき
  - 動画撮影のとき
- 他の機能と組み合わせて使えない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□80）
- ［**画像サイズ**］（□77）が VGA［**640×480**］の画像にデート写し込みを行うと、写し込んだ日付が読みづらいことがあります。画像サイズは PC［**1024×768**］以上に設定してください。
- 年月日の並びは、［**地域と日時**］（□26、⊶71）での設定と同じになります。

「デート写し込み」と「プリント指定」について

日付や撮影情報の印刷が可能なDPOF対応のプリンターでプリントするときは、［**デート写し込み**］で日時を写し込んでいない画像でも、［**プリント指定**］（⊶60）で撮影日時や撮影情報をプリントするように設定できます。

詳細編

セルフタイマー解除設定

MENUボタンを押す ➔ Yタブ（□13）➔ セルフタイマー解除設定

セルフタイマー撮影（□64）や10秒リモコンまたは2秒リモコンで撮影（⊶105）したときに、設定を解除するかどうか設定します。

項目	内容
撮影後に自動解除する（初期設定）	撮影後に設定を解除します。 • 瞬時リモコンまたは笑顔自動シャッター（□65）のときは設定は解除されません。
撮影後に解除しない	撮影後に設定を解除せず、継続して撮影できます。 • 撮影モードが ◘（オート撮影）、P、S、A、M、☾（ローノイズナイト）、EFFECTS（スペシャルエフェクト）の場合、電源を OFF にしても解除されません。

手ブレ補正

MENUボタンを押す ➔ Yタブ（□13）➔ 手ブレ補正

項目	内容
(✋) ON **（初期設定）**	静止画および動画の望遠側での撮影やスローシャッターでの撮影時に起こりがちな手ブレを補正します。また、流し撮りでは、カメラが流し撮りの方向を自動的に検出し、手ブレによる揺れのみを補正します。 たとえば、横方向に流し撮りするときには縦方向の手ブレだけが、縦方向に流し撮りするときには横方向の手ブレだけが補正されます。
OFF OFF	手ブレ補正をしません。

• 三脚などでカメラを固定して撮影するときは、手ブレ補正を［**OFF**］にしてください。

［**ON**］のときは、撮影時の画面にアイコンが表示されます（□8）。

☑ 手ブレ補正についてのご注意

• カメラの電源をONにした直後、または再生モードから撮影モードに切り換えた直後は、液晶モニターの画像が安定してから撮影してください。
• 手ブレ補正の原理上、撮影直後に液晶モニターの画像がずれて見えることがあります。
• 手ブレ補正機能を設定しても、撮影状況によっては手ブレを完全に補正できないことがあります。

詳細編

モーション検知

MENUボタンを押す ➔ 🔧タブ（📖13）➔ モーション検知

静止画を撮影するときに被写体ブレや手ブレを軽減する「モーション検知」機能を設定します。

項目	内容
AUTO	カメラが被写体の動きや手ブレを検知すると、ブレを軽減するためにISO感度を上げてシャッタースピードを速くします。 ただし、以下の場合はモーション検知は作動しません。 • フラッシュが強制発光のとき • 以下のシーンモードのとき - ［**スポーツ**］ - ［**夜景ポートレート**］ - ［**トワイライト**］ - ［**夜景**］ - ［**ミュージアム**］ - ［**打ち上げ花火**］ - ［**逆光**］ - ［**ペット**］ • 撮影モードがP、S、A、M、U1、U2、U3、（ローノイズナイト）、EFFECTS（スペシャルエフェクト）のとき
OFF OFF **（初期設定）**	モーション検知をしません。

［AUTO］のときは、撮影時の画面にアイコンが表示されます（📖8）。
カメラがブレを検知してシャッタースピードを速くしたときは、モーション検知表示は緑色に変わります。

詳細編

モーション検知についてのご注意

- モーション検知を設定しても、撮影状況によっては手ブレや被写体ブレを完全に軽減できないことがあります。
- 極端にブレているときや暗すぎるときは、モーション検知が作動しないことがあります。
- 撮影した画像が多少ざらつくことがあります。
- 他の機能と組み合わせて使えない場合があります。→「同時に設定できない機能」（📖80）

AF補助光

MENUボタンを押す ➔ ¥タブ（□13）➔ AF補助光

暗い場所などでオートフォーカスによるピント合わせを補助するAF補助光の点灯/非点灯を設定します。

項目	内容
AUTO （初期設定）	暗い場所などで自動的にAF補助光が点灯します。AF補助光が届く距離は、広角側で約8.0 m、望遠側で約7.0 mです。 ・［**AUTO**］に設定していても、AFエリアの位置や、［**ミュージアム**］（□43）、［**ペット**］（□45）などのシーンモードによっては点灯しない場合があります。
OFF	AF補助光は点灯しません。暗い場所などでピントが合いにくくなることがあります。

AF補助光についてのご注意

撮影モードU1、U2またはU3の場合、セットアップメニューの［**AF補助光**］では、設定ができません。U1、U2またはU3のタブを選び、U1/U2/U3専用メニューの［**AF補助光**］で設定してください（□13、58）。

赤目軽減プリ発光

MENUボタンを押す ➔ ¥タブ（□13）➔ 赤目軽減プリ発光

フラッシュモード（□61）が⚡◎（赤目軽減自動発光）のときの赤目軽減方式を選びます。

項目	内容
ON （初期設定）	フラッシュが本発光する前に、小光量で数回発光する「プリ発光」で赤目現象の発生を軽減してから、画像補正による赤目軽減処理をします。シャッターボタンを押してから、シャッターがきれるまでに、通常よりも時間がかかります。
OFF	プリ発光しません。シャッターボタンの全押しですぐにシャッターをきり、画像補正による赤目軽減処理をします。

電子ズーム

MENUボタンを押す ➔ ￥タブ（□13）➔ 電子ズーム

電子ズームの動作を設定します。

項目	内容
ON **（初期設定）**	光学ズームが最も望遠側にある状態でズームレバーを**T**（Q）方向に回すと、電子ズーム（□31）が作動します。
クロップ	静止画撮影時にズーム倍率をズーム表示の凸マークの位置までに制限します。撮影する静止画の画質が電子ズームで劣化しない範囲にズーム倍率を制限します（□31）。 ・画像サイズが 10M［**3648 × 2736**］、8M［**3264 × 2448**］、3:2［**3648 × 2432**］、16:9 7M［**3584 × 2016**］、1:1［**2736 × 2736**］のときは、電子ズームが使えません。 ・動画撮影時は［**ON**］と同じ動作になります。
OFF	電子ズームは作動しません。

詳細編

電子ズームについてのご注意

- 電子ズームの作動中はAFエリア（➡48）が［**中央 (スポット)**］に固定されます。
- シーンモードが［**おまかせシーン**］、［**ポートレート**］、［**夜景ポートレート**］、［**逆光**］の［**HDR**］が［**ON**］または［**ペット**］のときは、電子ズームは使えません。
- 他の機能と組み合わせて使えない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□80）
- 電子ズームが1.2～1.8倍のときには、［**測光方式**］は［**中央部重点**］に、2.0～4.0倍のときには［**スポット**］になります。
- ［**露光間ズーム**］（□47）は電子ズームになりません。

ズーム速度設定

MENUボタンを押す ➔ 🔧タブ（📖13）➔ ズーム速度設定

ズームの動作速度を設定します。ズーム速度を遅くすると、動画撮影時にズームの動作音が録音されにくくなります。

項目	内容
オート（初期設定）	静止画撮影時は、［**標準**］の速度でズームが動作します。 動画撮影時は、［**標準**］よりも遅い速度でズームが動作し、ズームの動作音が録音されにくくなります。静止画撮影時は、ズームレバーをいっぱいまで回すとズーム動作が速くなり、途中まで回すとズーム動作がゆっくりになります。
標準	静止画撮影時も動画撮影時も、標準の速度でズームが動作します。静止画撮影時も動画撮影時も、ズームレバーをいっぱいまで回すとズーム動作が速くなり、途中まで回すとズーム動作がゆっくりになります。
静音	静止画撮影時も動画撮影時も、［**標準**］よりも遅い速度でズームが動作します。

［**オート**］以外のときは、撮影時の画面にアイコンが表示されます（📖8）。

ズーム時F値保持

MENUボタンを押す ➔ 🔧タブ（📖13）➔ ズーム時F値保持

項目	内容
ON	撮影モードがA、M のとき、絞り値の変化を最小限に抑えながらズーム操作を行います。 ・ ズーム操作によって絞り値の制御範囲を超えてしまうときは、絞り値は保持しません。
OFF（初期設定）	絞り値を保持しません。

詳細編

操作音

MENUボタンを押す ➔ タブ（13）➔ 操作音

操作音について設定します。

項目	内容
設定音	以下の音の［**ON**］（初期設定）/［**OFF**］をまとめて設定します。 ・ 設定音（電子音 1 回：設定完了時など） ・ 合焦音（電子音 2 回：ピントが合ったとき） ・ 警告音（電子音 3 回：禁止動作を行ったときなど） ・ オープニング音
シャッター音	シャッターをきったときのシャッター音の［**ON**］（初期設定）/［**OFF**］を設定します。

操作音についてのご注意

- シーンモードの［**ペット**］では、［**ON**］に設定しても、設定音およびシャッター音は鳴りません。
- シーンモード［**逆光**］の［**HDR**］が［**ON**］のとき、または動画撮影のときは、［**ON**］に設定しても、シャッター音は鳴りません。
- 他の機能と組み合わせて使えない場合があります。→「同時に設定できない機能」（80）

縦位置情報の記録

MENUボタンを押す ➔ タブ（13）➔ 縦位置情報の記録

項目	内容
AUTO **（初期設定）**	撮影した画像に縦位置または横位置の情報を記録します。［**縦位置自動回転**］（82）の設定が［**する**］のときは、画像を再生すると、自動的に画像を回転して表示します。
OFF	縦横位置情報は記録されず、常に横位置で表示されます。

- 撮影後の画像は再生メニューの［**画像回転**］で縦横位置情報を変更できます（66）。

縦横位置情報の記録についてのご注意

- ［**連写**］や［**ブラケティング**］のときは、最初の1 コマと同じ縦横位置情報がすべてのコマに記録されます。
- カメラを上や下に向けて撮影すると、縦横位置情報が正しく得られない場合があります。

縦位置自動回転

MENUボタンを押す ➔ 🔧タブ（□13）➔ 縦位置自動回転

［**する**］（初期設定）にすると、画像を再生するときに、縦位置の画像や顔認識撮影して撮影した画像の上下方向の情報からカメラの上下方向に合わせて、画像を回転して表示します。

オートパワーオフ

MENUボタンを押す ➔ 🔧タブ（□13）➔ オートパワーオフ

電源をONにしたまま、カメラを操作しない状態が続くと、節電のために液晶モニターが消灯して待機状態になります（□25）。
このメニューでは、待機状態になるまでの時間を設定します。
［**30 秒**］、［**1 分**］（初期設定）、［**5 分**］、［**30 分**］から選べます。

詳細編

オートパワーオフの設定について

- 以下の場合、待機状態に入るまでの時間は固定です。
  - メニュー表示中：3分。
  - トーンレベルインフォメーション表示中（撮影時）：3分
  - スライドショー再生中：最大30分
  - ACアダプター EH-5b接続中：30分
- Eye-Fiカードを使用した画像の転送中は、待機状態になりません。

メモリー /カードの初期化（フォーマット）

MENUボタンを押す ➔ タブ（13）➔ メモリーの初期化/カードの初期化

内蔵メモリーまたはSDカードを初期化（フォーマット）します。
初期化すると、内蔵メモリーまたはSDカード内のデータはすべて削除されます。削除したデータは元に戻せません。必要なデータは初期化する前にパソコンなどに転送してください。

内蔵メモリーの初期化

内蔵メモリーを初期化するときは、SDカードを取り出してください。セットアップメニューの項目に［**メモリーの初期化**］が表示されます。

SDカードの初期化

SDカードをカメラに入れると、SDカードを初期化できます。セットアップメニューの項目に［**カードの初期化**］が表示されます。

初期化についてのご注意

- 初期化中は、電源をOFFにしたり、バッテリー/SDカードカバーを開けたりしないでください。
- 他の機器で使ったSDカードをこのカメラではじめて使うときは、必ずこのカメラで初期化してからお使いください。

言語/Language

MENUボタンを押す ➔ タブ（13）➔ 言語/Language

画面に表示する言語を、日本語（初期設定）または英語に設定します。

詳細編

TV出力設定

MENUボタンを押す ➔ ¥タブ（□13）➔ TV出力設定

テレビとの接続に必要な設定を行います。

項目	内容
ビデオ出力	アナログビデオ出力の方式を［**NTSC**］と［**PAL**］から選べます。お使いのテレビに合わせて設定してください。 日本ではNTSC方式が、欧州ではPAL方式が主流です。
HDMI	HDMI出力時の画像の解像度を［**オート**］（初期設定）、［**480p**］、［**720p**］または［**1080i**］から選べます。［**オート**］にすると、接続するテレビに対応した解像度を［**480p**］、［**720p**］または［**1080i**］から自動で選んで出力します。
HDMI **機器制御**	HDMI-CEC規格対応テレビにHDMIケーブルで接続したときに、テレビからの信号を受信するかどうかを設定します。［**ON**］（初期設定）にすると、テレビのリモコンを使って再生中の操作ができます。 →「テレビのリモコンを使う（HDMI 機器制御）」（⚮21）

HDMI、HDMI-CECとは

「HDMI」とは、High-Definition Multimedia Interfaceの略で、マルチメディアインターフェースのひとつです。
「HDMI-CEC」とは、HDMI-Consumer Electronics Controlの略で、対応機器間での連携動作を可能にします。

外付けマイク感度

MENUボタンを押す ➔ ¥タブ（□13）➔ 外付けマイク感度

動画撮影時の外付けマイクのマイク感度が低い場合は、［**高**］に設定します。

- 初期設定は［**オート**］です。

内蔵ND フィルター設定

MENUボタンを押す ➔ 🔧タブ（📖13）➔ 内蔵ND フィルター設定

カメラ内蔵のNDフィルターを使うと、撮影時にカメラに入る光量を3段分、減光できます。被写体が明るすぎて露出オーバーになるときなどに使います。
以下の撮影モードのときに、内蔵NDフィルターを使って減光するかどうかを設定します。

- （ローノイズナイト）モード
- P、S、A、Mモード（U1、U2、U3モード時を含む）

上記以外の撮影モードの場合、内蔵NDフィルターのON/OFFは、［**内蔵NDフィルター設定**］の設定にかかわらず、撮影モードや撮影状況によって自動制御されます。

項目	内容
ON	NDフィルターを使って減光します。
AUTO	（ローノイズナイト）およびP（プログラムオート）モードのときに、被写体が明るすぎて露出連動範囲を超える場合、自動的にNDフィルターを使って減光します。 ・撮影モード S、A、M のときは、設定していても［**OFF**］になります。
OFF **（初期設定）**	NDフィルターを使いません。

［**OFF**］以外のときは、撮影時の画面にアイコンが表示されます（📖8）。
（オート撮影）、シーン、動画モードのときは、アイコンは表示されません。

詳細編

内蔵NDフィルターの効果

明るすぎる被写体を露出オーバーにならずに撮影できることがあります。小さい絞り値でシャッタースピードをより遅くしたいときなどにも使えます。
例えば、シャッタースピードが1/2000秒で適正露出のときにNDフィルターで3段減光すると、絞り値を変えず1/250秒に変えることができます。

コマンドダイヤルの設定

MENUボタンを押す ➔ ᛘタブ（□13）➔ コマンドダイヤルの設定

項目	内容
入れ換えない（初期設定）	メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルの操作できる機能を入れ換えません。
メインとサブを入れ換える	撮影時にメインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルで操作できる機能を入れ換えます。 • 再生時やメニュー画面での操作は、入れ換わりません。

マルチセレクター右押し

MENUボタンを押す ➔ ᛘタブ（□13）➔ マルチセレクター右押し

マルチセレクターの▶を押したときに、AFエリア選択（⚭48）の設定を表示したくない場合は［**OFF**］に設定します。

• 初期設定は［**AFエリア選択**］です。

削除ボタン設定

MENUボタンを押す ➔ ᛘタブ（□13）➔ 削除ボタン設定

項目	内容
2度押しで削除	削除の確認メッセージの表示中（□36）に、もう一度🗑ボタンを押すと削除できます。
2度押しを禁止（初期設定）	削除の確認メッセージの表示中に、もう一度🗑ボタンを押しても削除できません。

AE-L/AF-L ボタン設定

MENUボタンを押す ➔ Yタブ（□13）➔ AE-L/AF-L ボタン設定

撮影時にAE-L/AF-Lボタン（□5）を押したときの動作を設定します。

項目	内容
AE-L/AF-L **（初期設定）**	AE-L/AF-Lボタンを押すと、ピントと露出の両方を固定します。
AE-L	AE-L/AF-Lボタンを押すと、露出のみを固定します。
AF-L	AE-L/AF-Lボタンを押すと、ピントのみを固定します。

AE-L/AF-Lボタンの設定は、撮影時の画面で確認できます（□8）。

- 静止画の撮影中は、AE/AF-Lボタンを押している間だけ固定します。
- 動画の撮影中は、AE/AF-Lボタンを押すと固定し、もう一度押すと解除します。

AE-L/AF-L**ボタン設定についてのご注意**

- シーンモードが［**おまかせシーン**］のときは、AE-L/AF-Lボタンは使えません。
- 撮影モードMのときは、AE-L（露出の固定）は使えません。
- フォーカスモード（□67）がMF（マニュアルフォーカス）のときは、AF-L（ピントの固定）は使えません。

関連ページ

フォーカスロック撮影 → □33

Fn1＋シャッターボタン

MENUボタンを押す ➔ 🔧タブ（📖13）➔ Fn1＋シャッターボタン

撮影時にFn1（ファンクション1）ボタン（📖2）を押しながらシャッターボタンを押したときの機能を設定します。

・ 撮影モードがP、S、A、M、U1、U2、U3のときに使えます。

項目	内容
OFF（**初期設定**）	設定を変更しないで撮影します。
NRW (RAW)/NORMAL （**画質**）（📖75）	［**FINE**］、［**NORMAL**］、［**BASIC**］に設定されているときは、［**NRW (RAW)**］の設定で撮影します。［**NRW (RAW)**］に設定されているときは、［**NORMAL**］の設定で撮影します。 ・ 画像サイズは、［**3648 × 2736**］になります。 ・［**NRW (RAW) + FINE**］、［**NRW (RAW) + NORMAL**］、［**NRW (RAW) + BASIC**］のときは、設定を変更しないで撮影します。
ISO**感度設定**（⚬⚬30）	［**ISO感度設定**］を［**オート**］の設定で撮影します。
ホワイトバランス （⚬⚬32）	ホワイトバランスを［**AUTO**（**標準**）］の設定で撮影します。 ・［**Picture Control**］が［**モノクローム**］のときは、使えません。
Picture Control （⚬⚬38）	Picture Controlを［**スタンダード**］の設定で撮影します。

Fn1＋コマンドダイヤル

MENUボタンを押す ➔ ￥タブ（□13）➔ Fn1＋コマンドダイヤル

撮影時にFn1（ファンクション1）ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能を設定します。

- メインコマンドダイヤルまたはサブコマンドダイヤルのどちらでも、操作できます。

項目	内容
OFF（初期設定）	機能しません。操作は無効になります。
マニュアルフォーカス（⊶2）	フォーカスモードをマニュアルフォーカスに設定しているときに、ピント合わせができます。
測光方式（⊶44）	測光方式の設定を切り換えます。
連写（⊶45）	連写の設定を切り換えます。
調光補正（⊶52）	調光補正の設定を切り換えます。
Active D-ライティング（⊶56）	Active D-ライティングの設定を切り換えます。
マニュアル発光量（□62）	フラッシュモードをマニュアル発光に設定しているときに、内蔵フラッシュの発光量を切り換えます。

Fn1ボタン＋コマンドダイヤルについてのご注意

AEまたはAFがロックされている間（動画モード撮影中を除く）は、操作できません。

Fn1ガイド表示

MENUボタンを押す ➔ ￥タブ（□13）➔ Fn1ガイド表示

項目	内容
ON（初期設定）	Fn1（ファンクション1）ボタンを押したときにFn1ボタン動作表示（□8）と、[**Fn1＋シャッターボタン**]（⊶88）、[**Fn1＋コマンドダイヤル**]（⊶89）に設定されている機能を表示します。
OFF	Fn1ボタンを押しても、ガイドを表示しません。

Fn2ボタン設定

MENUボタンを押す ➔ ¥タブ（□13）➔ Fn2ボタン設定

撮影時にFn2ボタン（□2）を押したときの動作を設定します。

項目	内容
OFF（初期設定）	機能しません。操作は無効になります。
水準器表示、ヒストグラム表示、格子線表示	撮影時の液晶モニターに表示する水準器、ヒストグラムまたは格子線（E74）の表示/非表示を切り換えます。
内蔵NDフィルター設定	内蔵ND フィルター（E85）の設定を切り換えます。

マイメニュー登録

MENUボタンを押す ➔ ¥タブ（□13）➔ マイメニュー登録

よく使うメニュー項目をマイメニューに登録できます（最大5項目）。登録したマイメニューは、クイックメニューダイヤルをMyに合わせてクイックメニューボタンを押すと呼び出せ、すぐに設定内容の確認と変更ができます（撮影モードがP、S、A、M、U1、U2、U3のときのみ）。
登録できる項目は以下のとおりです。

Custom Picture Control（E43）	ノイズ低減フィルター（E53）	手ブレ補正（E76）
測光方式（E44）	長秒時ノイズ低減（E53）	電子ズーム（E79）
連写（E45）	ゆがみ補正（E54）	メモリーの初期化/カードの初期化（E83）
AFエリア選択（E48）	ワイドコンバーター（E54）	内蔵NDフィルター設定（E85）
AFモード（E52）	発光切り換え（E55）	Eye-Fi送信機能（E93）
調光補正（E52）	Active D-ライティング（E56）	ー（なし）（解除）※

※ マイメニューから登録をはずすときに選びます。

詳細編

マイメニューの登録方法

1 マルチセレクターで変更したいメニュー項目を選び、Ⓚボタンを押す

- メニュー項目選択画面が表示されます。

2 登録するメニュー項目を選び、Ⓚボタンを押す

- 選んだメニュー項目に入れ換わります。
- 設定を終了するには、マルチセレクターの◀を押します。

連番リセット

MENUボタンを押す ➔ タブ（13）➔ 連番リセット

［**はい**］を選ぶと、ファイル番号の連番（99）をリセットします。リセットすると新しい記録フォルダーが作られ、次に撮影する画像の連番は、「0001」から始まります。

連番リセットのご注意

- シーンモードが［**パノラマアシスト**］のとき、または撮影モードがP、S、A、M、U1、U2、U3で、［**連写**］の設定が［**インターバル撮影**］のときは［**連番リセット**］ができません。［**パノラマアシスト**］または［**インターバル撮影**］では、撮影のたびに新しいフォルダーが作られ、ファイル番号「0001」から始まる一連の画像が保存されます（99、100）。
- フォルダー番号が999に達し、そのフォルダー内にファイルがあるときは、［**連番リセット**］ができません。SDカードを交換するか、内蔵メモリー /SDカードを初期化（83）する必要があります。

詳細編

目つぶり検出設定

MENUボタンを押す ➔ Ɏタブ（□13）➔ 目つぶり検出設定

以下の撮影モードで顔認識撮影（□85）したときに、目つぶりを検出するかどうかを設定します。

- 以下のシーンモードのとき
  -［**おまかせシーン**］（□40）
  -［**ポートレート**］（□40）
  -［**夜景ポートレート**］（□41）
- 撮影モードP、S、A、M、U1、U2、U3、⛾（ローノイズナイト）、EFFECTS（スペシャルエフェクト）（［**AFエリア選択**］が［**顔認識オート**］（➡48）のとき）

項目	内容
ON	顔認識して撮影した直後に、被写体の人物が目を閉じて写っている可能性があるとカメラが検出したときは、液晶モニターに［**目つぶり確認**］画面を表示します。目を閉じて写っている可能性のある人物の顔が黄色い枠で囲まれます。撮影した画像を見て、撮り直すかどうかを確認できます。
OFF（初期設定）	目つぶり検出をしません。

目つぶり確認画面の操作方法

何も操作しないまま数秒経過すると、自動的に撮影画面に戻ります。

- 目つぶり検出した顔を拡大表示するには、ズームレバーを**T**（Q）方向に回します。1コマ表示に戻るには、**W**（⊞）方向に回します。
- 複数の人物の目つぶりを検出した場合、拡大表示中に▲▼◀▶を押すと、拡大表示する顔が切り換わります。メインコマンドダイヤルを回しても切り換わります。
- 🗑ボタンを押すと、画像を削除します。
- 撮影画面に戻るには、Ⓚボタンを押します。

✔ 目つぶり検出設定についてのご注意

他の機能と組み合わせて使えない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□80）

Eye-Fi送信機能

MENUボタンを押す ➔ タブ（13）➔ Eye-Fi送信機能

項目	内容
有効	カメラで作成した画像を、あらかじめ設定した保存先へ送信します。
無効（初期設定）	画像を送信しません。

Eye-Fiカードを使用するときのご注意

- 電波の状態が悪い場合、［**有効**］に設定していても送信できないことがあります。
- 動画撮影中は、Eye-Fiカードの通信機能がOFFになります。
- 電波の出力が禁止されている場所では、設定を［**無効**］にしてください。
- Eye-Fiカードの使用方法はEye-Fiカードの使用説明書をご覧ください。Eye-Fiカードに関する不具合や質問は、カードメーカーにお問い合わせください。
- このカメラにはEye-Fiカードの通信機能をON/OFFする機能がありますが、Eye-Fiカードの全ての機能を保証するものではありません。
- Eye-Fi送信機能がOFFにできないEye-Fiカードを挿入した場合は、設定できません。
- エンドレスメモリー機能には対応していません。パソコンで設定をしている場合は、OFFにしてください。エンドレスメモリー機能を設定していると、撮影した画像枚数表示が正常に表示されなくなることがあります。
- Eye-Fiカードの送信機能の使用は、ご購入された国でのみ使用が認められています。使用する国の法律に従ってお使いください。
- ［**有効**］にしていると、バッテリーの消耗は通常より早くなります。

Eye-Fiカード使用時の表示について

カメラ内のEye-Fiカードの通信状態は、画面で確認できます（8）。

- ：［**Eye-Fi送信機能**］が［**無効**］に設定されています。
- （点灯）：画像の送信を待っています。
- （点滅）：画像の送信中です。
- ：未送信の画像がありません。
- ：エラーが発生しました。Eye-Fiカードをコントロールできません。

使用できるEye-Fiカードについて

このカメラでは、次のEye-Fiカードをお使いいただけます（2011年8月現在）。Eye-Fiカードのファームウェアを最新版にバージョンアップしてお使いください。

- Eye-Fi Connect X2 SDHC 4GB
- Eye-Fi Mobile X2 SDHC 8GB
- Eye-Fi Pro X2 SDHC 8GB

MFゲージ単位設定

MENUボタンを押す ➔ Ŷタブ（□13）➔ MFゲージ単位設定

フォーカスモードをマニュアルフォーカス（➡2）にしたときに表示されるゲージの単位を［**m**］（メートル）（初期設定）と［**ft**］（フィート）から選べます。

インジケーターの＋/－方向

MENUボタンを押す ➔ Ŷタブ（□13）➔ インジケーターの＋/－方向

撮影モードがMのときに表示される露出インジケーター（□53）やブラケティング（➡36）の設定で表示されるインジケーターの＋/－表示の方向を入れ換えできます。
初期設定では、インジケーターの＋側を左に、－側を右に表示します。

設定クリアー

MENUボタンを押す ➔ Ŷタブ（□13）➔ 設定クリアー

［**はい**］を選ぶと、カメラの設定が初期設定にリセットされます。

撮影の基本機能

項目	初期設定
フラッシュモード（□61）	自動発光
セルフタイマー（□64）/笑顔自動シャッター（□65）/リモコン（➡105）	OFF
フォーカスモード（□67）	通常AF

シーンモード

項目	初期設定
シーンメニュー（□39）	おまかせシーン
料理モードの色合い（□43）	中央
逆光のHDR（□44）	OFF
ペット（□45）	ペット自動シャッター：ON 連写：連写

スペシャルエフェクトメニュー

項目	初期設定
スペシャルエフェクト（□48）	クリエイティブモノクロ

ローノイズナイトモードメニュー

項目	初期設定
連写（□50）	単写
調光補正（□50）	0.0
測光方式（□50）	マルチパターン

動画メニュー

項目	初期設定
AFモード（⚯69）	シングルAF
風切り音低減（⚯69）	OFF

クイックメニュー

項目	初期設定
画質（□75）	NORMAL
画像サイズ（□77）	10M 3648×2736
動画設定（⚯42）	HD 720p (1280×720)
ISO感度設定（⚯31）	オート
低速限界設定（⚯31）	OFF
ホワイトバランス（⚯32）	オート（標準）
ブラケティング（⚯36）	OFF
Picture Control（⚯38）	スタンダード

詳細編

撮影メニュー

項目	初期設定
測光方式（E44）	マルチパターン
連写（E45）	単写
インターバル撮影（E46）	30 秒
AFエリア選択（E48）	オート
AFモード（E52）	シングルAF
調光補正（E52）	0.0
ノイズ低減フィルター（E53）	標準
長秒時ノイズ低減（E53）	AUTO
ゆがみ補正（E54）	OFF
ワイドコンバーター（E54）	OFF
発光切り換え（E55）	オート
Active D-ライティング（E56）	OFF
ズームメモリー（E57）	全項目を選択

セットアップメニュー

項目	初期設定
オープニング画面（E70）	なし
撮影後の画像表示（E74）	ON
画面の明るさ（E74）	3
モニター表示設定（E74）	全項目を非表示
水準器の種類（E74）	円形表示
デート写し込み（E75）	OFF
セルフタイマー解除設定（E76）	撮影後に自動解除する
手ブレ補正（E76）	ON
モーション検知（E77）	OFF
AF補助光（E78）	AUTO
赤目軽減プリ発光（E78）	ON
電子ズーム（E79）	ON
ズーム速度設定（E80）	オート
ズーム時F値保持（E80）	OFF
設定音（E81）	ON
シャッター音（E81）	ON
縦位置情報の記録（E81）	AUTO

項目	初期設定
縦位置自動回転（E82）	する
オートパワーオフ（E82）	1 分
HDMI（E84）	オート
HDMI **機器制御（E84）**	ON
外付けマイク感度（E84）	オート
内蔵NDフィルター設定（E85）	OFF
コマンドダイヤルの設定（E86）	入れ換えない
マルチセレクター右押し（E86）	AFエリア選択
削除ボタン設定（E86）	2度押しを禁止
AE-L/AF-L**ボタン設定（E87）**	AE-L/AF-L
Fn1＋**シャッターボタン（E88）**	OFF
Fn1＋**コマンドダイヤル（E89）**	OFF
Fn1**ガイド表示（E89）**	ON
Fn2**ボタン設定（E90）**	OFF
マイメニュー登録（E90）	1：Custom Picture Control 2：測光方式 3：連写 4：AFエリア選択 5：AFモード
目つぶり検出設定（E92）	OFF
Eye-Fi**送信機能（E93）**	無効
MF**ゲージ単位設定（E94）**	m
インジケーターの+/-方向（E94）	＋0－

その他

項目	初期設定
用紙設定（E24、25）	プリンターの設定
スライドショーのインターバル設定（E63）	3 秒

- ［**設定クリアー**］を行うと、ファイル番号の連番（E99）もクリアーされます。クリアー後に撮影した画像には、内蔵メモリー /SDカード内の最大ファイル番号の次の番号から連番が付けられます。内蔵メモリー/SDカード内の画像をすべて削除（E64）してから、［**設定クリアー**］をすると、次に撮影する画像の連番は「0001」から始まります。
- 以下の項目は、［**設定クリアー**］を行っても初期設定には戻りません。
  クイックメニュー：［**ホワイトバランス**］のプリセットマニュアルデータ（E35）
  撮影メニュー：［**Custom Picture Control**］の登録（E43）
  セットアップメニュー：［**地域と日時**］（E71）、［**言語/Language**］（E83）、［**TV出力設定**］の［**ビデオ出力**］（E84）
- モードダイヤルU1、U2、U3に登録したユーザーセッティングの内容は、［**設定クリアー**］では初期設定に戻りません。［**User Setting リセット**］（58）で初期設定に戻してください。

バージョン情報

MENUボタンを押す（13）➔ タブ➔ バージョン情報

カメラのファームウェアのバージョン情報を表示します。

記録データのファイル名とフォルダー名

このカメラで撮影した静止画、動画、および音声メモには、以下のようにファイル名が付けられます。

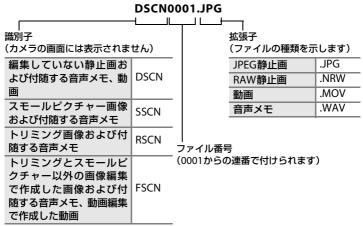
DSCN0001.JPG

識別子
（カメラの画面には表示されません）

編集していない静止画および付随する音声メモ、動画	DSCN
スモールピクチャー画像および付随する音声メモ	SSCN
トリミング画像および付随する音声メモ	RSCN
トリミングとスモールピクチャー以外の画像編集で作成した画像および付随する音声メモ、動画編集で作成した動画	FSCN

ファイル番号
（0001からの連番で付けられます）

拡張子
（ファイルの種類を示します）

JPEG静止画	.JPG
RAW静止画	.NRW
動画	.MOV
音声メモ	.WAV

- ファイルを保存するフォルダーは、「フォルダー番号 + NIKON」（例：100NIKON）という名前で、自動的に作られます。フォルダー内のファイル数が200に達すると、新しいフォルダーが作られます（例：100NIKON→101NIKON）。フォルダー内のファイル番号が9999に達したときや［**連番リセット**］（🔗91）したときも新しいフォルダーが作られ、ファイル番号は0001に戻ります。
  フォルダー内にファイルがないときは、［**連番リセット**］をしても新しいフォルダーは作られません。
- ［**画質**］（📖75）の設定を［**NRW (RAW) + FINE**］、［**NRW (RAW) + NORMAL**］または［**NRW (RAW) + BASIC**］にして撮影した場合、同時に記録されるRAW画像とJPG画像は同じファイル名になります。また、同時に記録されるRAW画像とJPEG画像は必ず同じフォルダーに保存されます。このため、フォルダー内のファイル数が199に達していたときは、新しいフォルダーが作られ保存されます。
- 音声メモのファイル名は、音声メモを録音した画像と同じ識別子とファイル番号になります。

記録データのファイル名とフォルダー名

- パノラマアシストモード（📖45）では、撮影のたびに「フォルダー番号＋P_XXX」という名前のフォルダー（例：101P_001）が作られ、ファイル番号0001から始まる一連の画像が保存されます。
- インターバル撮影（E46）では撮影のたびに「フォルダー番号 ＋ INTVL」という名前のフォルダー（例：101INTVL）が作られ、ファイル番号0001から始まる一連の画像が保存されます。
- 内蔵メモリーとSDカードの間で記録データをコピーする場合（E68）、ファイル名は以下のようになります。
  - 「選択画像コピー」：
    使用中のフォルダー（または次回の撮影で使われるフォルダー）に、データがコピーされます。コピーされたデータのファイル名は、「内蔵メモリーおよびSDカード内の最大ファイル番号＋1」から連番で付けられます。
  - 「全画像コピー」：
    データはフォルダーごとにコピーされます。フォルダー名は「コピー先の最大フォルダー番号＋1」から連番で付けられます。
    ファイル名は変わりません。
- フォルダー番号が 999 のときにファイル数が 200 個またはファイル番号が9999に達すると、それ以上撮影できません。SDカードを交換するか、内蔵メモリー/SDカードを初期化（E83）してください。

詳細編

スピードライト（外付けフラッシュ）

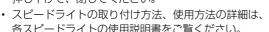
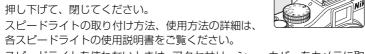
このカメラは、以下のスピードライトおよびワイヤレススピードコマンダーを取り付けられるアクセサリーシューを備えています。内蔵フラッシュでは充分に照明できないときなどに、スピードライトを使うと効果的です。

- スピードライト SB-400、SB-600、SB-700、SB-800、SB-900
- ワイヤレススピードコマンダー SU-800

スピードライト使用時には、内蔵フラッシュは自動的に⊛（発光禁止）になります。液晶モニターに⚡マーク（スピードライト表示）が点灯している間は、スピードライトのフラッシュモードを表示し、内蔵フラッシュと同じ操作で設定できます（□61）。

スピードライトの取り付け方

- スピードライトを取り付けるときは、カメラのアクセサリーシューカバーを外してください（右図）。
- 内蔵フラッシュがポップアップしていたら、手で軽く押し下げて、閉じてください。

- スピードライトの取り付け方法、使用方法の詳細は、各スピードライトの使用説明書をご覧ください。

- スピードライトを使わないときは、アクセサリーシューカバーをカメラに取り付けてください。

✔ 外付けフラッシュについてのご注意

このカメラに対応していない外付けフラッシュなどを取り付けようとすると、カメラや外付けフラッシュを破損することがありますので、ご注意ください。

他社製の外付けフラッシュ（スピードライト/ストロボ）についてのご注意

他社製の外付けフラッシュ（カメラのアクセサリーシューにマイナス電圧や250 V以上の電圧がかかるものや小さな接点が触れてしまうもの）を使わないでください。カメラの正常な機能を発揮できないだけではなく、カメラおよび外付けフラッシュのシンクロ回路を破損することがあります。

スピードライトSB-400、SB-600、SB-700、SB-800、SB-900について

- このカメラに SB-600、SB-700、SB-800 または SB-900 を取り付けて撮影するときは、撮影前にスピードライト側の発光モードをTTL にセットしてください。発光の前に小光量でモニター発光するi-TTL調光（スタンダードi-TTL調光）ができます。i-TTL調光の詳しい説明は、スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- SB-700、SB-800、SB-900またはワイヤレススピードライトコマンダー SU-800を「コマンダー」に、SB-600、SB-700、SB-800、SB-900などを「リモートフラッシュ」に設定すれば、ワイヤレス増灯撮影ができます。ただし、コマンダーに設定したSB-900はモニター発光はしても、本発光はできません。
  ワイヤレス増灯のグループ設定は「A グループ」のみに対応しています。コマンダー、リモートフラッシュ共に「Aグループ」に設定してください。詳細はスピードライトの使用説明書をご覧ください。
- ワイヤレス増灯撮影時は、ISO感度の設定が［**オート**］、［**高感度オート**］、［**ISO 100-200**］、［**ISO 100-400**］の場合、ISO 100に固定されます。
- このカメラでは、SB-600、SB-700、SB-800およびSB-900の発光色温度情報伝達、オートFPハイスピードシンクロ、FVロック撮影、マルチエリアAF補助光の各機能は使えません。
- SB-600、SB-700、SB-800 および SB-900 のオートパワーズーム機能を使うと、レンズの焦点距離に合わせて照射角が自動的にセットされます。
- SB-600、SB-700、SB-800およびSB-900使用時に、2 mより近くにある被写体をズームの広角側で撮影すると、画像の周辺が暗くなることがあります。その場合は、ワイドパネルをお使いください。
- スピードライトの「スタンバイ」機能は、撮影時のカメラの電源ONと連動します。レディーライトの点灯はスピードライト側でご確認ください。

別売アクセサリー

充電式バッテリー	Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL14※1
充電器	バッテリーチャージャー MH-24※1、2
ACアダプター / パワーコネクター	ACアダプター EH-5b※3とパワーコネクター EP-5A パワーコネクターをカメラに入れて、ACアダプターをつなぐとカメラに電源を供給できます。 ACアダプターとパワーコネクターは、それぞれ別売です。 ＜EP-5Aの取り付け方＞ 1 2 3 バッテリー/SDカードカバーを閉める前に、パワーコネクターのコードをバッテリー室の溝に奥まで入れてください。コードが溝からはみ出していると、カバーを閉めたときにカバーやコードを破損するおそれがあります。 パワーコネクター EP-5AのDCプラグコネクターに、ACアダプター EH-5bのDCプラグを差し込みます。
USBケーブル	USBケーブル UC-E6※1
AVケーブル	オーディオビデオケーブル EG-CP16※1
コンバーターレンズ	ワイドコンバーター WC-E75A（0.75倍） （アダプターリング UR-E22が必要です）
アダプターリング	アダプターリング UR-E22
スピードライト（外付けフラッシュ）	ニコンスピードライト SB-400、SB-600、SB-700、SB-900 ワイヤレススピードライトコマンダー SU-800
外部マイク	ステレオマイクロホン ME-1

リモコン	リモコン ML-L3 <リモコン用電池（3V CR2025型リチウム電池）の交換方法> • リモコン用電池を交換するときは、電池の「+」と「−」の向きを確認してください。 • リモコン用リチウム電池の安全上のご注意 →📖x

※1 カメラご購入時に付属（→「箱の中身をご確認ください」（📖ii））。
※2 日本国外では、必要に応じて市販の変換プラグアダプターを装着してお使いください。変換プラグアダプターは、あらかじめ旅行代理店などでお確かめの上、お買い求めください。
※3 日本国内専用電源コード（AC 100 V 対応）付属。日本国外でお使いになるには、別売の電源コードが必要です。別売の電源コードについては、ニコンサービス機関にお問い合わせください。
また、オンラインショップ（ニコンダイレクト）http://shop.nikon-image.com/ でもお求めいただけます。

COOLPIX P7100に使用できる別売アクセサリーの最新情報は、最新のカタログや当社ホームページなどでご確認ください。

コンバーター、アダプターリング使用時のご注意

- ［**ワイドコンバーター**］(➡54)を必ず［**ON**］にしてください。
- コンバーターやアダプターリングの先端に、フィルターやレンズフードを取り付けないでください。フィルターやレンズフードを取り付けて撮影すると、画像の周辺が暗くなります。

リモコンでシャッターをきる

別売のリモコン ML-L3（E104）を使ってシャッターをきることができます。記念撮影など自分も一緒に写りたいときや、シャッターボタンを押す操作による手ブレを軽減したいときに便利です。
リモコン撮影時は、三脚の使用をおすすめします。三脚などで固定して撮影するときは、セットアップメニューの［**手ブレ補正**］（E76）を［**OFF**］にしてください。

---

1 ロータリーマルチセレクターの ◀（セルフタイマー）を押す

---

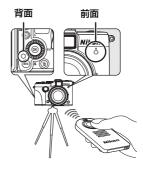
2 マルチセレクターでリモコンモードを選び、▶を押して設定を表示する

- リモコンの設定を選び、OKボタンを押します。
- ［ ］（瞬時リモコン）：リモコンの送信ボタンを押すと、すぐに撮影します。
- ［ **10s**］（10秒リモコン）：リモコンの送信ボタンを押すと、約10秒後に撮影します。
- ［ **2s**］（2秒リモコン）：リモコンの送信ボタンを押すと、約2秒後に撮影します。
- 設定したリモコンモードが表示されます。
- OKボタンを押さないまま数秒経過すると、選択が決定されて設定メニューが消えます。

---

3 構図を決める

4 リモコンの送信部をカメラ前面または背面のリモコン受光部（📖2、3）に向けて送信ボタンを押す

- 5 m以内の距離で、送信ボタンを押してください。
- 瞬時リモコンでは、ピントが合うとすぐにシャッターがきれます。
- 10秒または2秒リモコンでは、ピントが合うとセルフタイマーランプが点滅し、シャッターがきれる約1秒前になると、点灯に変わります。セルフタイマーを途中で止めるときは、もう一度送信ボタンを押します。
- 10 秒または 2 秒リモコンでは、シャッターがきれると、リモコンモードは［**OFF**］になります。

✔ リモコンについてのご注意

他の機能と組み合わせて使えない場合があります。→「同時に設定できない機能」（📖80）

警告メッセージ

画面に表示される警告メッセージの意味は、以下のとおりです。

表示	意味	対処法	📖
(点滅)	カメラの時計が設定されていません。	日付と時刻を設定してください。	71
電池残量がありません	バッテリーの残量がありません。	バッテリーを充電または交換してください。	18、20
電池が高温です	バッテリーの温度が高温になっています。	電源をOFFにして、バッテリーの温度が下がるまでしばらく放置してからご使用ください。このメッセージが出ると5秒後に液晶モニターが消灯し、電源ランプ、AF/アクセスランプおよびフラッシュランプが高速点滅を開始します。ランプの点滅が3分続くと電源は自動的にOFFになりますが、電源スイッチを押してもOFFにできます。	25
カメラが高温です。電源をOFFにします	カメラの内部が高温になっています。自動的にカメラの電源がOFFになります。	カメラ内部の温度が下がるまでしばらく放置してから電源を入れ直してください。	–
記録中 しばらくお待ちください	画像の記録中です。	記録が終了して警告表示が消えるまでお待ちください。	–
カードがロックされています	SDカードの書き込み禁止スイッチが「Lock」されています。	「Lock」を解除してください。	–
Eye-Fiカードは書き込み禁止の状態では使用できません。	Eye-Fiカードの書き込み禁止スイッチが「Lock」されています。	「Lock」を解除してください。	–
	Eye-Fi カードへのアクセス異常です。	• 動作確認済みのカードを使ってください。 • カードの端子部分が汚れていないか確認してください。 • カードが正しく挿入されているか確認してください。	23 22 22

詳細編

警告メッセージ

表示	意味	対処法	📖
ⓘ このカードは使えません ⓘ カードに異常があります	SDカードへのアクセス異常です。	・動作確認済みのカードを使ってください。 ・カードの端子部分が汚れていないか確認してください。 ・カードが正しく挿入されているか確認してください。	23 22 22
ⓘ このカードは初期化されていません。初期化しますか？ はい いいえ	SDカードが、このカメラ用に初期化されていません。	初期化するとカード内のデータはすべて削除されるため、カード内に必要なデータが残っているときは、［**いいえ**］を選び、初期化する前にパソコンなどに保存してください。［**はい**］を選んでⓀボタンを押すと、SDカードを初期化できます。	22
ⓘ メモリー残量がありません	データを記録する空き容量がありません。	・画質または画像サイズを変更してください。 ・不要な画像、動画を削除してください。 ・SDカードを交換してください。 ・SDカードをカメラから取り出し、内蔵メモリーを使ってください。	75、77 36、102、🔗64 22 23
ⓘ 画像を保存できません	画像記録中にエラーが発生しました。	内蔵メモリー/SDカードを初期化してください。	🔗83
	これ以上記録できないファイル番号に達しました。	SDカードを交換するか、内蔵メモリー/SDカードを初期化してください。	22、🔗83
	オープニング画面に登録できない画像です。	以下の画像は登録できません。 ・NRW (RAW) 画像 ・［**画像サイズ**］を 3:2［**3648 × 2432**］、16:9 7M［**3584 × 2016**］または 1:1［**2736 × 2736**］にして撮影した画像 ・スモールピクチャーやトリミングで作成した画像サイズ 320 × 240 以下の画像	 75 77 🔗14、🔗19
	画像コピー先の容量不足です。	コピー先の不要な画像を削除してください。	🔗64
ⓘ 音声を登録できません	音声メモを付けられない画像ファイルです。	・動画には音声メモを付けられません。 ・このカメラで撮影した画像を選んでください。	－ 🔗67

詳細編

表示	意味	対処法	📖
ⓘ この画像は編集できません	編集できない画像を画像編集しようとしました。	• 編集可能な条件を確認してください。 • COOLPIX P7100以外で記録されたNRW (RAW) 画像は、RAW 現像できません。 • 動画は画像編集できません。	➡9 – –
ⓘ 動画記録できません	SD カードに動画を記録するのに時間がかかっています。	画像記録処理の速いSDカードに交換してください。	23
ⓘ 連番リセットできません	これ以上新しいフォルダーを作成できません。	SDカードを交換するか、内蔵メモリー /SD カードを初期化してください。	22、➡83
ⓘ 撮影画像がありません	撮影済みの画像がありません。	• 内蔵メモリーに記録した画像を再生するときは、SD カードをカメラから取り出してください。 • 内蔵メモリーからSD カードにコピーする場合は、MENU ボタンを押すと画像コピー画面が表示され、内蔵メモリー内の画像をSD カードにコピーできます。	22 ➡68
ⓘ このファイルは表示できません	COOLPIX P7100以外で作成されたファイルです。	このカメラでは再生できません。ファイルを作成または編集したパソコンなどで再生してください。	–
ⓘ 表示できる画像がありません	スライドショーで表示できる画像がありません。	–	➡63
	内蔵メモリー /SD カード内の画像がすべて非表示設定されています。	［**非表示設定**］で画像の非表示設定を解除してください。	➡66
ⓘ このファイルは削除できません	画像にプロテクトがかかっています。	プロテクトを解除してください。	➡66
ⓘ 自宅と訪問先が同じタイムゾーンです	自宅と訪問先を同じタイムゾーンに設定しました。	–	➡73
ⓘ モードダイヤルの位置がずれています	モードダイヤルが正しい位置にセットされていません。	モードダイヤルを回して、カメラの指標にいずれかのモードを合わせてください。	28

警告メッセージ

表示	意味	対処法	📖
🛈 現在の設定ではマイメニューに登録した項目を変更できません	登録されているすべてのメニュー項目が、現在の設定では変更できません。	• マイメニューに登録していない機能の設定を確認してください。 • マイメニューに登録する項目を変更してください。	🔗90 🔗90
🛈 フラッシュを上げてください	シーンモードが［**夜景ポートレート**］または［**逆光**］の［**HDR**］が［**OFF**］のときや［**連写**］が［**フラッシュ連写**］のときに、フラッシュが閉じています。	⚡（フラッシュポップアップ）ボタンを押してフラッシュをポップアップしてください。	41、44、61、🔗45
	おまかせシーンのときにフラッシュが閉じています。	⚡（フラッシュポップアップ）ボタンを押してフラッシュをポップアップしてください。フラッシュを使いたくないときは、フラッシュを閉じたままでも撮影できます。	40、61
ⓘ スピードライト設定エラー	ワイヤレス増灯撮影時にグループ設定が「Aグループ」に設定されていません。	マスターコマンダーおよびリモートフラッシュのグループ設定を「Aグループ」に設定してください。	🔗102
レンズエラー ❗	レンズの作動不良です。	電源を入れ直してください。エラー表示が続くときは、ニコンサービス機関までご連絡ください。	25
ⓘ 通信エラー	プリンターとの通信中にエラーが発生しました。	カメラの電源をOFFにして、USBケーブルの接続をやり直してください。	🔗23
システムエラー ❗	カメラの内部回路にエラーが発生しました。	電源をOFFにしてバッテリーを入れ直し、もう一度電源をONにしてください。エラー表示が続くときは、ニコンサービス機関までご連絡ください。	25
❗ ピントが合いません レンズを初期化中です	ピントが合いません。	自動復帰するまでお待ちください。	–

詳細編

表示	意味	対処法	📖
プリンターエラー：プリンターを確認してください	プリンターに異常があります。	プリンターを確認し、エラーの原因を取り除いた後、［**継続**］を選んでOKボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
プリンターエラー：用紙を確認してください	指定したサイズの用紙がセットされていません。	指定したサイズの用紙をセットした後、［**継続**］を選んでOKボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
プリンターエラー：紙詰まりです	用紙が詰まりました。	詰まった用紙を取り除いた後、［**継続**］を選んでOKボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
プリンターエラー：用紙がありません	用紙がセットされていません。	指定したサイズの用紙をセットした後、［**継続**］を選んでOKボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
プリンターエラー：インクを確認してください	インクに異常があります。	インクを確認した後、［**継続**］を選んでOKボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
プリンターエラー：インクがありません	インクがなくなりました。	インクを交換した後、［**継続**］を選んでOKボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
プリンターエラー：ファイルが異常です	プリントする画像ファイルに異常があります。	［**キャンセル**］を選んでOKボタンを押し、プリントを中止してください。	–

※プリンターの使用説明書もあわせてご覧ください。

付録、索引

取り扱い上のご注意

カメラについて

お使いになるときは、必ず「安全上のご注意」（📖vi、vii）をお守りください。

● 強いショックを与えないでください
カメラを落としたり、ぶつけたりすると、故障の原因になります。また、レンズに触れたり、無理な力を加えたりしないでください。

● 水に濡らさないでください
カメラ内部に水が入ると、部品がサビつくなど修理費用が高額になるだけでなく、修理不能になることがあります。

● 急激な温度変化を与えないでください
温度差が極端な場所（寒いところから急激に暖かいところや、その逆の場合）にカメラを持ち込むと、カメラ内外に結露が生じ、故障の原因となります。カメラをバッグやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてから使ってください。

● 強い電波や磁気を発生する場所で撮影しないでください
強い電波や磁気を発生するテレビ塔などの周囲および強い静電気の周囲では、記録データが消滅したり、カメラが正常に機能しないことがあります。

● 長時間、太陽に向けて撮影または放置しないでください
太陽などの高輝度被写体に向けて長時間直接撮影したり、放置したりしないでください。過度の光照射は、撮像素子などの褪色・焼き付きを起こすおそれがあります。また、その際に撮影した画像には、真っ白くにじみが生ずることがあります。

● バッテリーやACアダプター、メモリーカードを取り外すときは、必ず電源をOFFにしてください
電源がONの状態で取り外すと、故障の原因になります。特に撮影中やデータの削除中は、データの破損やカードの故障の原因になります。

● 液晶モニターについて
- 液晶モニターの特性上、一部に常時点灯あるいは非点灯の点が存在することがありますが、故障ではありません。あらかじめご了承ください。記録画像には影響はありません。
- 屋外では液晶モニターは、日差しの影響で見えにくいことがあります。
- 液晶モニターの表面を強くこすったり、強く押したりすると、破損や故障の原因になります。万一、液晶モニターが破損した場合は、ガラスの破片などでケガをするおそれがありますのでご注意ください。また、中の液晶が皮膚や目に付着したり、口に入ったりしないよう、ご注意ください。

● スミアについて
明るい被写体にレンズを向けると、液晶モニターに白色または色のついた光の帯が現れることがあります。撮像素子の特性上、強い光が入射すると発生する「スミア」という現象で故障ではありません。また、スミアの影響で液晶モニターに色ムラが現れることもあります。マルチ連写と動画以外の撮影では、記録される画像にスミアの影響はありません。マルチ連写と動画の撮影では、太陽や太陽の照り返し、電灯などを画面内に入れずに撮影するようおすすめします。

バッテリーについて

お使いになるときは、必ず「安全上のご注意」（📖viii）をお守りください。

● 使用上のご注意

- 使用後のバッテリーは、発熱していることがあるのでご注意ください。
- 周囲の温度が0℃～40℃ の範囲を超える場所で使うと、性能劣化や故障の原因になります。
- 万一、異常に熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常や不具合が起きたら、すぐに使用を中止して、ご購入店またはニコンサービス機関に修理を依頼してください。
- カメラやバッテリーチャージャーから取り外したときは、必ず付属の端子カバーを付けてください。

● 充電について

撮影の前に充電してください。付属のバッテリーは、ご購入時にはフル充電されておりません。

- バッテリー内部の温度が高い状態では、充電ができなかったり、不完全な充電になったりし、性能劣化の原因にもなります。
- カメラの使用直後など、バッテリー内部の温度が高くなっているときは、バッテリーの温度が下がるのを待ってから充電してください。
  バッテリーの温度が0℃以下、60℃以上のときは、充電をしません。
  バッテリーの温度が0℃～10℃、45℃～60℃のときは、充電できる容量が減ることがあります。
- 充電が完了したバッテリーを、続けて再充電すると、性能が劣化します。
- 充電直後にバッテリーの温度が上がることがありますが、性能その他に異常はありません。

● 予備バッテリーを用意する

撮影環境に応じて、予備バッテリーをご用意ください。地域によっては入手が困難な場合があります。

● 低温時には残量の充分なバッテリーを使い、予備のバッテリーも用意する

バッテリーは一般的な特性として、性能が低温時に低下します。低温時には、バッテリーおよびカメラを冷やさないようにしてください。

消耗したバッテリーを低温時に使うと、カメラが動かないこともあります。予備のバッテリーは保温し、交互にあたためながらお使いください。低温で一時的に使えなかったバッテリーも、常温に戻ると使える場合があります。

● バッテリーの接点について

バッテリーの接点が汚れると、接触不良でカメラが作動しなくなることがあります。接点の汚れは、乾いた布で拭き取ってください。

● 残量のなくなったバッテリーは充電する

残量のなくなったバッテリーをカメラに入れたまま、何度も電源スイッチのON/OFFを繰り返すと、バッテリーの寿命に影響をおよぼすおそれがあります。残量がなくなったバッテリーは、充電してからお使いください。

● 保管について

- バッテリーを使わないときは、必ずカメラやバッテリーチャージャーから取り出してください。取り付けたままにすると、電源を切っていても微小電流が流れ続けて過放電状態になり、使えなくなることがあります。
- バッテリーは、長期間使わないときでも必ず半年に1回は充電し、使い切った状態で保管してください。
- バッテリーは、付属の端子カバーを付けて、涼しい場所で保管してください。周囲の温度が15℃～25℃くらいの乾燥した場所をおすすめします。暑い場所や極端に寒い場所は避けてください。

● 寿命について

バッテリーを充分に充電しても、使用期間が極端に短くなってきたときは、寿命です。新しいバッテリーをお買い求めください。

● リサイクルについて

Li-ion 00

数字の有無と数値は電池によって異なります。

充電を繰り返して劣化し、使えなくなったバッテリーは、廃棄しないでリサイクルにご協力ください。接点部にテープなどを貼り付けて絶縁してから、ニコンサービス機関やリサイクル協力店へお持ちください。

バッテリーチャージャーについて

- お使いになるときは、必ず「安全上のご注意」（📖ix）をお守りください。
- 付属のバッテリーチャージャーは、ニコンLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL14以外には使えません。
- このバッテリーチャージャーは、家庭用電源のAC 100~240 V、50/60 Hz に対応しています。日本国外では、必要に応じて市販の変換プラグアダプターを装着してお使いください。変換プラグアダプターは、あらかじめ旅行代理店などでお確かめの上、お買い求めください。

メモリーカードについて

● 使用上のご注意

- メモリーカードは、SDカード以外は使えません。
  推奨メモリーカード➞ 🕮23
- お使いになるときは、必ずメモリーカードの説明書の注意事項をお守りください。
- ラベルやシールを貼らないでください。

● 初期化について

- SDカードをパソコンで初期化（フォーマット）しないでください。
- SD カードをこのカメラではじめて使うときは、このカメラで初期化するようおすすめします。特に、他の機器で使ったSDカードをこのカメラではじめて使うときは、必ずこのカメラで初期化してください。
- SDカードを初期化すると、カード内のデータはすべて削除されます。初期化する前に、必要なデータはパソコンなどに保存してください。
- SD カードを入れたあとにカメラに「このカードは初期化されていません。初期化しますか？」の警告メッセージが表示されたときは初期化が必要です。削除したくないデータがある場合は、[**いいえ**] を選んでください。必要なデータはパソコンなどに保存してください。カードを初期化してよければ、[**はい**] を選んで ⓞⓚボタンを押してください。
- 初期化中、画像の記録中や削除中、パソコンとの通信中などに以下の操作をすると、データの破損やカードの故障の原因になります。
  - バッテリー /SDカードカバーを開けて、カードやバッテリーを脱着する
  - カメラの電源を OFFにする
  - ACアダプターを外す

カメラのお手入れ方法

クリーニングについて

アルコール、シンナーなど揮発性の有機溶剤や化学洗剤、防錆剤、曇り止めは使わないでください。

レンズ/ファインダー

- ガラス部分をクリーニングするときは、手で直接触らないようご注意ください。
- ゴミやホコリはブロアーで吹き払ってください。ブロアーで落ちない指紋や油脂などの汚れは、乾いた柔らかい布やメガネ拭きなどでガラス部分の中央から外側に円を描くようにゆっくりと拭き取ってください。
- 強く拭いたり、硬いもので拭いたりすると、破損や故障の原因になることがあります。
- 汚れが取れないときは、レンズクリーナー液（市販）で湿らせた柔らかい布で軽く拭いてください。

液晶モニター

- ゴミやホコリはブロアーで吹き払ってください。指紋や油脂などの汚れは、乾いた柔らかい布やメガネ拭きなどで軽く拭き取ってください。
- 強く拭いたり、硬いもので拭いたりすると、破損や故障の原因になることがあります。

カメラボディー

- ゴミやホコリをブロアーで吹き払ってください。乾いた柔らかい布などで軽く拭いてください。
- 海辺などでカメラを使った後は、真水で湿らせてよく絞った柔らかい布で砂や塩分を軽く拭き取った後、よく乾かしてください。

ご注意：カメラ内部にゴミ、ホコリや砂などが入りこむと故障の原因になります。この場合、当社の保証の対象外になります。

保管について

カメラを長期間お使いにならないときは、バッテリーを取り出してください。また、カビや故障を防ぎ、カメラを長期にわたってお使いいただけるように、「月に一度」を目安にバッテリーを入れ、カメラを操作することをおすすめします。
カメラを以下の場所に保管しないようにご注意ください。

- 換気の悪い場所や湿度の高い場所
- テレビやラジオなど強い電磁波を出す装置の近辺
- 温度が50℃以上、または－10℃以下の場所
- 湿度が60%を超える場所

バッテリーの保管は、「取り扱い上のご注意」の「バッテリーについて」の「●保管について」（🔧4）をお守りください。

故障かな？と思ったら

カメラの動作がおかしいとお感じになったときは、ご購入店やニコンサービス機関にお問い合わせいただく前に、以下の項目をご確認ください。

- 警告メッセージを確認するには → ⚯107

電源・表示・設定関連

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
カメラの電源が突然切れる	• バッテリー残量がありません。 • 無操作状態が続いたため、オートパワーオフ機能が働きました。 • カメラの内部が高温になっています。温度が下がるまでしばらく放置してから電源を入れ直してください。 • 低温下ではカメラやバッテリーが正常に動作しないことがあります。	24 25 – 🔧3
液晶モニターに何も映らない	• 電源が入っていません。 • バッテリー残量がありません。 • 節電機能により待機状態になっています。電源スイッチ、シャッターボタンまたは ▶ ボタンを押すか、モードダイヤルを回してください。 • 液晶モニターが消灯しています。▯ ボタンを押して液晶モニターを点灯してください。 • カメラとパソコンがUSBケーブルで接続されています。 • カメラとテレビがAVケーブルまたはHDMIケーブルで接続されています。 • インターバル撮影中です。	25 24 25 15 91 91 54
液晶モニターがよく見えない	• 周囲の光が明るすぎます。暗い場所に移動するか、ファインダーをお使いください。 • 液晶モニターの明るさを調整してください。 • 液晶モニターが汚れています。 • 画面明るさブーストをお使いください。	16 16、104 🔧6 16
ファインダー内がはっきり見えない	視度調節ダイヤルで調節してください。	16
撮影日時が正しく表示されない	• 日時を設定していない（撮影時に日時未設定マークが点滅している）場合は、撮影日時が「2011/01/01 00:00」と記録されます。セットアップメニュー［**地域と日時**］で日時を正しく設定してください。 • 内蔵時計は腕時計などの一般的な時計ほど精度は高くありません。定期的に日時の設定を行うことをおすすめします。	26、104 104
撮影情報や画像情報が表示されない	撮影情報、画像情報を非表示にしている可能性があります。設定内容の情報が表示されるまで、▯ボタンを押してください。	15
［**デート写し込み**］が選べない	セットアップメニュー［**地域と日時**］が設定されていません。	26、104

付録、索引

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
[**デート写し込み**] を有効にしたのに、日付が写し込まれない	• 日付を写し込めない撮影モードになっています。 • デート写し込みが制限される他の機能の設定がされています。 • 動画には写し込みできません。	104 80 ––
設定内容が初期状態に戻ってしまった	時計用電池が切れたため、設定がリセットされました。	27
[**連番リセット**] ができない	• フォルダー番号が999に達し、そのフォルダー内にファイルがあるときは、[**連番リセット**] ができません。SDカードを交換するか、内蔵メモリー/SDカードを初期化してください。 • シーンモードが [**パノラマアシスト**] のとき、または撮影モードが P、S、A、M、U1、U2、U3 で、撮影メニュー [**連写**] が [**インターバル撮影**] のときは [**連番リセット**] ができません。	104、 ⚮83 45
液晶モニターが消灯し、電源ランプが高速点滅する	バッテリーの温度が高温になっています。電源をOFFにして、バッテリーの温度が下がるまでしばらく放置してからご使用ください。ランプの点滅が3分続くと電源は自動的にOFFになりますが、電源スイッチを押してもOFFにできます。	25
カメラの温度が高くなる	動画撮影やEye-Fiカードでの画像送信などで長時間使ったり、周囲の温度が高い場所で使ったりすると、カメラの温度が高くなることがありますが、故障ではありません。	99

●デジタルカメラの特性について

きわめてまれに、液晶モニターに異常な表示が点灯したまま、カメラが作動しなくなることがあります。原因として、外部から強力な静電気が電子回路に侵入したことが考えられます。このような場合は、電源をOFFにしてバッテリーを入れ直し、もう一度電源をONにしてみてください。これによってカメラが作動しなくなったときのデータは失われるおそれがありますが、すでに内蔵メモリーまたはSDカードに記録されているデータは失われません。この操作を行ってもカメラに不具合が続くときは、ニコンサービス機関にお問い合わせください。

撮影関連

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
撮影モードにできない	HDMIケーブルまたはUSBケーブルを外してください。	91
撮影できない	• 再生モードになっているときは、▶ ボタンまたはシャッターボタンを押してください。 • メニューが表示されているときは、MENU ボタンを押してください。 • バッテリー残量がありません。 • シーンモードが［**夜景ポートレート**］または［**逆光**］の［**HDR**］が［**OFF**］になっているときや撮影メニュー［**連写**］が［**フラッシュ連写**］のときは、内蔵フラッシュをポップアップしてください。 • フラッシュランプが点滅しているときは、フラッシュの充電中です。 • ワイヤレス増灯撮影時にグループ設定が「**A** グループ」に設定されていません。マスターコマンダーおよびリモートフラッシュのグループ設定を「**A** グループ」に設定してください。	34 13 24 41、44、54、61 61 ⚯102
ピントが合わない	• 被写体との距離が近すぎます。フォーカスモードの 🌷（マクロ AF）、またはシーンモードの［**おまかせシーン**］、［**クローズアップ**］での撮影をお試しください。 • オートフォーカスが苦手な被写体を撮影しています。 • セットアップメニュー［**AF 補助光**］を［**AUTO**］にしてください。 • シャッターボタンを半押ししたときに、被写体が AF エリア内に入っていません。 • フォーカスモードが MF（マニュアルフォーカス）になっています。 • 電源を入れ直してください。	40、42、67 33 104 32、54 67 25
画像がぶれる	• フラッシュを使ってください。 • 手ブレ補正機能やモーション検知機能を使ってください。 • BSS（ベストショットセレクター）を使ってください。 • 三脚などでカメラを安定させてください（セルフタイマーを併用すると、より効果的です）。	61 54 54 64
液晶モニターに光の帯や色むらが発生する	明るい被写体にレンズを向けるとスミアが発生することがあります。マルチ連写と動画の撮影では、太陽や太陽の照り返し、電灯などを画面内に入れずに撮影するようおすすめします。	🔆2
フラッシュ撮影時に、画像に白い点が写り込む	フラッシュの光が空気中のほこりなどに反射して写り込んでいます。フラッシュモードを⊛（発光禁止）にしてください。	62

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
フラッシュが発光しない	• フラッシュモードが ⊛（発光禁止）になっています。 • フラッシュが発光しないシーンモードになっています。 • 動画モードになっています。 • フラッシュが制限される他の機能の設定がされています。 • 別売のスピードライト（外付けフラッシュ）使用時は、内蔵フラッシュは発光しません。	62 61 98 80 ⚯101
ズームが動かない	• 撮影メニューの［**ワイドコンバーター**］が［**ON**］になっています。 • 電源が ON の状態でレンズリングを外すと、ズームは広角端に固定されます。いったん電源を OFF にして、レンズリングを取り付けてから、電源をもう一度 ON にしてください。 • ワイドコンバーターを取り外し、レンズリングを取り付けてください。	54、⚯54 ⚯54 ⚯54
電子ズームが使えない	• セットアップメニュー［**電子ズーム**］が［**OFF**］になっています。 • シーンモードが［**おまかせシーン**］、［**ポートレート**］、［**夜景ポートレート**］、［**逆光**］の［**HDR**］が［**ON**］または［**ペット**］のときは、電子ズームは使えません。 • 電子ズームが制限される他の機能の設定がされています。	104 40、41、44、45 80
［**画像サイズ**］が選べない	［**画像サイズ**］が制限される他の機能の設定がされています。	80
シャッター音が鳴らない	• セットアップメニュー［**操作音**］の［**シャッター音**］が［**OFF**］になっています。 • シーンモードが［**スポーツ**］、［**ミュージアム**］、［**逆光**］の［**HDR**］が［**ON**］または［**ペット**］になっています。 • 動画モードになっています。 • シャッター音が制限される他の機能の設定がされています。 • スピーカーをふさがないでください。	104 41、43、44、45 98 80 3
AF 補助光が点灯しない	セットアップメニュー［**AF 補助光**］が［**OFF**］になっています。［**AUTO**］に設定していても、AFエリアの位置やシーンモードによっては点灯しない場合があります。	104
画像が鮮明でない	レンズが汚れています。	☼6
画像の色合いが不自然になる	適切なホワイトバランスが選ばれていません。	72
画面や撮影画像にリング状の帯や虹色の縞模様が見える	逆光撮影や、太陽などの非常に強い光源が画面内にある撮影では、リング状の帯や虹色の縞模様（ゴースト）などが写し込まれることがあります。 光源の位置を変えるか、光源を画面内に入れずに撮影をお試しください。	–

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
画像がざらつく	被写体が暗いため、シャッタースピードが遅くなっているか、ISO感度が高くなっています。 • フラッシュを使ってください。 • 低い ISO 感度にしてください。 • 撮影状況に合わせて、撮影メニュー［**長秒時ノイズ低減**］を設定してください。	61 72 54
画像が暗すぎる（露出アンダー）	• フラッシュモードが ⊛（発光禁止）になっています。 • フラッシュが指などでさえぎられています。 • 被写体にフラッシュの光が届いていません。 • 露出を補正してください。 • ISO 感度を上げてください。 • 逆光で撮影しています。フラッシュをポップアップして、シーンモードの［**逆光**］の［**HDR**］を［**OFF**］にするか、フラッシュモードを ⚡（強制発光）にしてください。 • セットアップメニュー［**内蔵 ND フィルター設定**］が［**ON**］になっています。	62 30 61 71 72 44、61 ⚭85
画像が明るすぎる（露出オーバー）	• 露出を補正してください。 • セットアップメニュー［**内蔵 ND フィルター設定**］をお使いください。	71 104
赤目以外の部分が補正された	⚡◎（赤目軽減自動発光）やシーンモードの［**夜景ポートレート**］の赤目軽減強制発光でフラッシュ撮影すると、ごくまれに赤目以外の部分が補正されることがあります。［**夜景ポートレート**］以外の撮影モードで、フラッシュモードを⚡◎（赤目軽減自動発光）以外にして撮影してください。	41、61
美肌の効果が得られない	• 撮影条件によっては、美肌効果が適切に得られないことがあります。 • 4 人以上の顔を撮影した画像は、再生メニュー［**美肌**］をお試しください。	86 89
画像の記録に時間がかかる	以下の場合、画像の記録に時間がかかることがあります。 • ノイズ低減機能が作動したとき • フラッシュを⚡◎（赤目軽減自動発光）にして撮影したとき • シーンモードの［**ポートレート**］または［**夜景ポートレート**］で撮影したとき • 笑顔自動シャッターで撮影したとき • アクティブ D- ライティング機能で撮影したとき • ［**画質**］が［**NRW (RAW)**］、［**NRW (RAW) + FINE**］、［**NRW (RAW) + NORMAL**］または［**NRW (RAW) + BASIC**］のとき	54 62 40、41 65 54 75
［**連写**］または［**ブラケティング**］の設定ができない、または使えない	［**連写**］または［**ブラケティング**］が制限される他の機能の設定がされています。	80
COOLPIX ピクチャーコントロールが設定できない	COOLPIXピクチャーコントロールが制限される他の機能の設定がされています。	80

付録、索引

再生関連

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
再生できない	• パソコンか他社製のカメラによって画像が上書きされたか、ファイル名やフォルダー名が変更されました。 • インターバル撮影中は再生できません。 • COOLPIX P7100 以外で撮影した NRW (RAW) 画像、または動画は再生できません。	– 54 75、98
画像の拡大表示ができない	• 動画やスモールピクチャー、320 × 240 以下にトリミングされた画像は拡大表示できません。 • COOLPIX P7100 以外で撮影した画像は、拡大表示できないことがあります。	– –
音声メモの録音や再生ができない	• 動画には音声メモを付けられません。 • COOLPIX P7100 以外で撮影した画像には、このカメラで音声メモを付けられません。また、このカメラ以外で画像に音声メモを付けると、このカメラで再生できません。	102 89
画像や動画を編集できない	• 画像や動画の編集が可能な条件を確認してください。 • COOLPIX P7100 以外で撮影した画像や動画は編集できません。	70、🔗10 –
画像がテレビに映らない	• セットアップメニュー［**TV 出力設定**］の［**ビデオ出力**］または［**HDMI**］が正しく設定されていません。 • HDMI ミニ端子と USB/ オーディオビデオ出力端子の両方にケーブルが接続されています。 • 画像が記録されていないSDカードが入っています。SDカードを交換してください。内蔵メモリーの画像を再生するときはSDカードを取り出してください。	104 91 22
カメラをパソコンに接続しても、Nikon Transfer 2が自動起動しない	• カメラの電源が OFF になっています。 • バッテリー残量がありません。 • USBケーブルが正しく接続されていません。 • パソコンにカメラが正しく認識されていません。 • 対応 OS を確認してください。 • Nikon Transfer 2 が自動起動しない設定になっています。Nikon Transfer 2 については、ViewNX 2 のヘルプをご参照ください。	25 24 91 – 92 95
プリントする画像が表示されない	• 画像が記録されていない SD カードが入っています。SD カードを交換してください。 • 内蔵メモリーの画像をプリントするときは SD カードを取り出してください。	22 23
カメラ側で用紙設定ができない	PictBridge対応プリンターでも、以下の場合はカメラで「用紙設定」ができません。プリンター側で用紙サイズを設定してください。 • カメラ側で設定した用紙サイズにプリンターが対応していません。 • 自動的に用紙サイズを認識するプリンターを使っています。	🔗24、🔗25 –

付録、索引

主な仕様

ニコン デジタルカメラCOOLPIX P7100

項目		仕様
型式		コンパクトデジタルカメラ
有効画素数		10.1メガピクセル
撮像素子		1/1.7型原色CCD、総画素数10.39メガピクセル
レンズ		光学7.1倍ズーム、NIKKORレンズ
	焦点距離	6.0-42.6mm（35mm判換算28-200 mm相当の撮影画角）
	開放F値	f/2.8–5.6
	レンズ構成	9群11枚（EDレンズ2枚）
電子ズーム		最大4倍（35mm判換算で約800 mm相当の撮影画角）
手ブレ補正		レンズシフト方式
オートフォーカス		コントラスト検出方式
	撮影距離	• 先端レンズ面中央から約 50 cm ～∞（広角側）、約 80 cm ～∞ （望遠側） • マクロ AF 時は先端レンズ面中央から約 2 cm（広角側）～∞
	AFエリア	顔認識オート、オート（9点）、中央（ワイド、標準、スポット）、マニュアル（99点）、ターゲット追尾
ファインダー		実像式光学ズームファインダー 視度調節機能付き（-3～+1 m^{-1}）
	視野率	上下左右とも約80%（対実画面）
液晶モニター		広視野角3型TFT液晶、反射防止コート付き、約92万ドット 輝度調節機能付き（5段階） チルト式（下方約81°、上方約105°可動）
	視野率（撮影時）	上下左右とも約96%（対実画面）
	視野率（再生時）	上下左右とも約100%（対実画面）
記録方式		
	記録媒体	内蔵メモリー（約 94 MB）、 SD/SDHC/SDXC メモリーカード
	画像ファイル	DCF、Exif 2.3、DPOF準拠
	ファイル形式	静止画： JPEG、NRW (RAW) • RAW と JPEG の同時記録可能 音声メモ：WAV 動画：MOV（映像：H.264/MPEG-4 AVC、音声：AAC ステレオ）

項目		仕様
画像サイズ(記録画素数)		・10 M [3648×2736] ・8 M [3264×2448] ・5 M [2592×1944] ・3 M [2048×1536] ・2 M [1600×1200] ・1 M [1280×960] ・PC [1024×768] ・VGA [640×480] ・3:2 [3648×2432] ・16:9 [3584×2016] ・1:1 [2736×2736]
ISO感度(標準出力感度)		・ISO 100、200、400、800、1600、3200、Hi 1(6400相当) ・オート(ISO 100 ～ 800) ・高感度オート(ISO 100 ～ 1600) ・感度制限オート(ISO 100 ～ 200、100 ～ 400) ・ローノイズナイトモード(ISO 400 ～ 12800)
露出		
	測光方式	マルチパターン測光(256分割)、中央部重点測光、スポット測光、AFスポット測光(99点AF対応)
	露出制御	プログラムオート(プログラムシフト可能)、シャッター優先オート、絞り優先オート、マニュアル露出、AEブラケティング (Tv)、AEブラケティング(Sv)、モーション検知機能付き、露出補正(±3段の範囲で1/3段刻み)可能
シャッター		メカニカルシャッターとCCD電子シャッターの併用
	シャッタースピード	・1/2000 ～ 8 秒(P、S モード) ・1/4000 ～ 8 秒(A モード) ・1/4000 ～ 60 秒(M モード) ・4 秒(シーンモードの [打ち上げ花火]) ・1/2000 秒～ 2 秒(上記以外のモード)
絞り		電磁駆動による6枚羽根虹彩絞り
	制御段数	10(1/3 EVステップ)(広角側)(A 、Mモード)
セルフタイマー		約10秒、約2秒
内蔵フラッシュ		
	調光範囲(ISO感度設定オート時)	約0.3～9.0 m(広角側) 約0.3～4.5 m(望遠側)
	調光方式	モニター発光によるTTL自動調光
アクセサリーシュー		ホットシュー (ISO 518)、シンクロ接点、通信接点、セーフティーロック機構(ロック穴)付き
インターフェース		Hi-Speed USB
	通信プロトコル	MTP、PTP
ビデオ出力		NTSC、PALから選択可能
HDMI出力		オート、480p、720p、1080i から選択可能

入出力端子	オーディオビデオ（AV）出力/デジタル端子（USB）、HDMIミニ端子（Type C）（HDMI出力）、外部マイク端子（Φ3.5 mm ステレオミニジャック、プラグインパワー型）
言語	日本語、英語の2言語
電源	・Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL14（リチウムイオン充電池：付属）× 1 個 ・AC アダプター EH-5b（パワーコネクター EP-5A を組み合わせて使用）（別売）
撮影可能コマ数（電池寿命）※1	約350コマ（EN-EL14使用時）
動画撮影可能時間 (電池寿命) ※2	約2時間55分 （[**HD 720p (1280×720)**]、EN-EL14 使用時）
三脚ネジ穴	1/4（ISO 1222）
寸法（幅×高さ×奥行き）	約116.3×76.9×48.0 mm（突起部除く）
質量	約395 g（バッテリー、SDメモリーカード含む）
動作環境	
使用温度	0℃～40℃
使用湿度	85%以下（結露しないこと）

- 仕様中のデータは、すべて常温（25℃）、リチャージャブルバッテリー EN-EL14をフル充電で使用時のものです。

※1 電池寿命測定方法を定めた CIPA（カメラ映像機器工業会）規格によるものです。測定条件は、23(±2)℃、撮影ごとにズーム、2回に1回の割合でのフラッシュ撮影、画質［**NORMAL**］、画像サイズ［**3648 × 2736**］です。撮影間隔、メニュー表示時間、画像表示時間などにより、コマ数は変動します。

※2 1回の撮影で記録可能な時間は、SD カードの残量が多いときでも最長 29 分です。

付録、索引

Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL14

形式	リチウムイオン充電池
定格容量	7.4 V、1030 mAh
使用温度	0℃～40℃
寸法（幅×高さ×奥行き）	約38 × 53 × 14 mm（突起部除く）
質量	約48 g（端子カバーを除く）

バッテリーチャージャー MH-24

電源	AC 100～240 V、50/60 Hz、MAX 0.2 A
定格入力容量	18～24 VA
定格出力	DC 8.4 V、0.9 A
適用充電池	Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL14
充電時間	約1時間 30分（残量のない状態からの充電時間）
使用温度	0℃～40℃
寸法（幅×高さ×奥行き）	約70 × 26 × 97 mm
質量	約89 g

説明書について

- 説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。
- 製品の外観、仕様、性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

このカメラの準拠規格

- Design rule for Camera File system (DCF)：各社のデジタルカメラで記録された画像ファイルを相互に利用し合うための記録方式です。
- DPOF (Digital Print Order Format)：デジタルカメラで撮影した画像をプリントショップや家庭用プリンターで自動プリントするための記録フォーマットです。
- Exif (Exchangeable image file format) Version 2.3：デジタルカメラとプリンターの連携を強化し、高品質なプリント出力を簡単に得ることを目指した規格です。
  この規格に対応したプリンターをお使いになると、撮影時のカメラ情報を活かして最適なプリント出力を得ることができます。
  詳しくはプリンターの使用説明書をご覧ください。
- PictBridge：デジタルカメラとプリンターのメーカー各社が相互接続を保証するもので、デジタルカメラの画像をパソコンを介さずプリンターで直接プリントするための標準規格です。

索引

マーク・英数字

付録、索引

アフターサービスについて

■この製品の使い方や修理に関するお問い合わせは

- 使い方に関するご質問は、裏面に記載の「ニコン　カスタマーサポートセンター」にお問い合わせください。
- 修理に関するご質問は、裏面に記載の「修理センター」にお問い合わせください。

【お願い】

- お問い合わせいただく場合には、おわかりになる範囲で結構ですので、次の内容をご確認の上、お問い合わせください。
  「製品名」、「製品番号」、「ご購入日」、「問題が発生したときの症状」、「表示されたメッセージ」、「症状の発生頻度」など。
- ソフトウェアのトラブルの場合には、おわかりになる範囲で結構ですので、次の内容をご確認の上、お問い合わせください。
  「ソフトウェア名およびバージョン」、「パソコンの機種名」、「OSのバージョン」、「メモリー容量」、「ハードディスクの空き容量」、「問題が発生したときの症状」、「症状の発生頻度」、エラーメッセージが表示されている場合はエラーメッセージの内容など。
- ファクシミリや郵送でお問い合わせの場合は「ご住所」、「お名前」、「フリガナ」、「電話番号」、「FAX番号」を（会社の場合は会社名と部署名も）明確にお書きください。

■修理を依頼される場合は

- ニコンサービス機関（裏面に記載の「修理センター」など）、ご購入店、または最寄りの販売店にご依頼ください。
- ニコンサービス機関につきましては、詳しくは「ニコン　サービス機関のご案内」をご覧ください。

【お願い】

- 修理に出されるときは、メモリーカードがカメラ内に挿入されていないかご確認ください。
  ※内蔵メモリー内に画像データがあるときは、消去される場合があります。

■補修用性能部品について

このカメラの補修用性能部品（その製品の機能を維持するために必要な部品）の保有年数は、製造打ち切り後5年を目安としています。

- 修理可能期間は、部品保有期間内とさせていただきます。なお、部品保有期間経過後も、修理可能な場合もありますので、ニコンサービス機関またはご購入店へお問い合わせください。水没、火災、落下等による故障または破損で全損と認められる場合は、修理が不可能となります。なお、この故障または破損の程度の判定は、ニコンサービス機関にお任せください。

Nikon

製品の使い方に関するお問い合わせ

＜ニコン カスタマーサポートセンター＞

全国共通のナビダイヤルにお電話ください。

0570-02-8000

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます

営業時間：9:30 ～ 18:00（年末年始、夏期休業日等を除く毎日）

ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、（03）6702-0577 におかけください。ファクシミリでのご相談は、（03）5977-7499 にお送りください。

修理サービスのご案内

修理品のお引き取りを依頼される場合は

＜ニコン ピックアップサービス＞

下記のフリーダイヤルでお申し込みいただくと、ニコン指定の配送業者（ヤマト運輸）が、梱包資材のお届け・修理品のお引き取り、修理後のお届け・集金までを一括して提供するサービスです。全国一律の料金にて承ります。

※宅配便で扱える大きさや重さには制限があるため、取り扱いできない製品もございます。

0120-02-8155　営業時間：9:00～18:00（年末年始12/29～1/4を除く毎日）

※上記のフリーダイヤルはピックアップサービス専用です。ニコン指定の配送業者（ヤマト運輸）にて承ります。
製品や修理に関するお問い合わせは、カスタマーサポートセンター、または修理センターへお願いいたします。

修理品を宅配便などでお送りいただく場合の送り先と修理に関するお問い合わせは

＜（株）ニコンイメージングジャパン　修理センター＞

230-0052　横浜市鶴見区生麦2-2-26

0570-02-8200

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます

営業時間：9:30～17:30（土曜日、日曜日、祝日、年末年始、夏期休業日など弊社定休日を除く毎日）

ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、（03）6702-0577 におかけください。

●修理センターには、ご来所の方の窓口がございません。宅配便のみお受けします。ご了承ください。

インターネットご利用の方へ

＜ニコンイメージング／サポートページ＞

- http://www.nikon-image.com/support/
  最新の製品テクニカル情報や、ソフトウェアのアップデートに関する情報がご覧いただけます。
  ※製品をより有効にご利用いただくために、定期的にアクセスされるようおすすめします。
- http://www.nikon-image.com/support/repair/
  「ニコン　ピックアップサービス」のお申し込みや修理見積もり金額の確認、インターネットを利用して修理を申し込まれた場合の修理状況や納期の確認などがご覧いただけます。

※お問い合わせや修理を依頼をされるときには、裏面の「アフターサービスについて」も参照ください。

株式会社 ニコン
株式会社 ニコン イメージング ジャパン

Printed in Japan

FX1I02(10)

6MM09910-02